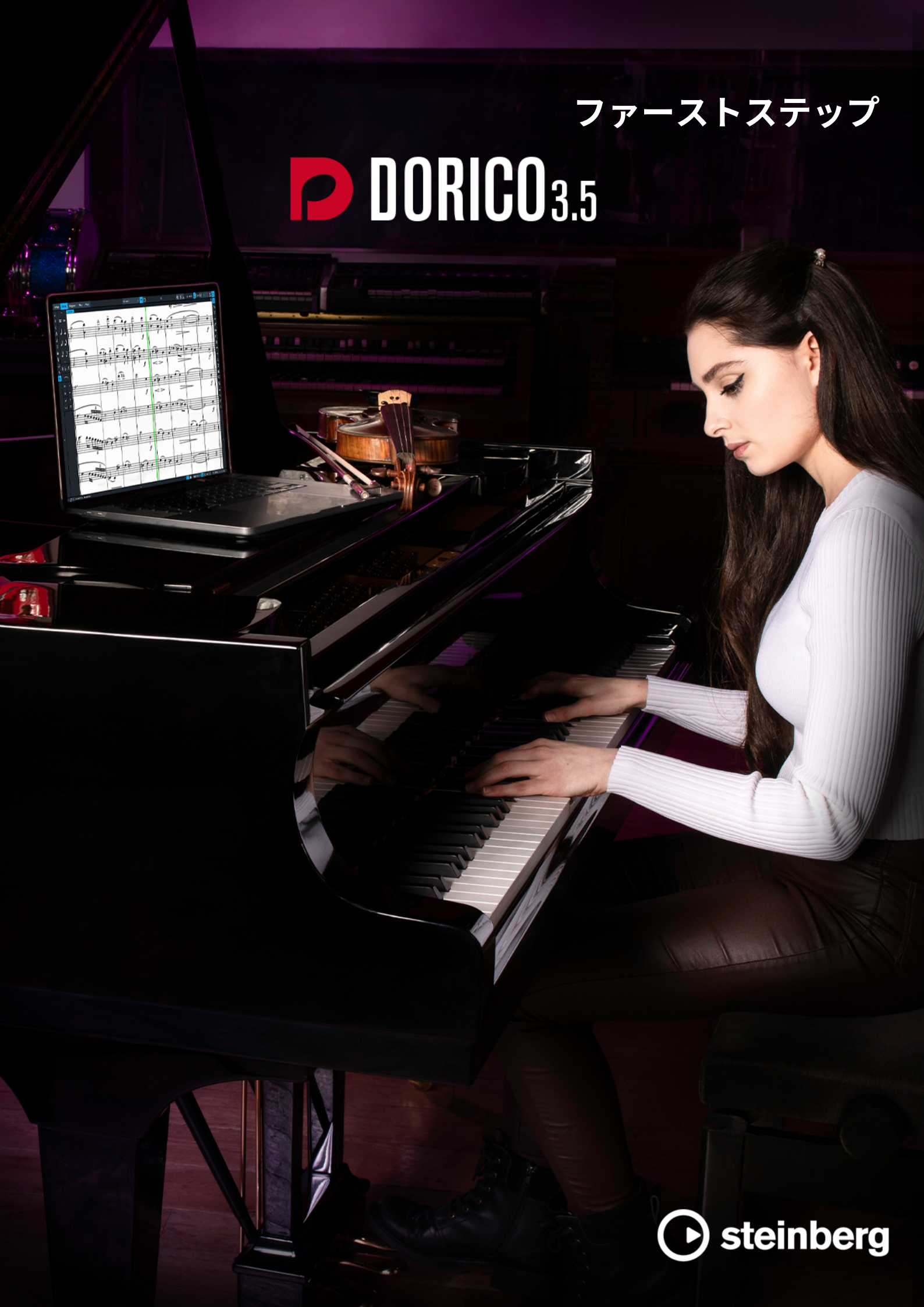


ファーストステップ

 **DORICO** 3.5



 **steinberg**

Steinberg マニュアル制作チーム: Cristina Bachmann, Heiko Bischoff, Lillie Harris, Christina Kaboth, Insa Mingers, Matthias Obrecht, Sabine Pfeifer, Benjamin Schütte

翻訳: Ability InterBusiness Solutions (AIBS), Moon Chen, Jérémie Dal Santo, Rosa Freitag, Josep Llodra Grimalt, Vadim Kupriianov, Filippo Manfredi, Roland Münchow, Boris Rogowski, Sergey Tamarovsky

このマニュアルは、目の不自由な方や視力の弱い方へのアクセシビリティに配慮しています。このマニュアルは複雑かつ多くの図が使用されているため、図の説明は省略されていることをご了承ください。

本書の記載事項は、Steinberg Media Technologies GmbH 社によって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書に掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。本書で取扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます(バックアップコピー)。Steinberg Media Technologies GmbH 社の書面による承諾がない限り、目的や形式の如何にかかわらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。本製品のライセンス所有者は、個人利用目的に限り、本書を1部複製することができます。

本書に記載されている製品名および会社名は、すべて各社の商標、および登録商標です。詳しくは、www.steinberg.net/trademarks をご覧ください。

© Steinberg Media Technologies GmbH, 2021.

All rights reserved.

Dorico_3.5.12_ja-JP_2021-12-10

目次

4	はじめに	74	再生テンプレートの適用
4	ユーザーインターフェースの紹介	75	楽譜の再生
6	モードの機能	76	再生時の強弱記号レベルを変更する
7	Dorico プロジェクト	79	poco rit. の最終的なテンポの変更
8	キーボードショートカット	80	音符の演奏されるデュレーションの変更
9	プロジェクトの設定	83	印刷と書き出し
9	新規プロジェクトの開始	83	ハードコピーの印刷
10	ソロピアノプレイヤーの追加	84	PDF への書き出し
11	余分なレイアウトの削除	86	オーディオの書き出し
12	楽譜の作成	88	その他の記譜記号
12	ポップオーバー	88	歌詞の追加
13	調号の追加	90	フェルマータの追加
14	拍子記号の追加	91	ミュートの演奏技法の追加
15	小節の追加	92	コード記号の追加
16	キャレット	94	スラッシュ符頭の追加
16	上の譜表にメロディーを入力する	97	小節リピート記号の追加
18	下の譜表に和音を入力する	98	別の譜表の上にコード記号を表示する
21	臨時記号の追加	99	ドラムセットの追加
23	上の譜表に別の声部を追加する	102	ドラムセットの音符入力
25	スラーの追加	104	トレモロの追加
27	タイの入力	105	ドラムセットのスウィング再生の有効化
29	強弱記号の追加	106	フルスコアからドラムセットを削除する
31	アーティキュレーションの追加	108	最後に
33	和音にアルペジオ記号を追加する	110	索引
34	テンポ記号の追加		
36	音部変更記号の追加		
38	休符の削除		
38	連符の入力		
41	装飾音符の追加		
43	オクターブ線の追加		
44	小節番号 33 ~ 35 の楽譜の入力		
46	音符を別の譜表まで伸ばす		
47	音符の書き換え		
48	左右の手の指示記号の追加		
50	リピート括弧の追加		
51	楽譜の作成の仕上げ		
53	ページの配置および形式設定		
53	タイトルと作曲者の追加		
55	マスターページとトークン		
56	フロー見出しを非表示にする		
57	譜表ラベルを非表示にする		
58	ページのサイズと余白の変更		
59	著作権テキストフレームの削除 (Dorico Pro のみ)		
61	譜表サイズの変更		
62	垂直方向のスペーシング設定の変更		
63	音符と譜表をまたぐ連桁のスペーシングの変更		
64	左ページから始める		
65	符尾の方向の変更		
66	連桁のグループ化の変更		
68	強弱記号の整列		
69	スラーの形状の調節 (Dorico Pro のみ)		
71	アイテムの表示位置の移動 (Dorico Pro のみ)		
73	楽譜の再生		
73	オーディオ出力デバイスの変更		

はじめに

ファーストステップガイドへようこそ。このガイドは、短いピアノ曲とブルースソングの抜粋を作成して準備するために必要なすべての手順をご紹介しますことで、Dorico を初めてご使用される方の手助けとなるように作成されています。

このガイドを通じて原理とテクニックを学ぶことで、一般的な操作に慣れ、ご自身のプロジェクトに自信を持って取り組めるようになっていただければ幸いです。

このガイドでは、次の内容について説明します。

- ユーザーインターフェースとその最も重要な部分
- Dorico のさまざまなモードとその機能
- プロジェクトの設定
- 短いピアノ曲の制作に必要な楽譜の記譜方法と記譜記号の追加方法、およびその他の楽曲において一般的ないくつかの記譜記号
- 連桁のグループ化や符尾の方向などの記譜記号の調節を含む、ページの配置および形式設定
- 楽譜の再生と再生の調節
- 印刷と書き出し

これらのタスクで使用するピアノ曲は、ドーラ・ペヤチェヴィチの『ワルツ・カプリス 2 番』です。参照用に、楽譜全体の PDF を [steinberg.help](https://www.steinberg.help) からダウンロードできます。

比較的短い曲ですが、この中には強弱記号とアーティキュレーション、複声部、和音、譜表をまたぐ連桁など、ほとんどの音楽スタイルに共通する多くの記譜記号が含まれています。歌詞やコード記号など、この曲に含まれていないその他の一般的な記譜記号については、ガイドの最後のセクションで説明しています。

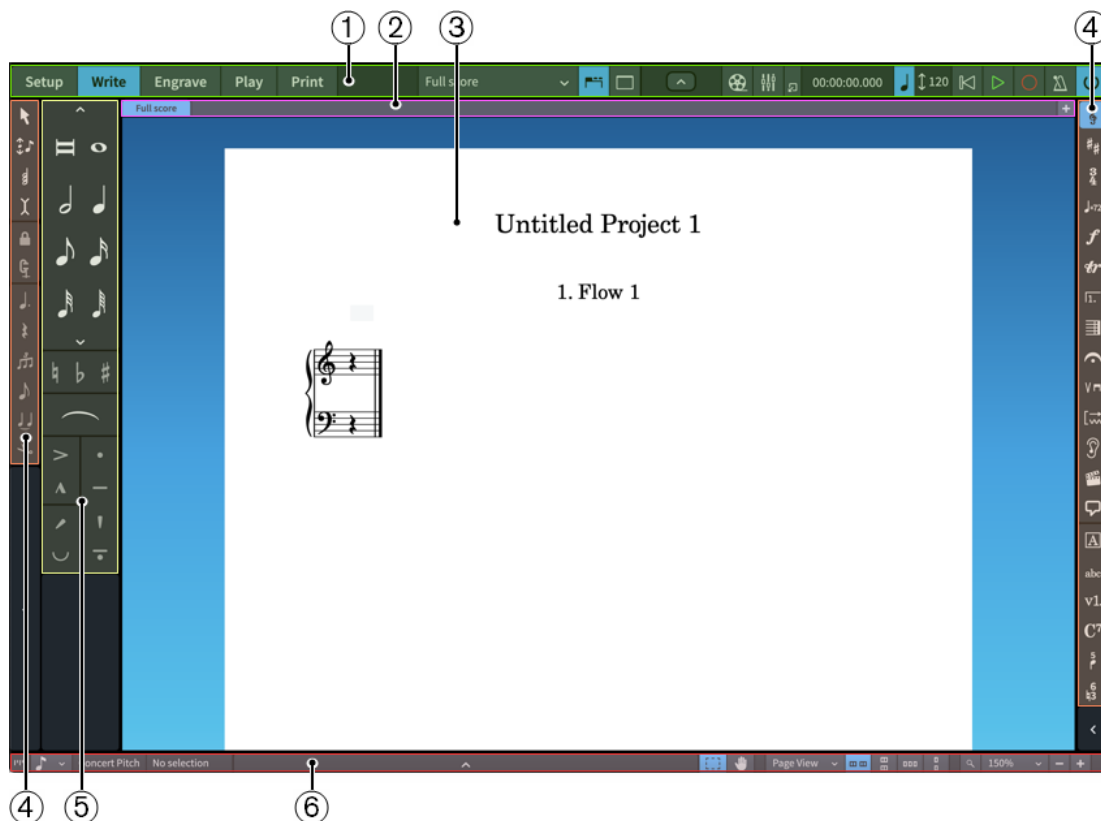
補足

- このガイドで使用されているスクリーンショットは Dorico Pro のものです。特に明記しない限り、タスクはすべての製品バージョンで実行できます。
- このガイドの内容に関する詳細は、オペレーションマニュアルを参照してください。

ユーザーインターフェースの紹介

Dorico では、ユーザーインターフェースとは、プロジェクトウィンドウ内のすべてを指します。その基本構造はすべてのモードに共通しています。

プロジェクトウィンドウはこのように表示され、以下の領域で構成されています。



1 ツールバー

プロジェクトウィンドウの上部に配置されています。

ツールバーの左側には、各モードのボタンがあります。モードを変更すると、ワークスペースと表示されるパネルが変わります。現在のモードのボタンは強調表示されます。各モードについては、次のトピックで詳しく説明します。

補足

Dorico Elements と Dorico SE には浄書モードがないため、「**浄書 (Engrave)**」ボタンがありません。

ツールバーの中央には、楽譜領域に表示するレイアウトを変更するためのレイアウトセクターと、パネルとタブの表示/非表示を切り替えるボタンがあります。

ツールバーの右側には、**ビデオ**、**ミキサー**、**トランスポート**の各ウィンドウの表示/非表示を切り替えるボタンと、再生と録音のトランスポートを備えたミニトランスポートがあります。

2 タブバー

タブバーは、プロジェクトウィンドウ上部のツールバーと楽譜領域の間にあります。設定モード、記譜モード、浄書モードで使用できます。

タブバーには、現在開いているタブと、各タブで開いているレイアウトの名前が表示されており、タブをさらに開くことができます。楽譜領域を分割して複数のタブを開く場合は、タブグループが表示されます。

3 プロジェクト開始領域/楽譜領域/イベントディスプレイ/印刷プレビュー領域

プロジェクトウィンドウの中心部であり、ここでプロジェクトの作業を行ないます。新規空白プロジェクトを設定すると、設定モード、記譜モード、および浄書モードのこの領域にプロジェクト開始領域が表示され、最初のプレーヤーを追加できます。

プレーヤーまたはアンサンブルを追加すると、この領域は楽譜領域となり、作成したスコアやインストゥルメントパートが表示されます。

再生モードでは、この領域にはイベントディスプレイが表示されます。イベントディスプレイでは、すべての音符がピアノロールまたはドラムエディターにイベントとして表示され、楽譜の再生をコントロールするエフェクトが表示されます。

印刷モードでは、この領域は印刷プレビュー領域になります。ここでは、レイアウトがどのように用紙に印刷されるか、またはどのようにグラフィックファイル形式に書き出されるかがプレビューとして表示されます。

ヒント

Dorico では、スコアとインストゥルメントパートはレイアウトと呼ばれます。レイアウトでは、楽譜をさまざまな形式で表示できます。弦楽四重奏など、個別のインストゥルメントパートを含むプロジェクトでは、フルスコアレイアウトを表示するか各パートレイアウトを表示するかを現在のタブで切り替えることができます。タブは必要な数だけ開くことができます。


4 ツールボックス

ツールボックスはプロジェクトウィンドウの左右の端にあります。ツールボックスには、現在のモードに応じてさまざまなツールやオプションが表示されます。ツールボックスを使用すると、音符、記譜項目、フレームを入力および変更したり、対応するパネルに表示するオプションを設定したりできます。


ツールボックスは常に表示されており、非表示にすることはできません。

5 パネル

パネルとは、プロジェクトウィンドウの左右および下部にある領域です。パネルには、楽譜の作成や編集に必要な機能、オプション、音符および記譜記号がモードに応じて表示されます。たとえば、記譜モードの左には音符パネルがあり、音符のデュレーション、一般的な臨時記号、スラー、アーティキュレーションなどが含まれています。

パネルの表示/非表示は、個別に切り替えることもまとめて切り替えることもできます。すべてのパネルの表示/非表示を切り替えるには、ツールバーの「**パネルを非表示/再表示 (Hide/Restore Panels)**」 をクリックします。個々のパネルの表示/非表示を切り替えるには、左パネルの場合は **[Ctrl]/[command]+[7]**、下パネルの場合は **[Ctrl]/[command]+[8]**、右パネルの場合は **[Ctrl]/[command]+[9]** を押します。

6 ステータスバー

ステータスバーとは、プロジェクトウィンドウの下部にある細長い部分です。ステータスバーでは、リズムグリッドの間隔を変更したり 、楽譜領域の異なるビューやページ配置を選択したり、表示倍率を変更したり、現在選択しているアイテムに関する情報を表示したりできます (音符を選択した小節番号など)。ステータスバーはモードによって含まれるオプションが異なります。

モードの機能

Dorico には、設定、記譜、浄書、再生、印刷の各モードがあります。モードは、スコアやパートを作成するためのワークフローのフェーズのことです。そのため、含まれるツールボックス、パネル、および機能はモードごとに異なります。

設定モード

設定モードでは、インストゥルメントやそのインストゥルメントを割り当てるプレーヤー、フロー、レイアウト、ビデオなど、プロジェクトの基本的な要素を設定できます。また、たとえばレイアウトに割り当てられたプレーヤーを変更するなど、それらが互いにどのように作用するかも設定できます。

設定モードでは、楽譜領域の楽譜を表示したり、他のタブやレイアウト間で表示を切り替えたりできますが、楽譜領域内のアイテムを選択したり、編集したりすることはできません。

記譜モード

記譜モードでは、楽譜を入力できます。また、アイテムの位置や音符のピッチを変更したり、音符やアイテムを削除したりして、楽譜を編集できます。ツールボックスとパネルを使用し、最も一般的に使用されるすべての音符および記譜項目を入力できます。

設計により、記譜モードでページ上の音符やアイテムの表示位置を動かすことはできません。表示位置の調整は浄書モードでのみ行なえます。

浄書モード (Dorico Pro のみ)

浄書モードでは、記譜モードで入力した楽譜を微調整したり、プロジェクトのページレイアウトを決定したりできます。

浄書モードはレイアウトの形式設定と外観に重点を置いているため、音符やアイテムを削除したり、音符のリズム上の位置やピッチを変更したりすることはできません。

再生モード

再生モードでは、再生時に楽譜をどのように発音するかを変更できます。たとえば、再生テンプレートの変更や VST インストゥルメントの割り当て、オートメーションの入力、ミキシングの調節などを行なえるほか、再生時に記譜上のデュレーションに影響を与えずに音を発音するデュレーションを変更することもできます。

印刷モード

印刷モードでは、レイアウトを印刷したり、グラフィックファイルとして書き出したりできます。レイアウトの印刷時に、用紙サイズのほか、両面印刷や冊子印刷などのオプションを指定できます。レイアウトの書き出し時に、PDF や PNG などのさまざまなグラフィックファイル形式を指定できるほか、書き出す際のファイル名に含める情報も設定できます。

次のいずれかの方法で、いつでもモードを切り替えることができます。

- **[Ctrl]/[command]** と **[1]** から **[5]** のいずれかの数字を押します (設定は **[Ctrl]/[command]+[1]**、記譜は **[Ctrl]/[command]+[2]**、浄書は **[Ctrl]/[command]+[3]**、再生は **[Ctrl]/[command]+[4]**、印刷は **[Ctrl]/[command]+[5]**)。
- ツールバーの対応するボタンをクリックします。
- 「ウィンドウ (Window)」 > 「モード」を選択します。

Dorico プロジェクト

プロジェクトとは、複数のインストゥルメントとそれぞれの楽譜や再生設定など、必要なすべての音楽情報が含まれた個々のファイルのことです。

Dorico では、個別の楽譜の範囲のことをフローと呼びます。アルバム内の 1 楽曲、ソナタや交響曲の 1 楽章、ステージミュージカルの 1 曲目、または数小節からなる短い音階練習曲や初見練習曲をフローとして作成できます。1 つのプロジェクトに複数のフローを含めることができ、フローごとにプレーヤーを自由に組み合わせることができます。たとえば、ある楽章で金管楽器のプレーヤーがタチェットになっている場合、そのフローからはそれらのプレーヤーを削除し、他のフローには残しておくことができます。

プレーヤーとは、インストゥルメントを持つ演奏者を指します。ソロプレーヤーとは、アルトサクソフォンも演奏するクラリネット奏者や、さまざまな打楽器を演奏する打楽器奏者など、1 つ以上のインストゥルメントを演奏できる 1 人のプレーヤーを指します。セクションプレーヤーとは、オーケストラのバイオリンセクションや合唱のソプラノセクションなど、全員が同じインストゥルメントを演奏する複数のプレーヤーを指します。セクションプレーヤーが持てるインストゥルメントは 1 つだけですが、Dorico Pro ではセクションプレーヤーを小規模なユニットや複数の譜表に分けることができます。

レイアウトでは、フローやプレーヤーの音楽コンテンツを組み合わせることでページの形式設定を行ない、ページ番号付きの楽譜を作成できます。プレーヤーとフローを自由に組み合わせ、1 つのプロジェクト内にいくつでもレイアウトを作成できます。たとえば、ボーカルスコアのレイアウトにはリハーサル用のピアノプレーヤーを含め、フルスコアでは非表示にできます。異なるレイアウトでは、ページサイズ

や余白だけでなく、記譜記号の外観も変えることができます。フルスコアレイアウトとパートレイアウトはデフォルト設定が異なります。

キーボードショートカット

キーボードショートカットは、一緒に押すと設定されたタスクが実行されるキーの組み合わせです。多くのキーボードショートカットはオペレーティングシステムが異なっても同じですが、中には違う場合もあるため、このガイドではそれらについて説明します。

キーボードショートカットが各オペレーティングシステムの同等の修飾キーを使用する場合、それらの修飾キーはスラッシュで区切り、最初に Windows の修飾キー、次に macOS の修飾キーを表示します。

例

[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓] の意味: Windows では **[Ctrl]+[Alt]+[↓]** を押し、macOS では **[command]+[Opt]+[↓]** を押します。

キーボードショートカットがオペレーティングシステムによってまったく異なる場合は、最初に Windows のキーボードショートカットを表示し、そのあとに macOS のキーボードショートカットを表示します。

例

[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS) の意味: Windows では **[Ctrl]** を押し、macOS では **[Opt]** を押します。

Dorico では、マウスによる入力を好むユーザーと、コンピューターキーボードのみでの入力を好むユーザーの要望に応えるために、多くのアイテムを複数の方法で入力できるようになっています。このガイドは、操作の手順をシンプルにするためにキーボードを使用する方法に重点を置いています。もう1つの理由として、Dorico のキーボードショートカットは合理的であると同時に、テンキーを使用せず標準的なコンピューターキーボードで入力できるように設計されています。ただし、このガイドにはマウス入力の方法について触れている箇所もあります。

例

矢印キーを押すと楽譜領域内を移動できます。**[Alt/Opt]** と矢印キーと一緒に押すと、記譜モードでは音符や記譜記号のリズム上の位置が移動し、浄書モードでは表示位置がわずかに移動します。たとえば、**[Alt/Opt]+[↑]/[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、音符が上下に1度ずつ移調されます。さらに **[Ctrl]/[command]** も一緒に押すと、音符やアイテムの移動幅が大きくなります。たとえば、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押すと音符がオクターブ単位で上下に移調されます。

プロジェクトの設定

このソロピアノ曲のプロジェクトの設定を経験していただくために、次のタスクでは新規プロジェクトの開始、ピアノの追加、余分なパートレイアウトの削除について説明します。

新規プロジェクトの開始

Dorico で楽譜を作成するための最初の手順は、新規プロジェクトを開始することです。ここでは、個々のインストゥルメントやプレーヤーを自分で追加する方法を学べるように、空のプロジェクトを開始する方法について説明します。

前提条件

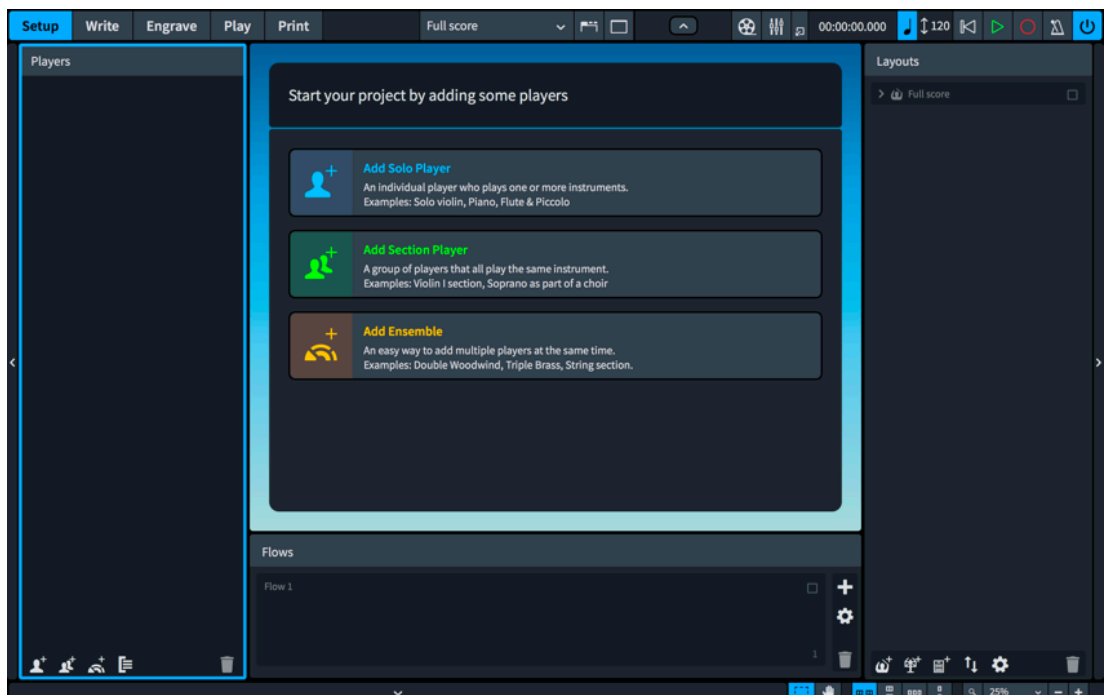
Dorico をインストールして開いておきます。

手順

- **[Ctrl]/[command]+[N]** を押して新規プロジェクトを開始します。
 - 「ファイル (File)」 > 「新規 (New)」 を選択してもかまいません。

結果

新しいプロジェクトウィンドウが開きます。



新しい空のプロジェクトが設定モードで開始されます。これで、プレーヤーとインストゥルメントをすぐに追加できます。少なくとも 1 人のプレーヤーを追加すると、中央のプロジェクト開始領域が楽譜領域になり、譜表が表示されます。

左側の「**プレーヤー (Players)**」パネルには、プロジェクト内のすべてのプレーヤーが表示されます。まだプレーヤーを追加していないので現在は空白です。

右側の「レイアウト (Layouts)」パネルには、「フルスコア (Full score)」レイアウトカードが表示されます。このレイアウトは、すべての新規プロジェクトに自動的に作成されます。

ウィンドウの下部には「フロー (Flows)」パネルがあります。プロジェクト内のすべてのフローがここに表示されます。


ヒント

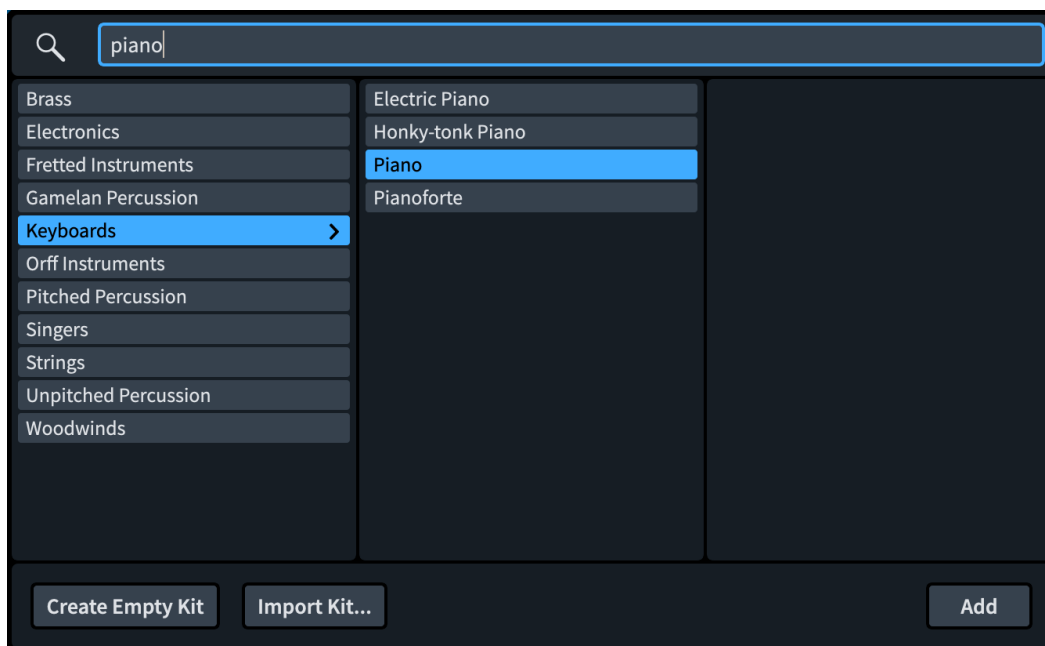
Dorico には、弦楽四重奏や混声八部合唱などのさまざまなプレイヤーのセットがすでに含まれたプロジェクトテンプレートが用意されています。

ソロピアノプレイヤーの追加

ここではソロピアノ用の楽譜を作成するため、ソロプレイヤーを 1 人追加して、そこにピアノインストゥルメントを割り当てる必要があります。

手順

1. **[Shift]+[P]** を押すと、新規ソロプレイヤーが追加されてインストゥルメントピッカーが開きます。
 - プロジェクト開始領域の「ソロプレイヤーを追加 (Add Solo Player)」 をクリックしても構いません。
2. インストゥルメントピッカーの検索フィールドに「piano」と入力します。

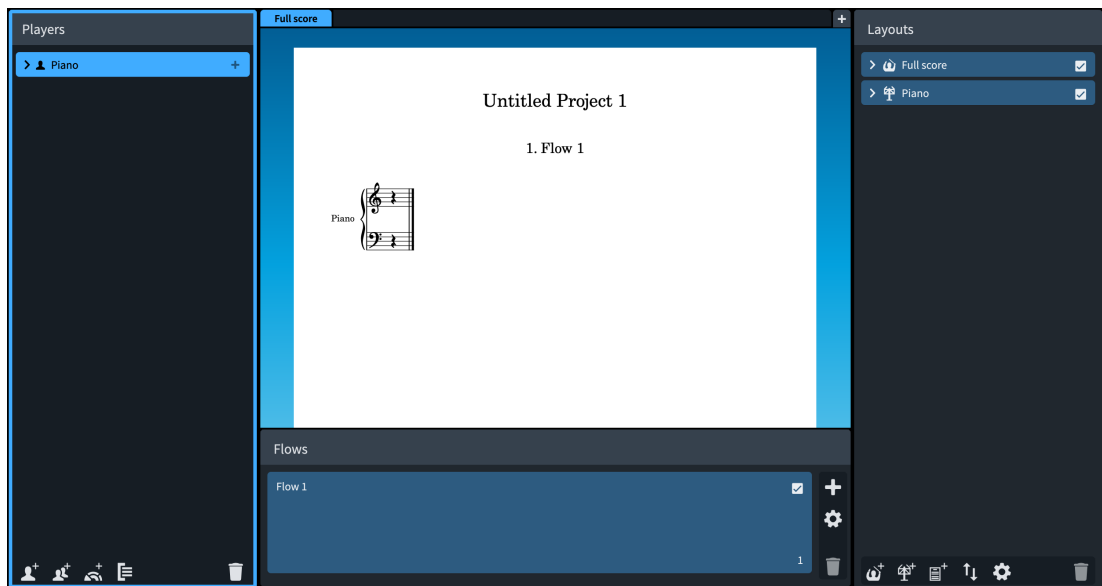


3. 「追加 (Add)」をクリックするか **[Return]** を押します。

結果

ソロプレイヤーが追加され、そこにピアノインストゥルメントが割り当てられました。楽譜領域には、必要なピアノ譜とそれぞれの音部記号が表示されます。

ウィンドウの右側にある「レイアウト (Layouts)」パネルには、既存のフルスコアレイアウトに加えてピアノパートレイアウトが表示されています。プロジェクトに追加したすべてのプレイヤーについて、パートレイアウトが自動的に作成されます。

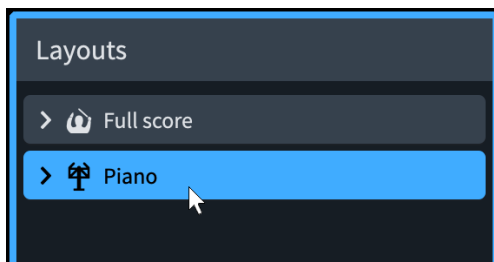


余分なレイアウトの削除

この楽曲にはプレーヤーが1人しか含まれていないため、初期設定で作成されるパートレイアウトを削除してフルスコアだけでも構いません。プレーヤーが1人のプロジェクトでは、レイアウトを1つだけにするだけで作業内容を把握しやすくなります。

手順

1. 右側の「レイアウト (Layouts)」パネルで、「Piano」レイアウトを選択します。



2. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押します。
 - パネル下部のアクションバーにある「レイアウトを削除 (Delete Layout)」 をクリックしても構いません。

結果

ピアノのパートレイアウトが削除され、フルスコアレイアウトだけが残ります。

手順終了後の項目

プロジェクトを保存することをおすすめします。

楽譜の作成

プロジェクトの設定が完了したら、楽譜の作成を開始できます。これ以降のタスクでは、このピアノ曲に必要な音符と記譜項目を入力する方法について説明します。わかりやすいように、アイテムごとに個別のタスクを用意していますが、Dorico はほとんどのアイテムを音符や他の記譜記号の入力と同時に入力できるように設計されています。そのため、たとえば強弱記号を追加するために音符の入力を中断する必要はありません。

歌詞やコード記号など、この曲に含まれていないその他の一般的な記譜記号については、ガイドの最後のセクションで説明しています。

いくつかの手順では、特定の小節で操作を行いません。現在選択しているアイテムの小節番号は、ウィンドウの下部のステータスバーに表示されます。また、システムトラック (組段の上の半透明のグレーのライン) にもすべての小節番号が表示されます。システムトラックの表示/非表示は、**[Alt/Opt]+[T]** を押して切り替えることができます。また、すべての小節に小節番号を表示するには、**[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開き、ダイアログの左側にあるカテゴリーリストで「**小節番号 (Bar Numbers)**」をクリックし、「**頻度 (Frequency)**」サブセクションで「**小節番号を表示 (Show bar numbers)**」に「**1 小節ごと (Every bar)**」を選択します。

ポップオーバー

これ以降のタスクでは、調号や強弱記号などの記譜記号を入力するためにポップオーバーを使用します。ポップオーバーとは、譜表の上に表示される一時的な値フィールドであり、テキストエントリーを使用してさまざまなアイテムを入力したりタスクを実行したりできます。

調号を入力したり、既存の音符の上に特定の音程の音符を追加したりするなど、目的ごとに専用のポップオーバーが用意されています。ポップオーバーは記譜モードでのみ使用できます。



エントリーの例が入力された強弱記号のポップオーバー

ポップオーバーの主なメリットは、音符を入力しながら使用できるという点です。たとえば、新しい拍子記号を入力したい位置まできたら、キーボードショートカットを使用して拍子記号のポップオーバーを開き、使用する拍子記号を入力し、音符の入力を続けることができます。


多くの記譜記号に対して特定のエントリーを入力する必要がありますが、各記譜記号のエントリーは一貫して論理的に構造化されています。たとえば、連符は常に、3:2 や 5:4 などの比率で表わされます。調号は、メジャーキーには大文字、マイナーキーには小文字を使用して表わされます。拍子記号は一對の数字で表わされ、一般的な拍子記号には、3/4 や 6/8 のようにスラッシュを使用します。

ポップオーバーは左側のアイコンで見分けることができます。これらのアイコンは、ウィンドウの右側にある記譜ツールボックスのアイコンと同じです。記譜ツールボックスでは、対応する記譜パネルの表示/非表示を切り替えることができます (マウスを使用して記譜記号を入力する場合は、記譜パネルから行ないます)。

調号の追加

Dorico のすべての新規プロジェクトは調号がない状態で始まります。これは無調、つまり暗示された調性がないものとして扱われます。この楽譜は Ab メジャーなので、調号を入力する必要があります。

前提条件

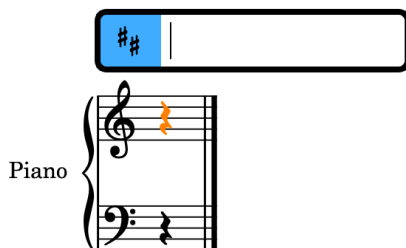
- 記譜モードを開いておきます。記譜モードを開いている場合はツールバーの「記譜 (Write)」が強調表示されます。別のモードを開いている場合は、**[Ctrl]/[command]+[2]** を押すか、ツールバーの「記譜 (Write)」をクリックして記譜モードに切り替えます。
- ズームインしたい場合は、たとえば、**[Z]** 又は **[Ctrl]/[command]+^** を押すか、プロジェクトウインドウ下部のステータスバーにあるズームオプション  を使用してズームインしておきます。

手順

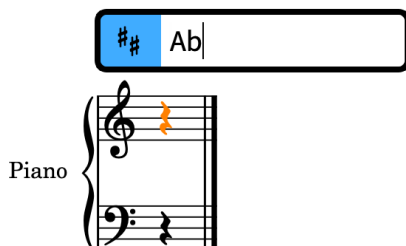
1. 上の譜表の休符をクリックします。



2. **[Shift]+[K]** を押して調号のポップオーバーを開きます。



3. ポップオーバーに「Ab」と入力します。



- 大文字は長調の調号を表わし、小文字は短調の調号を表わします。また、「b」を入力してフラットを、「#」を入力してシャープを追加することもできます。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

休符の開始位置、つまりフローの開始位置に Ab メジャーの調号が入力されます。この調号は最初の音部記号の右側に自動的に配置されます。



ヒント

調号は、ウィンドウの右側にある調号、調性システム、臨時記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」をクリックします。ポップオーバーを開くかわりに、ディスプレイに4つのフラットが表示されるまで「調号 (Key Signatures)」セクションの下矢印をクリックし、「長調 (Major)」が選択されていることを確認して、その調号をクリックしても入力できます。

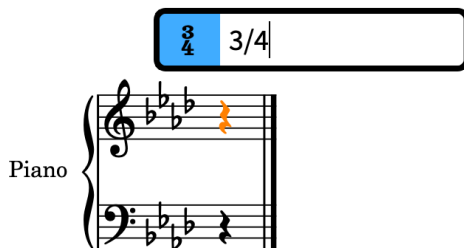
拍子記号の追加

初期設定では、Dorico のすべての新規プロジェクトは拍子記号がない状態で始まります。この曲は 3/4 拍子なので、拍子記号が必要です。

拍子記号がなくても音符は入力できますが、小節を追加できるのは、拍子記号を入力して Dorico が小節の長さを認識できるようになってからです。拍子記号はいつでも変更したり削除したりできます。そのたびに、小節線が自動的に移動し、音符の記譜方法が調整されます。

手順

1. 上の譜表の休符をクリックします。
2. **[Shift]+[M]** を押して拍子記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「3/4」と入力します。




4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した休符の位置、つまりフローの開始位置に 3/4 の拍子記号が入力されます。この拍子記号は、最初の音部記号と調号の右側に自動的に表示されます。これで、フロー内に 1 小節分のスペースができました。



ヒント

拍子記号は、ウィンドウ右側にある拍子記号 (拍子) パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「拍子記号 (Time Signatures (Meter))」をクリックします。

小節の追加

音符の入力中に、最後の小節の終了位置まで到達すると、小節が自動的に作成されます。ただし、必要なすべての小節をあらかじめ用意しておくとう便な場合があります。

前提条件

Dorico が小節の長さ認識できるように、拍子記号を入力しておきます。

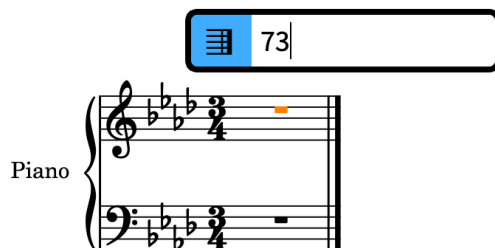
手順

1. 上の譜表の休符を選択します。

- アイテムをクリックして選択することも、キーボードを使用して選択することもできます。楽譜領域で何も選択されていない場合は、いずれかの矢印キーを押すと、一番上の譜表の最初の音符または休符が選択されます。**[→]**/**[←]**を押すと、1つの譜表上の別の音符に移動し、**[↑]**/**[↓]**を押すと和音内の上下の音符や上下の譜表に移動します。**[Tab]**を押すと、音符や強弱記号やスラーなど、同じ位置にある別の種類のアイテムに移動します。

2. **[Shift]+[B]** を押して小節や小節線のポップオーバーを開きます。

3. ポップオーバーに「73」と入力します。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

73 個の小節が追加され、フロー内の小節の総数が、この楽譜に必要な 74 個になりました。現在は小節が空白のためスペースが狭いですが、音符を入力すると Dorico によって自動的に幅が調整されます。



手順終了後の項目

調号のポップオーバー (**[Shift]+[K]**) を使用し、ポップオーバーエントリ「Db」と「Ab」をそれぞれ入力して、小節番号 33 に Db メジャーへの調号の変更、小節番号 43 に Ab メジャーへの変更を入力します。調号の変更の位置には自動的に複縦線が表示されます。

キャラット

これ以降のタスクでは、キャラットを使用して音符を入力します。Dorico では、キャラットは、音符、和音、または記譜項目を入力できる位置を示す縦線です。

キャラットの横には、現在選択している声部の符尾の方向とタイプを示す音符記号が表示されます。その声部が新しい場合は一緒にプラス記号が表示されます。



キャラットの外観と動作は、入力モードと現在選択している声部の番号に応じて変わります。たとえば、音符の入力中は音符を入力するたびにキャラットが次のリズム上の位置に自動的に移動しますが、和音やタブ譜上の音符を入力する場合はキャラットが自動的に移動しません。また、装飾音符を入力するときやスラッシュ付き声部に音符を入力するとき、あるいは挿入モードや和音モードが有効になっているときはキャラットの外観が変化します。

上の譜表にメロディーを入力する

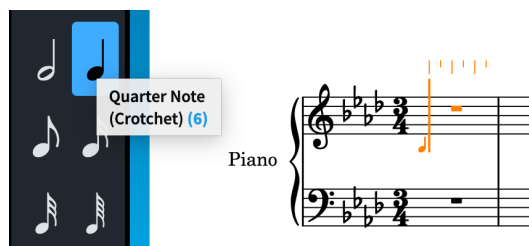
この楽譜では、メロディーは上のト音譜表にあります。メロディーの最初のいくつかの小節については、個々の音符を連続で入力する必要があります。

手順

1. 小節番号 1 で、上の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
 - キャラットが有効になり、譜表上に表示されていれば、音符の入力中であることがわかります。また、キャラットが有効なときは、譜表の上にリズムグリッドを示すラインが表示されます。



ウィンドウの左側にある音符パネルで、4分音符ボタンが強調表示されています。これは、次に入力する音符に使用される音符のデュレーションを示しています。音符入力開始時のデフォルトの音符のデュレーションは4分音符です。



- しかし、この楽譜のメロディーの最初の4つの音符は8分音符です。

3. **[5]** を押して8分音符を選択します。

- 音符のデュレーションのキーボードショートカットにはコンピューターキーボードの上部にある数字キーを使用しますが、テンキーを使用してもかまいません。**[6]** が4分音符で、数字が小さくなるほどデュレーションが小さくなり、数字が大きくなるほどデュレーションが大きくなります。
- キャレットはまだ小節の開始位置にありますが、このメロディーの最初の音符は2拍めです。ただし、そこにいくために休符を入力する必要はありません。

4. **[Space]** を2回押して8分音符2つ分キャレットを進めます。

- 音符の入力中に **[Space]** を押すと、音符パネルで現在選択中の音符のデュレーションの分だけキャレットが進みます。



5. **[F]**、**[G]**、**[A]**、**[B]** の順に押して、各ピッチを入力します。

- 4つの音符が8分音符としてキャレットの位置から入力されます。Dorico では音符は自動的に連符で連結され、小節の最初に4分休符が表示されます。



- 音符のピッチにはコンピューターキーボードのA～Gの文字が使われます。調号に含まれている臨時記号の付いた音符は、特に指定しない限り、自動的に調号に従います。そのため、**[A]** と **[B]** を押すと、AbとBbが入力されます。
- 次の音符は8分音符ではなく付点2分音符です。

6. **[7]** を押して2分音符を選択したあと、**[.]** (ピリオド) を押して付点を追加し、デュレーションを付点2分音符にします。

補足

テンキーではなくコンピューターキーボードの **[.]** を押す必要があります。

7. **[G]** を押してGの付点2分音符を入力します。



- Dorico では、前の音符からの間隔が一番小さい音符が自動的に選択されるため、ここでは前の B の 6 度上ではなく 3 度下に G が入力されます。

8. 小節番号 3～4 に手順 3～7 を繰り返します。

ヒント

または、**[Esc]** を押して音符の入力を終了し、上の譜表の小節番号 1～2 (4 分休符を含む) を選択したあと、**[R]** を押してそのすぐあとに素材を直接繰り返すこともできます。


9. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

上の譜表の最初の 4 小節に必要な音符がすべて入力されました。



ヒント

キュレットが有効かつ音符ツールボックスの「選択 (Select)」 が無効な状態で譜表をクリックするか、接続された MIDI キーボードで演奏して音符を入力することもできます。

手順終了後の項目

このタスクで学んだ方法を使用して、引き続き小節番号 8 の最後まで上の譜表に音符を入力します。小節番号 6 の最後に高い F を入力したあと、小節番号 7 の最初に低い F を入力するには、**[Ctrl]+[Alt]+[F]** (Windows) 又は **[Ctrl]+[F]** (macOS) を押します。高い F を入力した場合は、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押して 1 オクターブ下に移調します。

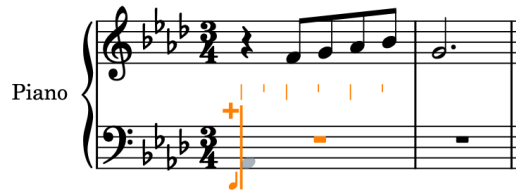
連桁のグループ化の変更については別のタスクで説明します。


下の譜表に和音を入力する

音符を重ねて入力して和音を作成する方法は、音符を連続して入力する方法に (キュレットを有効にする必要があるという点で) 非常によく似ていますが、入力の動作が少し異なります。

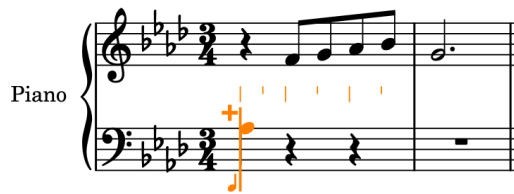
手順

1. 小節番号 1 で、下の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. **[Q]** を押して和音の入力を開始します。
 - 和音の入力では、同じ位置、つまりキュレットの位置に複数の音符を入力できます。和音の入力中はキュレットの上にプラス記号が表示されます。



- 和音の入力は、ウィンドウの左側にある音符ツールボックスの「和音 (Chords)」をクリックして開始することもできます。
- 前のタスクと同様に、音符パネルではデフォルトの4分音符のデュレーションが選択されています。この楽譜では、最初の数小節の和音がすべて4分音符であるため、デュレーションを変更する必要はありません。

4. **[A]** を押して Ab を入力します。



- これは、この譜表の最初のピッチになるため、Dorico には音域の参考とするものがなく、ミドル C に最も近い Ab が選択されます。しかし、この楽譜に必要なのは1オクターブ下の Ab です。

5. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押して、選択した Ab を1オクターブ下に移調します。



- **[Alt/Opt]+[↓]** を押すと、音符が1度ずつ下に移調されます。一緒に **[Ctrl]/[command]** を押すと、音符がより大きく移動、つまりオクターブ単位で下に移調されます。

6. **[E]** を押して Eb を入力します。

- 初期設定では、和音を入力する際、前の音符の上に新しい音符が追加されます。



7. **[Space]** を押してキャレットを進めます。

- 和音の入力では、キャレットが自動的に進まないため、1つの位置で音符を重ねて和音を作ることができます。Dorico では、操作を終了するまで和音の入力が続いているものと見なされます。
- 現在、音符のデュレーションとして4分音符が選択されているため、**[Space]** を押すとキャレットが4分音符1つ分進みます。

ヒント

または、**[Esc]** を押して音符の入力を終了し、下の譜表の小節番号 1～2 を選択したあと、**[R]** を押してそのすぐあとに素材を直接繰り返すこともできます。

20. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

下の譜表の最初の 4 小節に必要な和音がすべて入力されました。



手順終了後の項目

小節番号 6 の 2 拍めに臨時記号が必要なため、小節番号 6 の 1 拍めまで下の譜表への和音の入力を続けます。

臨時記号の追加

ここまでに入力したすべての音符には Ab メジャーの調号の臨時記号が適用されています。しかし、小節番号 6 の和音には Bb と Db が含まれているため、臨時記号を追加する必要があります。

前提条件

「環境設定 (Preferences)」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[,]**) の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページで、「臨時記号、付点、アーティキュレーションを指定 (Specify accidental, rhythm dot and articulations)」に「音符入力前 (Before inputting note)」を選択しておきます。

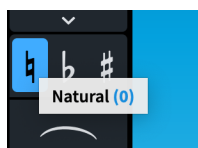
手順

1. 小節番号 6 で、下の譜表の 2 拍めの 4 分休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっていない場合は、**[Q]** を押して和音の入力を開始します。



- この和音の一番下の F に臨時記号は必要ありませんが、次に入力する F のデフォルトの音域は前の和音に準じるため、ここで必要な 1 拍めの Ab の 6 度上ではなく、3 度下になります。
4. **[Shift]+[Alt/Opt]+[F]** を押して、1 オクターブ上の正しい F を入力します。
 - 次の 2 つのピッチはどちらもナチュラルの臨時記号を必要とするため、各音符を入力する前に臨時記号を準備しておく必要があります。
 5. **[0]** を押してナチュラルの臨時記号を選択します。
 - テンキーではなくコンピューターキーボードの **[0]** を押す必要があります。

- ナチュラルの臨時記号は、ウィンドウの左側にある音符パネルで「ナチュラル (Natural)」をクリックして選択することもできます。



6. **[B]** を押して B \flat を入力します。



- 臨時記号は1つの音符にのみ適用されます。そのため、D \sharp 用にナチュラルの臨時記号を選択しなおす必要があります。
7. **[0]** を押してナチュラルの臨時記号を選択します。
 8. **[D]** を押して D \sharp を入力します。
 9. **[Space]** を押してキュレットを進めます。
 10. **[F]**、**[B]**、**[D]** の順に押して各ピッチを入力します。
 - 初期設定では、小節の残りの部分にも臨時記号が適用されるため、次の B と D も自動的に B \flat と D \sharp として入力されます。
 11. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果


ナチュラルの臨時記号が付いた2つの音符を含む和音が入力されました。Dorico のデフォルトの臨時記号の有効範囲ルールは、臨時記号が小節の最後まで適用されるという一般的な慣習に即しているため、2つめの和音のナチュラルの臨時記号は自動的に非表示になります。同様に、上の譜表の小節番号7の B \flat にはフラットの親切臨時記号が自動的に表示されます。



ヒント

- 音符の入力中でなくても、選択した音符に臨時記号を追加できます。同じ臨時記号を複数の音符に一度に追加できるため、この方が便利な場合もあります。

フラットの臨時記号を追加するには **[-]** を押します。シャープの臨時記号を追加するには **^** を押します。

ウィンドウの右側にある調号、調性システム、臨時記号パネルには、さまざまな臨時記号が用意されています。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスで「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」 をクリックします。

- 臨時記号の有効範囲ルールの詳細については、オペレーションマニュアルを参照してください。Dorico Elements と Dorico SE では、臨時記号の有効範囲ルールを変更できません。

手順終了後の項目

このタスクと前のタスクで学んだ方法を使用して、下の譜表の小節番号 14 の 1 拍めまで和音の入力を続けてみてください。アルペジオ記号はこのあとのタスクで追加しますので、ここでは入力しなくても大丈夫です。

上の譜表に別の声部を追加する

小節番号 9 では、上の譜表に 2 番めの声部が現れるため、譜表に新しい声部を追加する必要があります。また、音符をどの声部に入力しているかを確認する方法についても説明します。

手順

1. 小節番号 9 で、上の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
 - キャレットの横に音符記号があります。これは、符尾の方向、番号、種類 (通常、スラッシュ、装飾音) を表示することで、入力するものがどの声部に割り当てられるかを示しています。



- 現在、この音符記号は譜表上の符尾が上向き (up-bow) の 1 つめの声部に音符を入力していることを示していますが、この小節には符尾が下向き (down-bow) の声部が必要です。
3. 和音の入力が有効になっている場合は、**[Q]** を押して和音の入力を終了します。
 4. **[Shift]+[V]** を押して新しい声部を作成します。
 - 音符記号の符尾が下向きになり、その横にプラス記号が表示されます。これは、符尾が下向きの新しい声部を示しています。




5. **[7]** を押して 2 分音符を選択したあと、**[.]** (ピリオド) を押して付点を追加し、デュレーションを付点 2 分音符にします。
6. **[B]** を押して符尾が下向きの新しい声部に Bb を入力します。



- 前の小節の下の譜表に Bb があるため、B には b の親切臨時記号が表示されます。
- キャレットが自動的に次の小節に進みます。しかし、この例ではまだ小節番号 9 の符尾が上向きの声部に他の音符を入力する必要があります。

7. 小節番号9の2拍めの開始位置にキュレットがくるまで **[←]** を押します。

- 矢印キーを使用してキュレットを移動する場合、移動距離は現在のリズムグリッドの間隔によって決まります (**[Space]** を押したときに音符パネルで選択されていた音符のデュレーションではありません)。現在のリズムグリッドの間隔  は、ウィンドウ下部のステータスバーに表示されます。初期設定では、8分音符に設定されています。
- キュレットの横の音符記号は、まだ符尾が下向きの声部に設定されていることを示していますが、小節番号9の8分音符は符尾が上向きの声部です。

8. **[V]** を押して符尾が上向きの声部に切り替えます。



- **[V]** を押すと、譜表上のすべてのアクティブな声部が次々切り替わります。現在は上の譜表に2つしか声部がないため、**[V]** を押すと符尾が上向きの声部と符尾が下向きの声部が切り替わります。

9. **[5]** を押して8分音符を選択します。

10. **[E]**、**[G]**、**[F]**、**[E]** を順に押して、Eb、G、F、Ebのピッチを8分音符として符尾が上向きの声部に入力します。



11. **[7]** と **[.]** (ピリオド) を順に押して付点2分音符を選択します。

12. **[Q]** を押して和音の入力を開始します。

13. **[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)** を押して、前のEbの4度上ではなく5度下にAbを入力し、次に **[D]** を押してその上にDbを付点2分音符の和音として上向きの声部に入力します。



14. 小節番号11の開始位置で、**[V]** を押して符尾が下向きの声部に切り替わります。

15. 手順5～13を繰り返して小節番号11～12を入力します。

ヒント

または、**[Esc]** を押して音符の入力を終了し、上の譜表の小節番号9～10を選択したあと、**[R]** を押してそのすぐあとに素材を直接繰り返すこともできます。

16. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

符尾が下向きの新しい声部が追加され、上の譜表の小節番号9～12に必要なすべての音符が入力されました。各声部の音符はどの順序で入力してもかまいません。各声部を配置できるよう、符尾の方向と声部列は自動的に更新されます。

手順終了後の項目

このタスクで学んだ方法を使用するか、小節番号11から素材をコピーするかして、上の譜表の小節番号13に音符を入力します。


スラーの追加

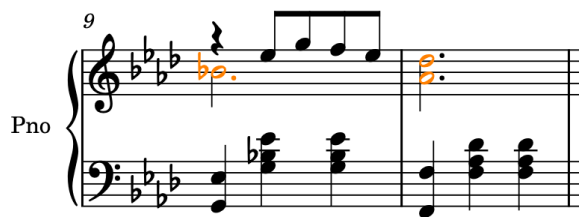
この楽曲のほとんどのフレーズにはスラーが付いています。このタスクではまず、すでに入力されたフレーズにスラーを追加し、次に新しい音符と一緒にスラーを入力する方法について説明します。

手順

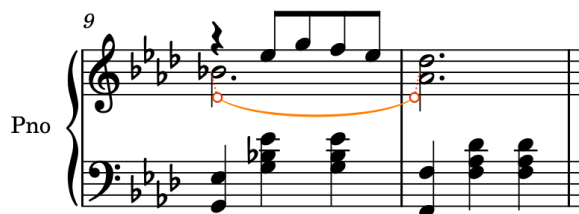
1. 小節番号1で、上の譜表の8分音符の連桁のどこかをクリックして、その連桁に含まれるすべての音符を選択します。

2. [S] を押して、選択した音符全体にスラーを追加します。

- ウィンドウ左側の音符パネルで「スラー (Slur)」  をクリックしてスラーを追加することもできます。
3. 小節番号8の最後まで、スラーが必要な各フレーズに対して手順1と手順2を繰り返します。
 - 小節番号9～10のスラーは異なる声部の音符を結合しているため、これらの音符は別々に選択する必要があります。
 4. 小節番号9で、符尾が下向きの音符を選択します。
 5. 小節番号10の上の譜表で、少なくとも1つの音符を **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。



6. **[S]** を押して、選択した音符の間にスラーを追加します。



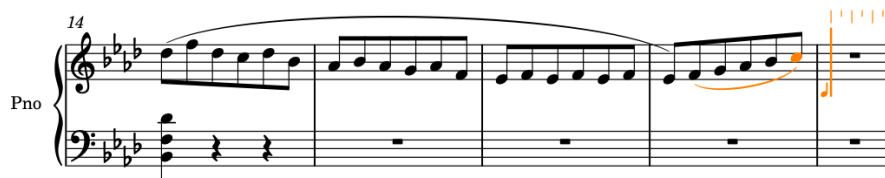
7. 小節番号 11～13 の声部をまたぐ他のスラーに対して手順 4～6 を繰り返します。



- Dorico Pro をお使いの場合は、このあとのタスクでこれらのスラーを反転し、休符から始まるように形状を調整できます。
 - これは音符を入力していた場合なので、次は音符とスラーを一緒に入力してみましょう。
8. 小節番号 14 で、上の譜表の休符を選択します。
9. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
10. キャレットの横の音符記号が下向きの符尾の場合は、**[V]** を押して符尾が上向きの声部に切り替えます。
11. 和音の入力が有効になっている場合は、**[Q]** を押して和音の入力を終了します。
12. **[5]** を押して 8 分音符を選択します。
13. **[S]** を押してスラーを開始します。
14. 最初のスラーの下に、小節番号 17 の最初の 8 分音符まで音符を入力します。
15. **[Shift]+[S]** を押して、音符の入力を止めることなくスラーを終了します。



16. **[F]** を押して、次のフレーズの開始位置に F を入力します。
17. **[S]** を押して、現在選択している音符、つまり入力したばかりの F の上に別のスラーを入力します。
18. 2 番めのスラーの下に、小節番号 17 の最後まで音符を入力します。



19. **[7]** を押して 2 分音符を選択したあと、**[.]** (ピリオド) を押して付点を追加し、デュレーションを付点 2 分音符にします。
20. **[G]** を押します。



21. **[Shift]+[S]** を押してスラーを終了します。
22. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

既存のフレーズにスラーを追加し (声部をまたぐスラーを含む)、音符を入力しながらスラーを入力しました。

手順終了後の項目

小節番号 3 ~ 4 の上下の譜表の楽譜を小節番号 19 ~ 20 にコピーできます。

タイの入力

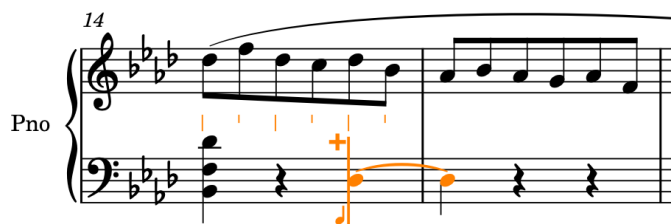
下の譜表に、小節番号 14 ~ 15 の間の小節線をまたいで 2 つの音符を連結するタイがあります。以下の手順で、このタイを入力します。

手順

1. 小節番号 14 で、下の譜表の 3 拍めの 4 分休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっていない場合は、**[Q]** を押して和音の入力を開始します。



4. **[7]** を押して 2 分音符を選択します。
 - キャレットは小節内の最後の 4 分音符の位置にありますが、2 分音符を選択します。
5. **[D]** を押して Db の 2 分音符を入力します。

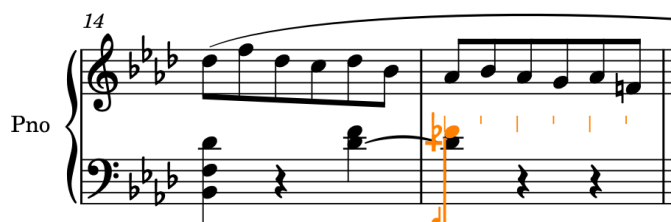


- ご覧の通り、Dbの2分音符が、自動的にタイでつながれた2つの4分音符として表示されました。

6. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押して1オクターブ上に移調します。



7. **[6]** を押して4分音符を選択します。
8. **[F]** を押し、次に **[Space]** を押してキャレットを進めます。
9. **[-]** を押してフラットの臨時記号を選択し、**[F]** を押してF♭を入力します。



10. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

タイでつながれた2つの4分音符として表示される2分音が入力されました。これは単一の音符として扱われるため、どちらかの符頭をクリックすると両方が選択されます。

ヒント

Doricoでは、ほとんどの場合タイを入力する必要はありません。音符全体のデュレーションを選択するだけで、拍子記号や小節内の位置に応じて、タイでつながれた音符に自動的に分割されます。これは、音符のグループ化だけでなく連符のグループ化にも適用されます。手動で音符をタイでつなぐ必要がある場合は **[T]** のキーボードショートカットを使用し、タイを削除する場合は **[U]** のキーボードショートカットを使用します。

手順終了後の項目

下の譜表の残りの音符を小節番号18の最後まで入力できます。小節番号15のE♯はD♯として入力することをおすすめします。音符を書き換える方法については、別のタスクで学びます。

強弱記号の追加

この楽譜には、Dorico 内で局部的強弱記号と呼ばれる *mp* や、総称して段階的強弱記号と呼ばれるクレッシェンド/ディミヌエンドのヘアピンなど、さまざまな強弱記号が含まれています。スラーと同様に、強弱記号は既存の楽譜に追加することも、音符の入力中に入力することもできます。

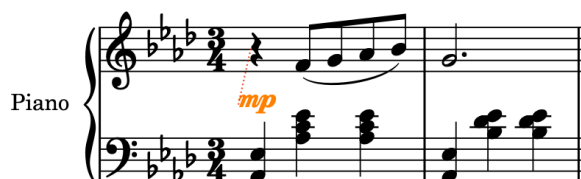
また、このタスクでは、手順 13 のあとにスラーを開始し、手順 17 で F を 2 つ入力する間に終了することでスラーを入力することもできます。

手順

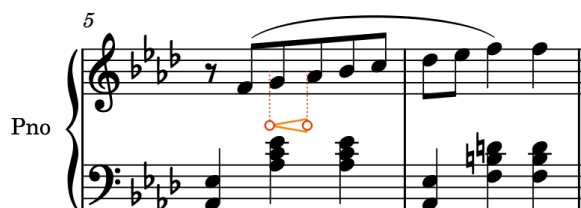
1. 小節 1 で、上の譜表の 4 分休符を選択します。
2. **[Shift]+[D]** を押して強弱記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「*mp*」と入力します。




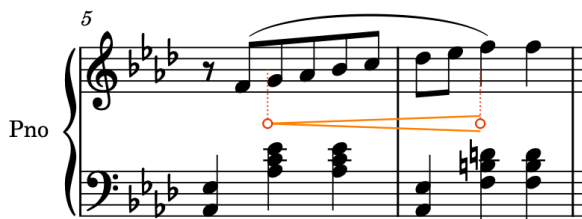
4. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、*mp* の強弱記号が入力されます。



5. 小節番号 5 で、上の譜表の G の 8 分音符をクリックします。
6. **<** を押して、選択した音符、つまり 8 分音符にかかるクレッシェンドのヘアピンを入力します。
 - crescendo と diminuendo の外観は似ているため、Dorico ではそれぞれのヘアピンに「<」および「>」の記号を使用します。



7. **[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押してヘアピンを小節番号 6 の 2 拍めまで延長します。
 - 押す回数は、リズムグリッドの間隔によって異なります .



ヒント

- **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押してヘアピンを短縮することもできます。これらのキーボードショートカットは、音符のほか、ペダル線、スラー、段階的テンポ変更といった、デュレーションを持つすべての記譜記号にも適用されます。
- 音符の範囲を選択してから段階的強弱記号を入力すると、選択範囲全体に自動的に適用されます。

- 次に、音符と強弱記号を同時に入力してみましょう。

8. 小節番号 21 で、上の譜表の小節休符を選択します。
9. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
10. 和音の入力が有効になっている場合は、**[Q]** を押して和音の入力を終了します。
11. **[5]** を押して 8 分音符を選択します。
12. **[Space]** を押してキャレットを 8 分音符 1 つ分進め、**[F]** を押して F を入力します。
 - 小節番号 19 ~ 20 にまだフレーズを入力していない場合、F が誤ったオクターブで入力される場合があります。その場合は、入力前に **[Ctrl]+[Alt]+[F] (Windows) 又は [Ctrl]+[F] (macOS)** を押して下のオクターブを指定するか、入力後に **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押して 1 オクターブ下に移調してください。
13. **<** を押してクレッシェンドのヘアピンを開始します。
 - このヘアピンにはまだデュレーションがないため、キャレットを進めるまでヘアピンは表示されません。音符を入力するとヘアピンが表示され、伸びていきます。
14. **[G]**、**[A]**、**[B]**、**[C]**、**[D]**、**[E]** の順に押して、各ピッチを入力します。
 - 音符を入力するとヘアピンが伸びます。ヘアピンは、**[Space]** を押してキャレットを進めた場合も伸びます。




15. **[?]** を押してヘアピンを終了します。
16. **[6]** を押して 4 分音符を選択します。
17. **[F]** を 2 回押して F の 4 分音符を 2 つ入力します。
18. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

既存の音符に局部的強弱記号と段階的強弱記号を追加し、音符の入力と同時に段階的強弱記号を入力しました。

ヒント

強弱記号は、ウィンドウ右側にある強弱記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「強弱記号 (Dynamics)」をクリックします。

アーティキュレーションの追加

この楽譜には、マルカート記号、テヌート記号、スタッカート記号などのさまざまなアーティキュレーションが含まれています。アーティキュレーションは既存の音符を入力することも、音符を入力しながら入力することもできます。

手順

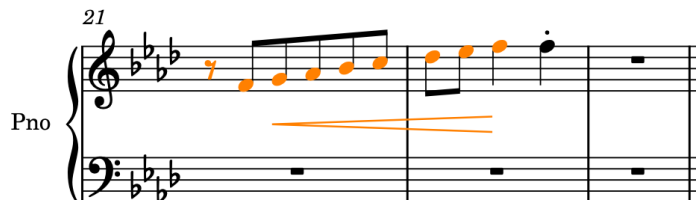
1. 上の譜表の小節番号 2、4、18、20 の G を **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
2. **[:]** を押して、選択したすべての音符にマルカートを追加します。



- アーティキュレーションは、ウィンドウの左側にある音符パネルで対応するボタンをクリックして選択することもできます。
3. 小節番号 6、8、22 の 3 拍めの F の 4 分音符を **[Ctrl]/[command]** を押しながらかlickします。
 4. **[[]]** を押して、選択したすべての音符にスタッカートを追加します。



- 次に、音符とアーティキュレーションを同時に入力してみましょう。次に入力するアーティキュレーションは小節番号 24 小節の最後にあり、小節番号 23 ~ 24 のフレーズは小節番号 21 ~ 22 と同じであるため、ほとんどの部分はコピーできます。
5. 小節番号 21 で、上の譜表の 8 分休符を選択します。
 6. 上の譜表の小節番号 22 の 2 拍めの F を **[Shift]** を押しながらかlickして、上の譜表のその音符までのすべてを選択します。



7. 上の譜表の小節番号 23 の開始位置を、**[Alt/Opt]** を押しながらかlickします。
 - これにより、クリップボードにコピーすることなく、マウスポインターに最も近い位置 (リズムグリッドの間隔で決まる) に選択した素材がコピーされます。32 分音符など、リズムグリッ

ドの間隔が非常に小さい場合は、**[Alt/Opt]** を押しながらクリックする際に、4分音符などの大きな値に設定するときよりも正確な場所をクリックする必要があります。

8. 小節番号 24 で、上の譜表の 3 拍めの 4 分休符を選択します。
9. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
10. **[[]]** を押してスタッカートを選択します。
11. **[F]** を押してスタッカート付きの F を入力します。



- Dorico では、アーティキュレーションをオフにするか音符の入力を終了するまで、入力するすべての音符に選択したアーティキュレーションが適用されます。これは、選択した記号が入力する次の音符にのみ適用される臨時記号とは異なります。

12. **[[]]** をもう一度押してスタッカートをオフにします。
 - 次の手順では、楽譜を進めて、連続する音符をテヌート記号付きで入力する方法を説明します。
13. **[Ctrl]/[command]+[→]** を押すたびにキュレットが次の小節に移動するので、小節番号 39 の開始位置までキュレットを進めます。
14. **[[]]** を押してテヌートを選択します。
15. **[D]**、**[F]**、**[B]** の順に押して、各ピッチをテヌートのアーティキュレーション付きで入力します。

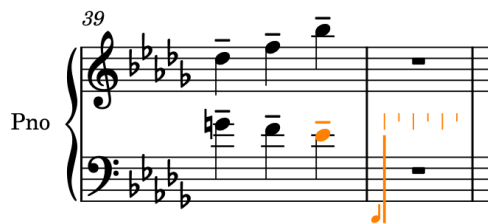


- この小節の下の譜表にもテヌート記号付きの 4 分音符を 3 つあるため、これらの音符を入力できるようにキュレットを戻します。

16. **[Ctrl]/[command]+[←]** を押してキュレットを小節番号 39 の開始位置まで戻します。
17. **[↓]** を押してキュレットを下の譜表に移動します。



18. **[0]** を押してナチュラルの臨時記号を選択し、**[G]**、**[F]**、**[E]** の順に押して、各ピッチをテヌートのアーティキュレーション付きで入力します。



19. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

既存の音符にアーティキュレーションを追加し、アーティキュレーション付きの音符を入力しました。

和音にアルペジオ記号を追加する

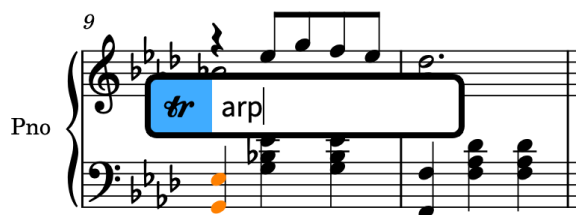
この楽譜のほとんどの和音はストレートで演奏されますが、いくつかの和音はアルペジオ記号で指示されるロールで演奏されます。アルペジオ記号は既存の和音を入力することも、音符を入力しながら入力することもできます。

前提条件

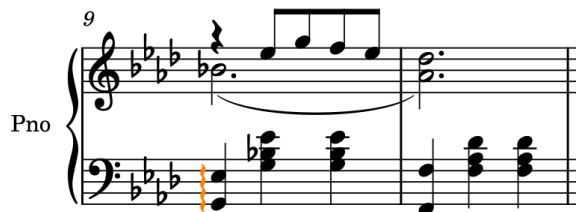
小節番号 11 の最後まで、下の譜表のすべての和音を入力しておきます。

手順

1. 小節番号 9 で、下の譜表の 1 拍めの和音の符尾をクリックして、和音に含まれるすべての音符を選択します。
 - アルペジオ記号はその声部のすべての音符に自動的に適用されるため、和音内の 1 つの音符のみを選択してもかまいません。
 - アルペジオ記号は一度に 1 人の和音にのみ追加できます。
2. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「arp」と入力します。



4. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、選択した和音のすべての音符にかかるようにアルペジオ記号が入力されます。

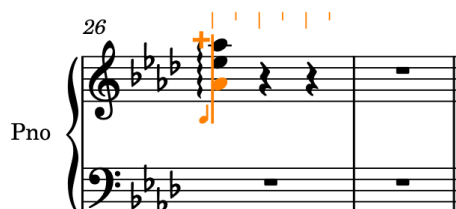


5. 小節番号 11、13、14 の 1 拍めの和音に手順 1～4 を繰り返します。
 - 次に、和音を入力しながらアルペジオ記号を入力してみましょう。
6. 小節番号 26 で、上の譜表の小節休符を選択します。

7. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
8. 和音の入力が有効になっていない場合は、**[Q]** を押して和音の入力を開始します。
9. **[Shift]+[O]** を押して装飾音のポップオーバーを開きます。
10. ポップオーバーに「arp」と入力します。
11. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、キャレットの位置にアルペジオ記号が入力されます。
12. **[A]** を押して Ab を入力します。



- Ab を入力すると、音符の左に短いアルペジオ記号が表示されます。
 - 譜表のこの声部の前のピッチに基づき、和音の一番上に Ab が自動的に表示されます。
13. **[Ctrl]+[Alt]+[E] (Windows) 又は [Ctrl]+[E] (macOS)**、**[Ctrl]+[Alt]+[A] (Windows) 又は [Ctrl]+[A] (macOS)** の順に押して一番上の Ab の下に各ピッチを入力します。




- Eb を入力し、その下にもう 1 つ Ab を入力すると、3 つの音符全体にかかるようにアルペジオ記号が自動的に延長されます。
14. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

既存の和音にアルペジオ記号を追加し、新しい和音を入力しながらアルペジオ記号を入力しました。

ヒント

アルペジオ記号は、ウィンドウ右側の装飾音パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「装飾音 (Ornaments)」 をクリックします。

テンポ記号の追加

この曲はロマン主義の時代に作曲されたため、かなりの数のルバートが使われています。この楽譜では、ritardando のあとに a tempo が続くなど、比較的短い間にテンポを変動させることでルバートが表現されています。このタスクでは、これらのテンポ記号の入力方法について説明します。

ここまでいくつかのタスクを完了したので、音符の入力中にテンポ記号を入力できることも、既存の楽譜に追加できることも正しく理解できているでしょう。音符の入力中は、キャレットの位置に入力されます。ただし、accelerando などの段階的テンポ変更は、音符の入力に合わせて延長されません。

手順

1. 小節番号 11 で、2 拍めのいずれかの音符を選択します。

- テンポ記号は組段オブジェクトであり、レイアウト内のすべての組段に適用されるため、必要なデュレーションにまたがっていれば、どちらの譜表の音符を選択してもかまいません。

- [Ctrl]/[command]** を押しながら、小節番号 12 の 3 拍めに和音を入力します。



Musical score for piano (Pno) showing measures 11 and 12. Measure 12 has three chords highlighted in orange.

- [Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
- ポップオーバーに「**poco rit.**」と入力します。



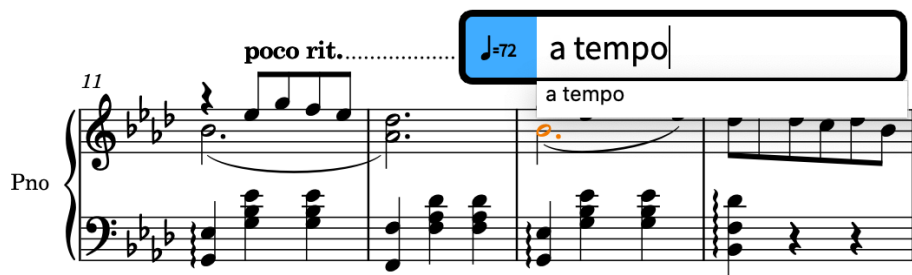
Musical score for piano (Pno) showing measures 11 and 12. A pop-over box is open over measure 12, containing a tempo marking '♩=72 poco rit.'

- [Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、選択した範囲にまたがる **poco rit.** の段階的テンポ変更が入力されます。
 - そのデュレーションを示す延長線が自動的に表示されます。最初と最後にある丸いハンドルで開始位置と終了位置をコントロールします。



Musical score for piano (Pno) showing measures 11 and 12. A dotted line with a circle at the end indicates the duration of the 'poco rit.' marking.

- 小節番号 13 で、1 拍めのいずれかの音符または休符を選択します。
- [Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
- ポップオーバーに「**a tempo**」と入力します。



Musical score for piano (Pno) showing measures 11, 12, and 13. A pop-over box is open over measure 13, containing a tempo marking '♩=72 a tempo'.


- [Return]** を 2 回押し、エントリーを選択して入力します。



結果

段階的テンポ変更と固定テンポ変更が追加されました。ritardando の延長線と A tempo 記号の位置は自動的に揃えられます。

ヒント

テンポは、ウィンドウ右側にあるテンポパネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「テンポ (Tempo)」をクリックします。

手順終了後の項目

テンポのポップオーバー ([Shift]+[T]) を使用して、小節番号 1 の開始位置に Grazioso のテンポ記号を入力します。推奨されるメトロノームマークのあるバージョンを入力した場合は、そのテンポ記号を選択し、ウィンドウ下部のプロパティパネル ([Ctrl]/[command]+[8]) を押して表示/非表示を切り替える) の「テンポ (Tempo)」グループにある「メトロノームマークを表示 (Metronome mark shown)」をオフにすることでメトロノームマークを非表示にできます。

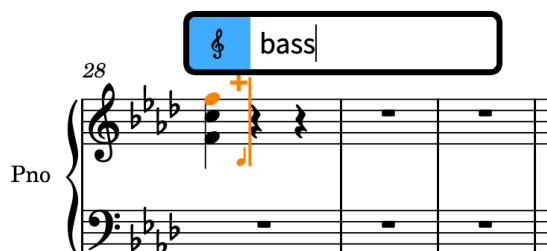
Grazioso のテンポ記号と拍子記号の位置は自動的に揃えられます。

音部変更記号の追加

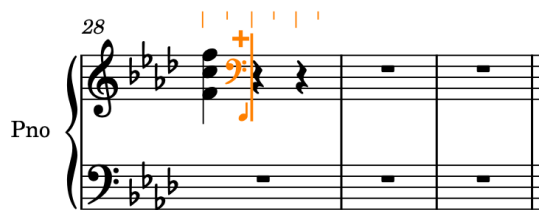
この楽譜には、譜表上の音域が大幅に変化するために、音部記号の変更が必要になる場所がいくつかあります。最初の音部変更記号は、楽譜の最初のセクションの終了位置にあります。

手順

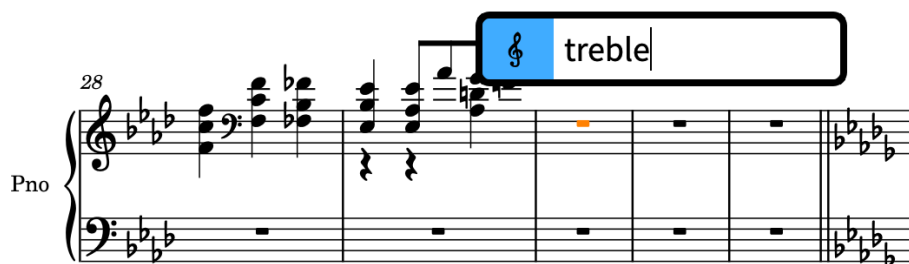
1. 小節番号 28 で、上の譜表の休符を選択します。
2. [Shift]+[N] を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっていない場合は、[Q] を押して和音の入力を開始します。
4. [F]、[C]、[F] の順に押して、各ピッチを 4 分音符の和音として入力します。
5. [Space] を押してキュレットを進めます。
6. [Shift]+[C] を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
7. ポップオーバーに「bass」と入力します。



8. [Return] を押すとポップオーバーが閉じ、キュレットの位置にバス記号が入力されます。



9. 小節番号 29 の終わりまで、上の譜表の音符と和音の入力を続けます。
 - 小節番号 28 の 3 拍めの F \flat のフラットの臨時記号を選択するには、**[-]** を押します。
 - 小節番号 29 の 3 拍めの符尾が下向きの声部に和音を入力すると、1 拍めと 2 拍めに休符が表示されます。これらは次のタスクで削除できます。
10. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。
11. 小節番号 30 で、上の譜表の休符を選択します。
12. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
13. ポップオーバーに「treble」と入力します。




14. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、選択した位置にト音記号が入力されます。



結果

小節番号 28 ~ 29 の上の譜表に必要な 2 つの音部変更記号に加え、音符と和音が入力されました。

ヒント

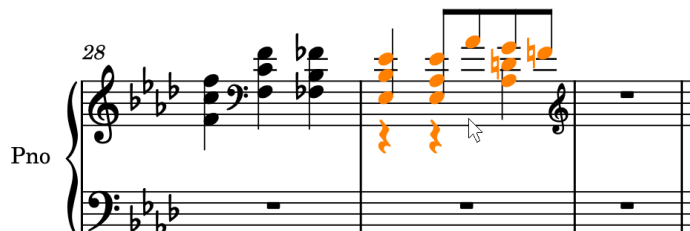
音部記号は、ウィンドウ右側にある音部記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「音部記号 (Clefs)」 をクリックします。

休符の削除

Dorico では、現在の拍子記号や小節内の位置に応じて、入力する音符間に自動的に休符が表示されます。小節番号 29 のように、経過音を記譜するために声部を使用する場合、その声部の休符は必ずしも必要とは限りません。このような場合、休符を削除できます。

手順

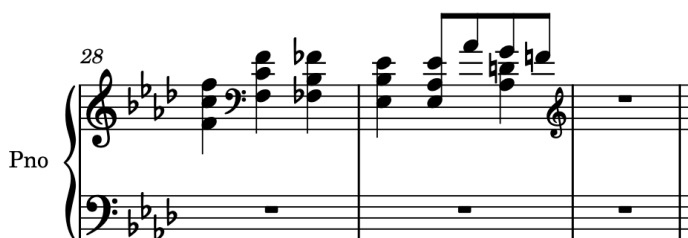
1. 小節番号 29 で、譜表をクリックして小節内のすべてのアイテムを選択します。



2. 「編集 (Edit)」 > 「休符を削除 (Remove Rests)」 を選択します。

結果

選択範囲内のすべての休符が削除されます。これは、必要な音符のプロパティパネルの「音符と休符 (Notes and Rests)」グループにある「声部開始 (Starts voice)」と「声部終了 (Ends voice)」プロパティを自動的にオンにして、選択領域内に休符が表示されないようにするものです。

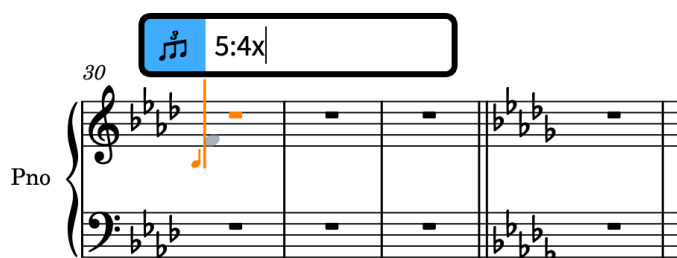


連符の入力

小節番号 30 ~ 40 では、いくつかの異なる連符を入力する必要があります。Dorico では、小節線をまたぐ連符を含め、あらゆる比率の連符を入力できます。

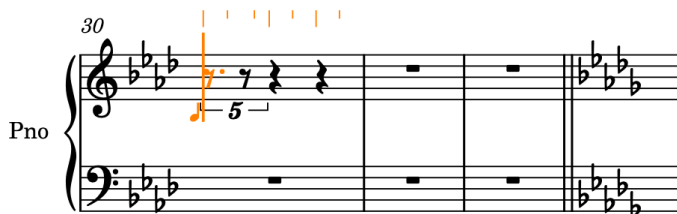
手順

1. 小節番号 30 で、上の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっている場合は、**[Q]** を押して和音の入力を終了します。
4. **[;]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
5. ポップオーバーに「5:4x」と入力します。



- 連符は比率で表わします。つまり、連符に含まれる音符の数と、連符のデュレーションに対応する標準の音符の数をコロンで区切って入力します。たとえば、「5:4」は4つ分のスペースに5つの音符が配置されることを意味し(5連符)、「3:2」は2つ分のスペースに3つの音符が配置されることを意味します(3連符)。比率のあとの文字は拍の単位を指定するものです。たとえば、「x」は16分音符、「e」は8分音符、「q」は4分音符を表わします。ポップオーバーエントリーで拍の単位を指定しない場合、音符パネルで現在選択している音価をベースに連符が入力されます。

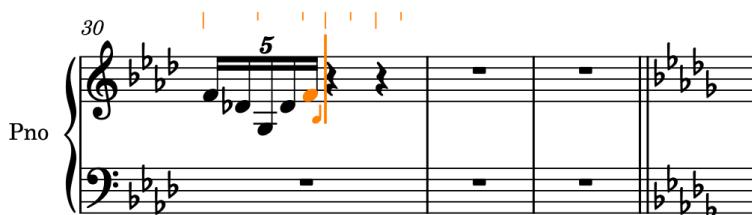
6. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、16分音符の5連符が入力されます。



7. **[4]** を押して16分音符を選択します。

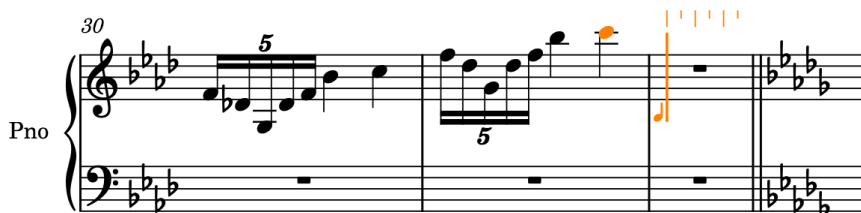
- どの比率の連符にどのデュレーションの音符を入力してもかまいません。音符が長すぎて収まらない場合は、連符のあとに追加のデュレーションが記譜されます。

8. **[F]**、**[D]** の順に押し、**[Ctrl]+[Alt]+[G]** (Windows) 又は **[Ctrl]+[G]** (macOS) を押して1オクターブ下のGを入力し、**[Shift]+[Alt/Opt]+[D]** を押して1オクターブ上のD_bを入力し、**[F]** を押します。



- Dorico では、連符の入力または音符の入力を終了するまで、指定した連符の入力が続きます。
- 前の小節に D_b があるため、最初の D には b の親切臨時記号が表示されます。

9. **+** を押して連符の入力を終了します。
10. **[6]** を押して4分音符を選択します。
11. **[B]** を押し、次に **[C]** を押します。
12. 小節番号 31 に対して手順 4 ~ 11 を繰り返します。



ヒント

または、**[Esc]** を押して音符の入力を終了し、小節番号 30 を選択し(ト音記号は除く)、**[R]** を押してそのすぐあとに素材を直接繰り返したあと、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押して1オクターブ上に移調することもできます。

13. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

- 次に、連続する3連符を入力してみましょう。

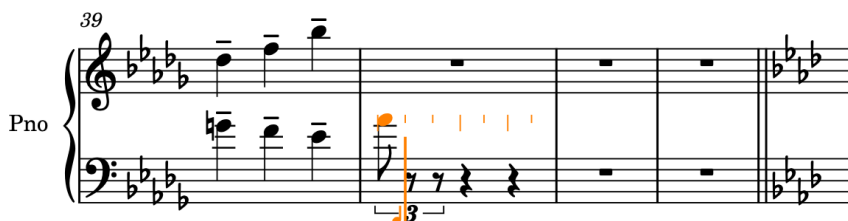
- 小節番号 40 で、下の譜表の休符を選択します。
- [Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
- [;]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
- 2つ分のスペースに3つの8分音符を入力するために、ポップオーバーに「3:2e」と入力します。



- [Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、8分音符の3連符が入力されます。

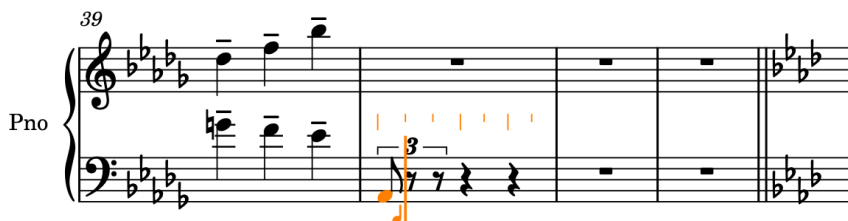


- [5]** を押して8分音符を選択します。
- [A]** を押してAbを入力します。

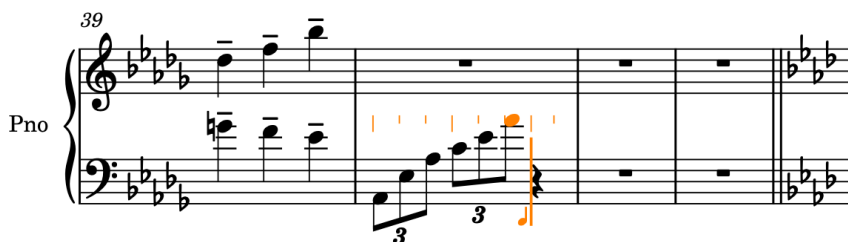


- 前のピッチに基づいて、2オクターブ上のAbが入力されます。

- [Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を2回押して、正しいオクターブまで移調します。



- [Shift]+[Alt/Opt]+[E]** を押して、前のAbの4度下ではなく5度上にEbを入力し、次に**[A]**、**[C]**、**[E]**、**[A]**の順に押して、各ピッチを8分音符の3連符として入力します。



23. **+** を押して連符の入力を終了します。
24. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
25. ポップオーバーに「**treble**」と入力します。
26. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、キャラットの位置にト音記号が入力されます。
27. **[6]** を押して4分音符を選択します。
28. **[C]** を押してCの4分音符を入力します。



29. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

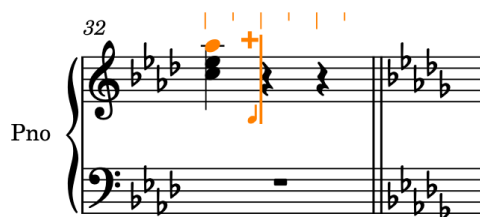
2種類の連符と追加の音部変更記号が入力されました。あとのタスクで、小節番号30～31の符尾の向きを変更できます。

装飾音符の追加

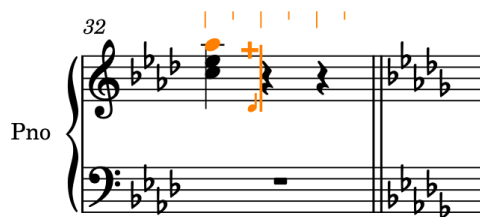
小節番号32の上の譜表には、和音の前に装飾音符があります。このタスクでは、小節番号32の上の譜表に装飾音符付きの和音を入力します。


手順

1. 小節番号32で、上の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっていない場合は、**[Q]** を押して和音の入力を開始します。
4. **[Ctrl]+[Alt]+[C] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[C] (macOS)**、**[E]**、**[A]** の順に押して和音を入力します。
5. **[Space]** を押してキャラットを進めます。

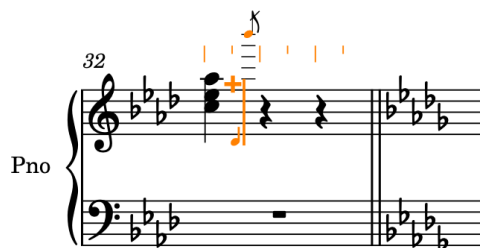


6. **[/]** を押して装飾音符の入力を開始します。
 - 装飾音符の入力では、通常の音符入力よりもキャラットが短く表示されます。

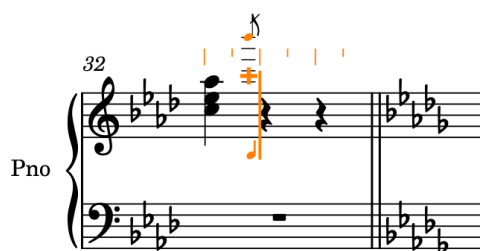


- 装飾音符の入力は、ウィンドウの左側にある音符ツールボックスの「装飾音符 (Grace Notes)」 をクリックして有効にすることもできます。

7. **[5]** を押して 8 分音符を選択します。
8. **[B]** を押して B \flat の装飾音符を入力します。
9. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を 2 回押して、この装飾音符を 2 オクターブ上に移調します。



10. **[/]** を押して、装飾音符の入力を停止します。



- キャレットは長くなり、通常の音符の位置に戻るため少し進んだように見えます。和音の入力が有効であるため、キャレットは装飾音符の位置から進みません。

11. **[7]** を押して 2 分音符を選択します。
12. **[Ctrl]+[Alt]+[C] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[C] (macOS)**、**[E]**、**[A]** の順に押します。



13. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

小節番号 32 の上の譜表に、必要なコードと装飾音符が入力されました。

オクターブ線の追加

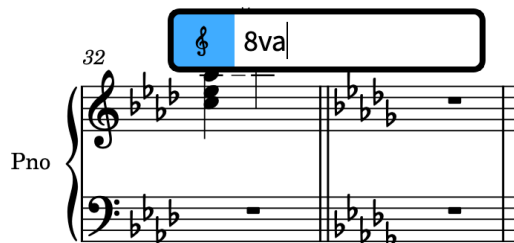
多くの加線が表示されるのを回避するために、小節番号 32 で入力した 1 オクターブ上の和音は、8va のオクターブ線、つまり音符が記譜上のピッチよりも 1 オクターブ上で演奏されることを示すオクターブ線を使用して記譜できます。

手順

1. 小節番号 32 で、上の譜表の装飾音符をクリックし、**[Shift]** を押しながら 2 拍めの和音をクリックします。



2. **[Shift]+[C]** を押して音部記号やオクターブ線のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「8va」と入力します。



4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。


結果

装飾音符と和音にまたがる 8va のオクターブ線が入力されます。オクターブ線の範囲内のすべての音符は、オクターブ線を入力する前より自動的に 1 オクターブ低く記譜されます。



赤色の点線が示しているように、オクターブ線のエンドポイントは次の小節の開始位置に連結されていますが、オクターブ線の延長線は和音の右側で終了しています。これは、オクターブ線の長さや配置の表記規則に従っているためです。

ヒント

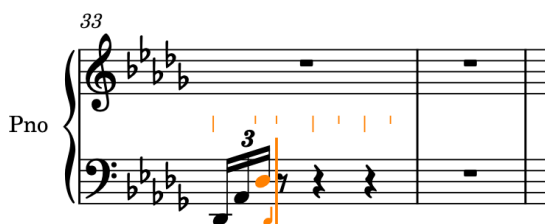
オクターブ線は、ウィンドウ右側にある音部記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「音部記号 (Clefs)」 をクリックします。オクターブ線と音部記号はどちらも譜表上の音符の位置を変更するため、これらは同じパネルにまとめられています。

小節番号 33～35 の楽譜の入力

小節番号 33～35 には、譜表をまたぐ連符(下の譜表で始まり上の譜表で終わる連符)と音符の表記の異なる和音が含まれています。このタスクでは、これらの小節に必要なすべての音符と和音を入力し、次の2つのタスクで下の譜表から上の譜表まで音符を伸ばし、音符を書き換えて B^b を表示します。

手順

1. 小節番号 33 で、下の譜表の休符を選択します。
2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。
3. 和音の入力が有効になっている場合は、**[Q]** を押して和音の入力を終了します。
4. **[;]** を押して連符のポップオーバーを開きます。
5. ポップオーバーに「3:2x」と入力します。
6. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、16分音符の3連符が入力されます。
7. **[4]** を押して16分音符を選択します。
8. **[D]** を押して Db を入力したあと、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を2回押してその音符を2オクターブ下へ移調します。
9. **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]** を押して、前の Db の4度下ではなく5度上に Ab を入力し、次に **[D]** を押してその4度上に Db を入力します。



10. **+** を押して連符の入力を終了します。
11. **[3]** を押して32分音符を選択します。
12. **[F]**、**[A]**、**[D]**、**[F]** の順に押して、各ピッチを入力します。



13. **[6]**、**[A]** の順に押して Ab の4分音符を入力します。
14. **[Q]** を押して和音の入力を開始します。
15. **[Ctrl]+[Alt]+[D] (Windows) 又は [Ctrl]+[D] (macOS)** を押して、前の Ab の4度上ではなく5度下に Db を入力し、次に **[0]**、**[E]**、**[0]**、**[G]**、**[0]**、**[A]** の順に押します。
 - これにより、必要なナチュラルの臨時記号が付いた状態の和音が3拍めに入力されます。あとで Ab を B^b に書き換えます。
16. **[↑]** を押して、キャレットを上譜表に移動します。

17. **[:]**、**[0]**、**[Ctrl]+[Alt]+[E] (Windows)** 又は **[Ctrl]+[E] (macOS)** の順に押します。

- これにより、マルカートのアーティキュレーションとナチュラルの臨時記号が選択され、上の譜表の前の音符 (小節番号 32 の和音の一番下の C) の 3 度上ではなく 6 度下に E₄ が入力されます。

18. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

- 小節番号 33 は今、このように見えるはずですが。

19. 小節番号 33 のすべてを選択して **[R]** を 2 回押し、それらを小節番号 34 と 35 で繰り返します。

20. 小節番号 33～35 に含まれるすべてを選択して、「編集 (Edit) > 「**休符を削除 (Remove Rests)**」を選択します。

- 小節番号 33～35 のすべてを選択する簡単な方法は、小節番号 33 の下の譜表の音符以外の場所をクリックし、**[Shift]** を押しながら小節番号 35 の上の譜表の音符以外の場所をクリックするやり方です。

結果

小節番号 33～35 に必要な音符と和音が入力され、休符が削除されました。和音を上の譜表まで伸ばしたときに、それらが符尾が下向きの声部にあるかのように動作するため、ここでは必ず休符を削除する

必要がありました。符尾をまたぐ楽譜に声部が1つしかない場合は、必要に応じて休符が自動的に削除されるため、休符を削除する必要はありません。

音符を別の譜表まで伸ばす

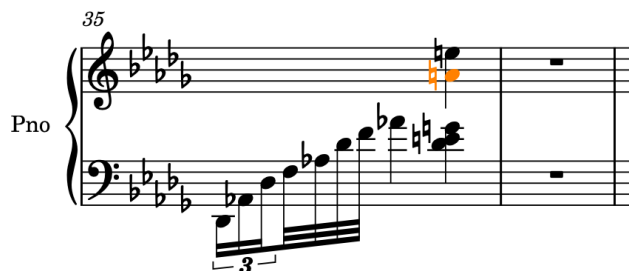
Dorico では、すべての音符を一方の譜表に入力したあと、いくつかの音符を別の譜表まで伸ばすことで、複数の譜表にかかるフレーズの譜表をまたぐ連符を作成できます。前のタスクで音符を入力したので、今度はそれらを別の譜表まで伸ばします。

手順

1. 小節番号 35 で、3 拍めの和音の一番上の A \sharp を選択します。

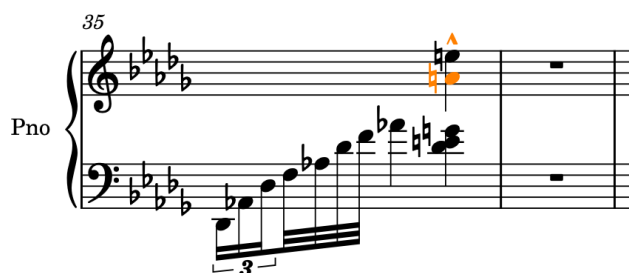


2. **[Alt/Opt]+[N]** を押して、音符が上の譜表に属するように移動します。



- A \sharp が、既存の E \flat と一緒に符尾が上向きの声部に統合されます。ただし、これによってマルカートのアーティキュレーションは削除されます。

3. **[:]** を押してマルカートのアーティキュレーションをもう一度入力します。



4. 小節番号 33 で、D \flat の 32 分音符を選択し、**[Shift]** を押しながら 3 拍めの和音をクリックします。



5. **[N]** を押して、選択した音符を上の方の譜表まで伸ばします。

6. 小節番号 34～35 で手順 4 と 5 を繰り返します。

結果

音符が下の譜表から上の譜表まで伸びます。譜表をまたぐ連符は中央揃えで配置され、符尾の方向は自動的に適切な向きになります。別の譜表まで伸ばされた音符が属する譜表は変わりませんが、見た目上はもう一方の譜表に表示されます。

ヒント

- 音符を別の譜表に移動するキーボードショートカットは、音符を別の譜表まで伸ばすキーボードショートカットと **[Alt/Opt]** キーを使用します。音符を上の方の譜表に移動する (**[Alt/Opt]+[N]**) と音符を上の方の譜表まで伸ばす (**[N]**) はどちらも上方向に移動しますが、音符を下の方の譜表に移動する (**[Alt/Opt]+[M]**) と音符を下の方の譜表まで伸ばす (**[M]**) はどちらも下方向に移動します。
- また、**[Ctrl]/[command]** を押しながら小節番号 33～35 の所要の音符をクリックして、それらすべてをまとめて上の方の譜表まで伸ばすこともできますが、**[Shift]** を押しながら個別に選択するよりも時間がかかる場合があります。

音符の書き換え

小節番号 33～34 で、オリジナルの楽譜では B^b として記譜されていた A₄ と、小節番号 35 で C[#] として記譜されていた D₄ を入力しました。このタスクでは、これらの音符を書き換えることができます。

手順

1. 小節番号 33 と 34 で、3 拍めの符尾が下向きの和音の A₄ を選択します。

2. **[Alt/Opt]+^** を押すと、上の音符を使用して音符が書き換えられ、B^b として記譜されます。

3. 小節番号 35 で、3 拍めの符尾が下向き和音の一番下の Db を選択します。




4. **[Alt/Opt]+[-]** を押すと、下の音符を使用して音符が書き換えられ、C#として記譜されます。



結果

A#が上に書き換えられ、Dbが下に書き換えられました。

ヒント


- 音符を書き換えるキーボードショートカットは、臨時記号を追加するキーボードショートカットと **[Alt/Opt]** キーを使用します。上への書き換え (**[Alt/Opt]+^**) とシャープの臨時記号 (^) はどちらもピッチが上がりますが、下への書き換え (**[Alt/Opt]+[-]**) とフラットの臨時記号 ([-]) はどちらもピッチが下がります。
- ウィンドウの右側にある調号、調性システム、臨時記号パネルには、b、# 以外の臨時記号があります。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスの「調号、調性システム、臨時記号 (Key Signatures, Tonality Systems, and Accidentals)」  をクリックします。

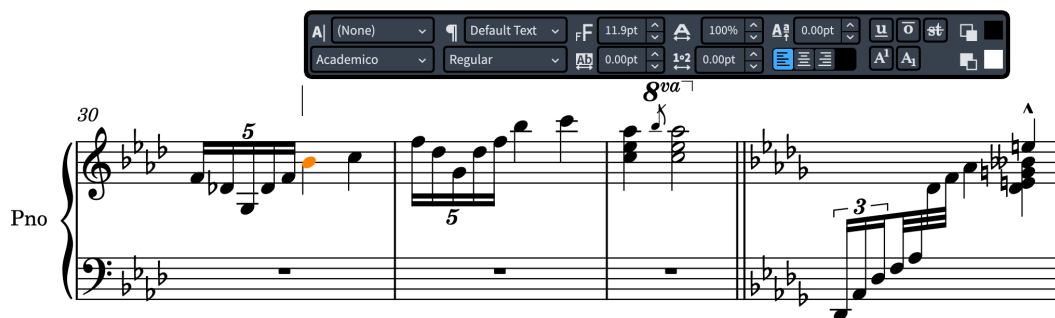
そのため、A#を入力してから書き換えるのではなく、B#を直接入力することもできます。

左右の手の指示記号の追加

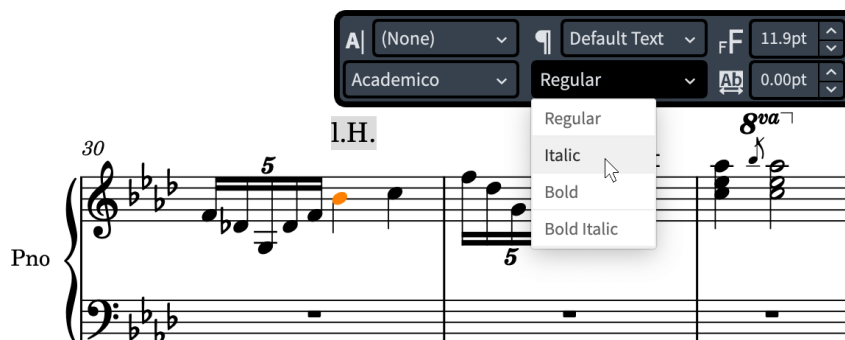
同じ譜表上に記譜された音符をどちらの手で演奏するかを明確にするために、オリジナルの楽譜では、譜表の上下に l.H. や r.H. の指示記号が書かれています。

手順

1. 小節番号 30 で、上の譜表の 2 拍めの Bb を選択します。
2. **[Shift]+[X]** を押すと、譜表テキストが追加されてテキストエディターが開きます。
 - 記譜ツールボックスの「テキスト (Text)」  をクリックして譜表テキストを追加することもできます。既存のテキストオブジェクトのテキストエディターを開くには、テキストオブジェクトを選択して **[Return]** を押します。



3. 「l.H.」と入力します。
4. テキストエディターで l.H. のテキストを選択して、エディターオプションから「斜体 (Italic)」のフォントスタイルを選択します。



5. **[Esc]** または **[Ctrl]/[command] + [Return]** を押してテキストエディターを閉じます。
6. l.H. のテキストを選択して **[F]** を押すと、テキストが譜表の下に反転します。



7. 1～5の手順を繰り返して r.H. の指示記号を入力しますが、手順1では3拍めのCを選択します。



8. **[Ctrl]/[command]** を押しながら両方のテキストオブジェクトをクリックし、**[Alt/Opt]** を押しながら小節番号 31 の 2 拍目の譜表をクリックすると、テキストオブジェクトがその位置にコピーされます。



結果

左右の手を指示するテキストオブジェクトを追加し、テキストに斜体の書式設定を行ない、l.H. の指示記号を譜表の下に反転させました。

リピート括弧の追加

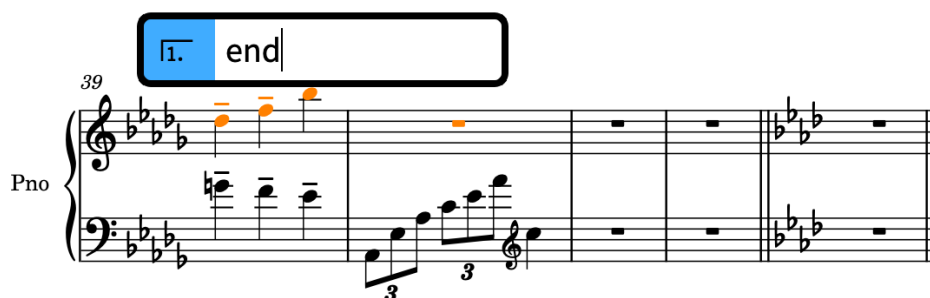
Dorico でリピート括弧を追加すると、譜表上のラインとリピート小節線が自動的に入力されます。オリジナルの楽譜では、2 番めの終端がフックになっているのでそれを再現してみましょう。

手順

1. 小節番号 39 で、1 拍めのいずれかの音符を選択します。
2. 下の譜表の 3 拍めの音符や上の譜表の小節休止符など、小節番号 40 の終わりまで続くものを **[Shift]** を押しながらクリックします。



3. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
4. ポップオーバーに「end」または「ending」と入力します。



5. **[Return]** を押すと、ポップオーバーが閉じてリピート括弧が入力されます。最初の括弧は選択したデュレーション全体にかかり、2 番めの括弧は 1 小節分続きます。



6. リpeat括弧を選択して **[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押すと、2 番めの括弧が伸びて 2 小節分続きます。



7. ウィンドウ下部のプロパティパネルで「リpeat括弧 (Repeat Endings)」グループの「リpeat括弧の終端 (End of line)」をオンにして、メニューから「閉じる (Closed)」を選択するとラインの終端がフックになります。

- プロパティパネルが表示されていない場合は **[Ctrl]/[command]+[8]** を押して表示します。



結果

リpeat括弧を追加し、2 番めの括弧を伸ばし、2 番めの終端をフックに変更しました。最初の括弧の終了位置には、リpeat小節線が自動的に入力されます。

楽譜の作成の仕上げ

ここまでで、楽譜全体の大部分を入力し、各タスクを実行することでドーラ・ペヤチェヴィチの『ワルツ・カプリス 2 番』を完成させるために必要なすべての作業を習得できたはずで


これで、完成したスコア (steinberg.help からダウンロードできます) を参照すれば楽譜全体の入力を仕上げるすることができます。以下に、仕上げに役立つ注意事項とヒントをいくつかご紹介します。

- 小節番号 43 から最後まで楽譜は、小節番号 1～32 をほとんどそのまま繰り返したものです。小節番号 1～32 に必要なすべての作業を終えたら、それを小節番号 43 にコピーして違いを確認し、複製した素材を必要に応じて微調整するといいでしょう。

補足

オリジナルの楽譜では、おそらく組段内の水平方向のスペースを節約するために小節番号 28～30 で使用された音部変更記号は、小節番号 70～72 での繰り返し部分には含まれていませんでした。2 回目に音部変更記号を含めるかどうかは自分で決めることができます。

- この楽譜には紹介した手順に含まれていない強弱記号やスラーもたくさんあるため、それらを追加できます。
- 間違った場所や声部に入力してしまった場合、音符やアイテムは簡単に移動したり長さを変更したりできます。
 - 音符/アイテムを右に移動するには **[Alt/Opt]+[→]** を押します。左に移動するには **[Alt/Opt]+[←]** を押します。(これらのキーボードショートカットは強弱記号を符頭に移動します。かわりに強弱記号をリズムグリッド間隔で移動するには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** または **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[←]** を押します)

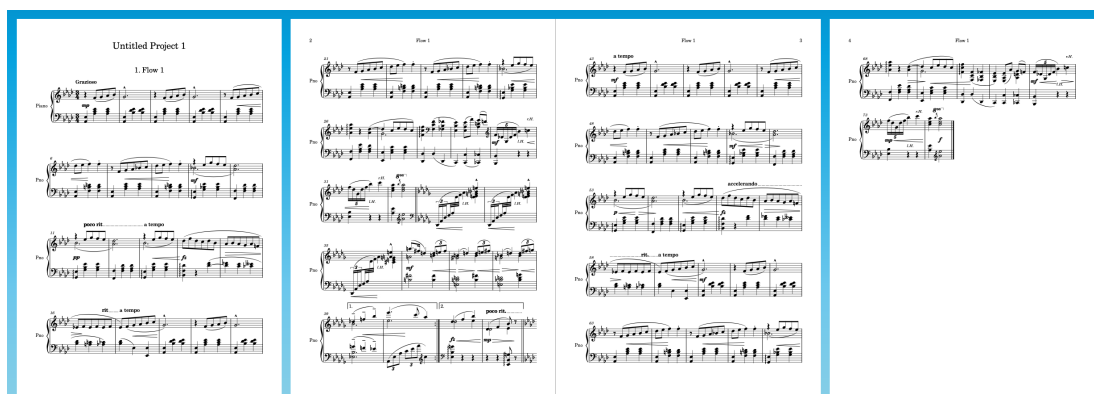
- ヘアピンなどのデュレーションを持つアイテムや音符の長さを延ばすには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[→]** を押します。短くするには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押します。
- 音符/アイテムを上側の譜表に移動するには、**[Alt/Opt]+[N]** を押します。音符/アイテムを下側の譜表に移動するには、**[Alt/Opt]+[M]** を押します。
- 符尾が上向きの声部から符尾が下向きの声部に変更するなど、音符の声部を変更するには、音符を選択して「編集 (Edit)」>「声部 (Voices)」>「声部を変更 (Change Voice)」>「声部」を選択します。このオプションはコンテキストメニューでも選択できます。
- アイテムを反転して譜表の反対側に表示するには、**[F]** を押します。
- 同様に、音符を入力する前に音域を指定することも、音符の入力後にピッチを変更することもできます。
 - 直前に入力した音符の上に音符を入力するには、**[Shift]+[Alt/Opt]** を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Shift]+[Alt/Opt]+[A]**)。直前に入力した音符の下に音符を入力するには、**[Ctrl]+[Alt]** (Windows) 又は **[Ctrl]** (macOS) を押しながら音符を表わすアルファベットを押します (例: **[Ctrl]+[Alt]+[A]** (Windows) 又は **[Ctrl]+[A]** (macOS))。
 - CからDのように音符を1度ずつ上げるには、**[Alt/Opt]+[↑]** を押します。DからCのように音符を1度ずつ下げるには、**[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
 - オクターブの分割単位で音符を上げるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。オクターブの分割単位で音符を下げるには、**[Shift]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。(移動幅は適用中の調性システムによって決まります。平均律 (12-EDO) で半音や平均律 (24-EDO) で1/4音など)
 - 音符を1オクターブ上げるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。音符を1オクターブ下げるには、**[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押します。
- 休符を入力する必要はないはずです。音符を入力する場所にキャレットを移動するだけで、その音符の周囲に必要な休符が自動的に表示されます。
 - 特定の拍から音符の入力を開始するには、譜表のその場所をダブルクリックします。
 - 音符パネルで現在選択中の音符のデュレーションに従ってキャレットを次の位置に進めるには、**[Space]** を押します。また、この操作は段階的強弱記号などのデュレーションを持つ記譜記号を延長したり、現在の連符を引き続き入力したりする場合にも使用します。
 - 現在のリズムグリッドの間隔  に従ってキャレットを移動するには、**[→]/[←]** を押します。
 - 次/前の小節にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[→]/[Ctrl]/[command]+[←]** を押します。
 - 上/下の譜表にキャレットを移動するには、**[↑]/[↓]** を押します。
 - 組段の一番上/一番下の譜表にキャレットを移動するには、**[Ctrl]/[command]+[↑]/[Ctrl]/[command]+[↓]** を押します。
- 臨時記号のキーボードショートカットは、フラットの **[F]**、ナチュラルの **[0]**、シャープの **[^]** です。調号に含まれている臨時記号を指定する必要はありません。
- 一般的な音符のデュレーションのキーボードショートカットは、8分音符の **[5]**、4分音符の **[6]**、2分音符の **[7]**、付点の **[.]** (ピリオド) です。デュレーションが短いほど数字が小さく、デュレーションが長いほど数字が大きくなります。
- 楽譜領域では矢印キーを使用してアイテム間を移動し、**[Tab]** を押して同じ位置にある他の種類のアイテムに選択を切り替えることができます (音符から強弱記号やスラーなど)。

ページの配置および形式設定

必要な音符と記譜記号をすべて入力したら、ページの配置と形式設定を行なうことで実用的な楽譜を作成できます。

次のタスクでは、このプロセスに必要な手順を説明します。重要な変更のほとんどはモードや製品バージョンを問わず実行できますが、一部のタスクは Dorico Pro の浄書モードでのみ実行できます。

「楽譜の作成」セクションのすべての手順を完了して楽譜を完成させるか、完成後に形式設定をしていない Dorico プロジェクトを steinberg.help からダウンロードすると、プロジェクトはこのように見えるはずですが。



実用的な楽譜を作成するために次のタスクを実行することで、楽譜が2ページに収まり、譜面台でページをめくる必要がなくなります。このタスクでは、個々のページにはあまり手を加えず、主にデフォルトのオプションを使用します。

ヒント

- 次のタスクの多くは「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログで行ないます。また、各タスクの最後には「適用 (Apply)」をクリックして変更を適用し、「閉じる (Close)」をクリックしてダイアログを閉じます。ただし、「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログを閉じることなく変更を適用することもできます。これは、ダイアログをセカンドディスプレイで開いている場合に特に便利です。タスクごとにダイアログを閉じて開きなおすのではなく、「左ページから始める」のセクションの最後までダイアログを開いておくことができます。
- フルスコアのレイアウトを出荷時のレイアウトオプションにリセットすることをおすすめします。これを行なうには、「レイアウトオプション (Layout Options)」ダイアログ ([Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]) の下部にある「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」をクリックします。デフォルト設定を保存している場合は、[Ctrl] (Windows) 又は [Opt] (macOS) を押して「出荷時の設定にリセット (Reset to Factory)」を表示させる必要があります。

タイトルと作曲者の追加

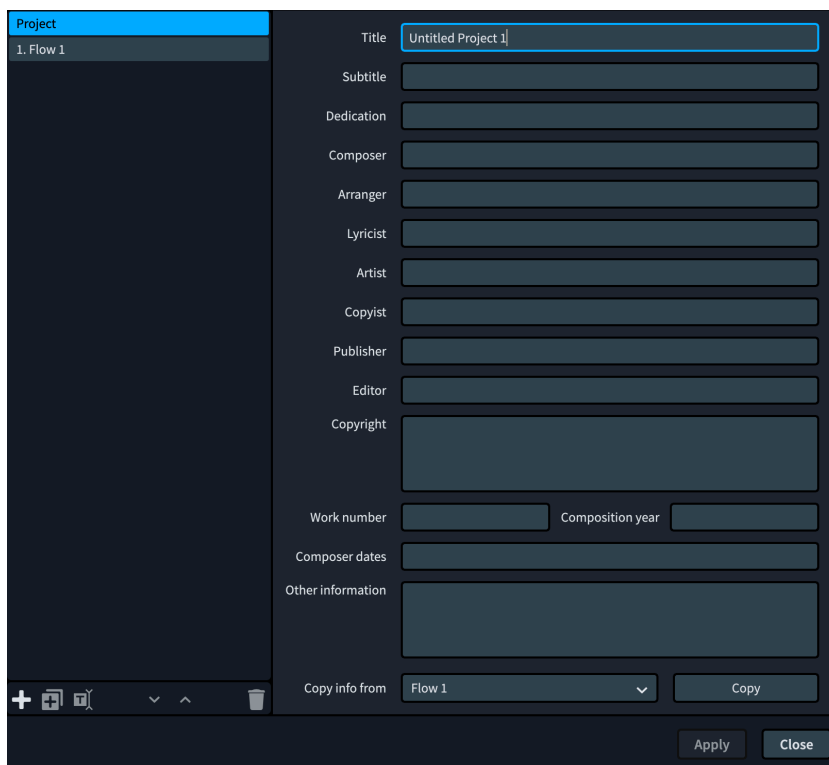
プロジェクトにタイトルと作曲者の情報を追加する必要があります。1ページめには、プロジェクトタイトル (名称未設定のプロジェクト1など) とフロータイトル (フロー1) という2種類のタイトルが表示されます。

プロジェクトタイトルとフロータイトルがあるのは、Dorico では同じプロジェクト内にフローと呼ばれる個別の楽譜を複数含めることができるためです。たとえば、4つの楽章からなる『交響曲ト長調』

というプロジェクトがあり、各楽章に個別のフローがある場合などです。今回のプロジェクトのフローは1つのみです。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[I]** を押して「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログを開きます。
 - 「プロジェクト情報 (Project Info)」ダイアログは、「ファイル (File)」 > 「プロジェクト情報 (Project Info)」を選択して開くこともできます。



2. 左側のリストで「プロジェクト (Project)」を選択した状態で、「タイトル (Title)」フィールドに「Walzer-Capricen No. 2」と入力します。
3. 「作曲家 (Composer)」フィールドに「Dora Pejačević」と入力します。

補足

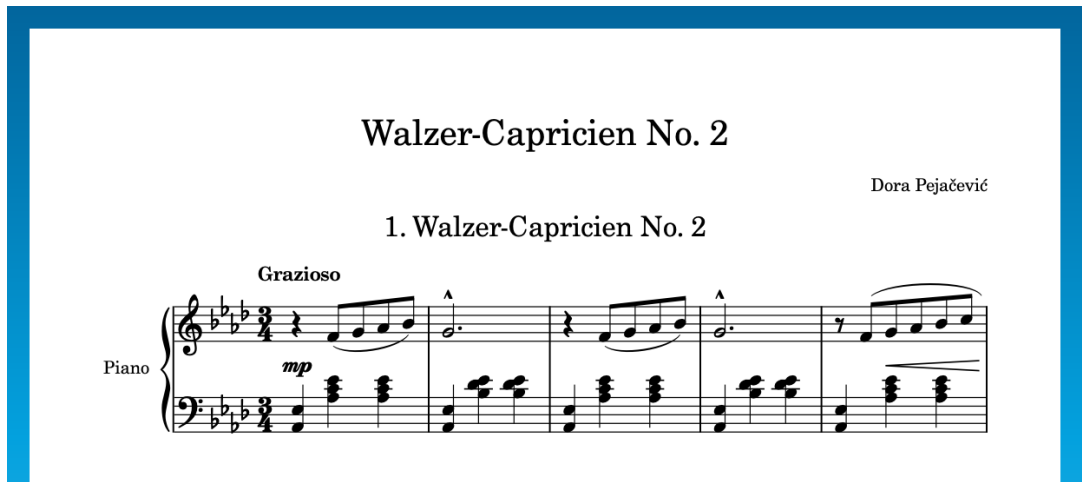
アクセント記号が付いた文字は、貼り付けるのではなく、文字コード表 (Windows) や文字ビューア (macOS) を使用して直接入力してください。

4. 左側のリストで「フロー 1 (Flow 1)」を選択します。
5. ダイアログ下部で、「次の楽譜から情報をコピー (Copy info from)」に「プロジェクト (Project)」が選択されていることを確認します。
6. 「コピー (Copy)」をクリックして、「プロジェクト (Project)」から「フロー 1 (Flow 1)」にすべての情報をコピーします。
7. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

プロジェクトとフロー 1 両方のタイトルと作曲者が更新されます。

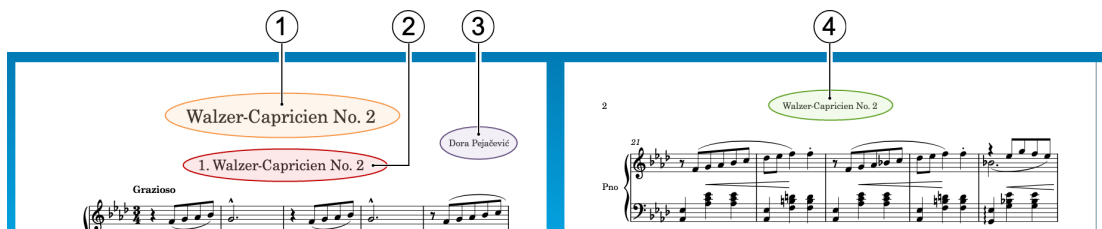
初期設定では、プロジェクトタイトルとフロータイトルはトークンを使用して別々の場所を参照するため、別々の場所で使用されているトークンを変更するより、「プロジェクト情報 (Project Info)」でプロジェクトとフローに同じ情報を設定する方が簡単な場合があります。



マスターページとトークン

マスターページとテキストトークンを完全に編集して使用できるのは Dorico Pro のみですが、Dorico がそれらを使用してページに情報を表示する際の基本原理を理解しておくことは、製品バージョンに関係なく重要です。

「プロジェクト情報 (Project Info)」に情報を追加すると、その情報が自動的に楽譜に表示されます。これにより、次の情報が影響を受けます。

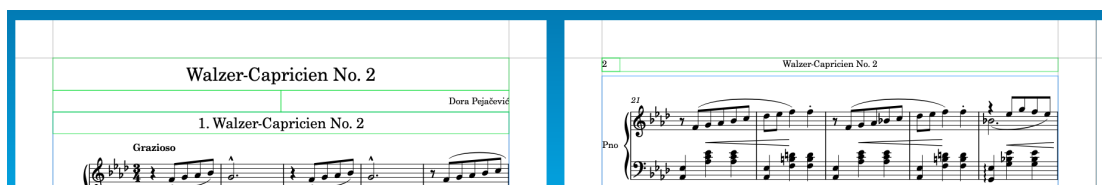


- 1 プロジェクトのタイトル
- 2 フロー 1 の番号とタイトルを表示するフロー見出し
- 3 プロジェクトの作曲者
- 4 フロー 1 のタイトルを表示する欄外見出し

フロー見出しと欄外見出しは、どちらもプロジェクトのタイトルではなくフローのタイトルを参照するため、それぞれの見出しの下の最も近いフローに応じて自動的に更新されます。たとえば、プロジェクトに 4 つのフローが含まれている場合、すべてのページに同じページ形式設定を使用し、フローのタイトルは常に関連するフローを参照するようにできます。

Dorico では、「プロジェクト情報 (Project Info)」の各フィールドを参照するテキストトークンを使用することでこれを実現します。テキストトークンには、フローのタイトルやレイアウト名などの対応する情報が自動的に生成されます。

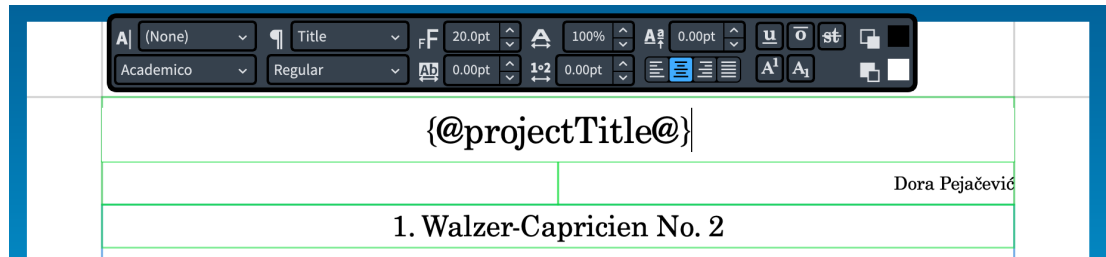
Dorico Pro では、浄書モードに切り替えると、これらのトークンを含むデフォルトのマスターページ上の緑色のテキストフレームが表示されます。



マスターページは Dorico のテンプレートのように機能し、同じページの形式設定を複数の異なるページや別のレイアウトに適用できます。スコアとパートのすべてのページには、マスターページのページ形式が引き継がれます。マスターページを作成したり何らかの変更を加えたりすると、そのマスターページを使用するページに自動で反映されます。

プロジェクトのタイトルと作曲者はどちらも「最初 (First)」のマスターページに表示されます。欄外見出しは「デフォルト (Default)」のマスターページに表示されます。フロー見出しはフローの最初の組段の上、楽曲フレームの内側に表示されます。

ページ番号 1 の上部のテキストフレームをダブルクリックするか、テキストフレームの端を選択して **[Return]** を押すと、プロジェクトタイトルを生成するトークンが表示されます。



補足

- ページ上でフレームを直接編集すると、ページの優先が設定されます。マスターページのページ形式を使用するフレームを変更したい場合は、マスターページ自体を編集することをおすすめします。そうすることで、多くのページに同じ変更を加える場合、1 回の変更ですべてのページを更新できます。
- マスターページのデフォルトのフレームでは、パラグラフスタイルを使用することで、対応するタイプのテキストの書式を一貫して設定します。Dorico Pro では、「浄書 (Engrave)」 > 「パラグラフスタイル (Paragraph Styles)」を選択してパラグラフスタイルを編集できます。
- Dorico Pro では、テキストフレーム内で右クリックして表示されるコンテキストメニューからトークンにアクセスできます。

フロー見出しを非表示にする

このプロジェクトにはフローが 1 つしかなく、プロジェクトタイトルと重複するためフロー見出しを非表示にしても構いません。もしもプロジェクトにベヤチェヴィチの『ワルツ-カプリス Op.28』の全 9 曲が含まれている場合は、各楽譜の上にフロー見出しを表示させた方がいいでしょう。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
3. 「フロー (Flows)」セクションで、「フロー見出しを表示 (Show flow headings)」に「常になし (Never)」を選択します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果


レイアウトのすべてのフロー見出しが非表示になります。ただし、この操作では 2 ~ 4 ページの上部欄外見出しは非表示になりません。

Walzer-Capricien No. 2

Dora Pejačević

Grazioso

Piano *mp*



ヒント

- 複数のレイアウトがあるプロジェクトでは、オプションを変更する前に右側のリストで対象のレイアウトを選択します。
- Dorico Pro をお使いの場合、浄書モードに切り替え、フロー見出しのフレームを選択して **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押したくなるかもしれませんが、フロー見出しの削除はこの方法で行なうことをおすすめします。この方法ならページの優先が設定されず、レイアウト内のすべてのフロー見出しが非表示になるため、個々に削除する必要がありません。

譜表ラベルを非表示にする

この楽譜には 1 人のピアノプレーヤーしか含まれていないため、譜表ラベルを非表示にすることで、有用な情報を失うことなく楽譜の水平方向のスペースを広げることができます。浄書では、各パートの最初の組段をインデントする伝統があるため、ここでも最初の組段のインデントを少し追加します。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「譜表と組段 (Staves and Systems)」をクリックします。
3. 「譜表ラベル (Staff Labels)」セクションで、以下の両方のオプションに「なし (None)」を選択します。
 - 最初の組段の譜表ラベル (Staff labels on first system)
 - 次の組段の譜表ラベル (Staff labels on subsequent systems)
4. 「フローの最初の組段のインデント [n] スペース (Indent first system of flow by [n] spaces)」に「6」と入力します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。


結果

レイアウトのすべての組段の譜表ラベルが非表示になり、最初の組段が 6 スペース分インデントされます。

Walzer-Capricien No. 2

Dora Pejačević

Grazioso



ページのサイズと余白の変更

各ページの楽譜スペースを広げるためにできる次の作業は、ページ余白を変更することです。また、この例と同じようにページサイズを A4 に変更することもできます。

Dorico には、以下のタイプの余白があります。

- 4 辺すべてのページ余白。フレームの使用できる領域を制御します。フレームはページ余白を越えられません。
- 楽曲フレーム上下の楽曲フレームの余白。楽曲フレーム上下と上下の譜表線の間隔を制御します。非常に高い音や非常に低い音は楽曲フレームの余白に及ぶため、たとえば非常に低いチェロパートなどでは楽曲フレームの下部の余白を広くする必要があります。

ヒント

- 「優先する基準単位 (Preferred unit of measurement)」は、「環境設定 (Preferences)」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[,]**) の「全般 (General)」ページで変更できます。このタスクではミリメートルとインチを使用します。
- オプションダイアログで **[Tab]** を押すと次の値フィールドを選択できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
3. 「ページサイズ (Page Size)」セクションで、「サイズ (Size)」メニューから「A4」を選択します。
4. 「ページ余白 (Page Margins)」セクションでページ余白を変更します。
 - 「上 (Top)」に「11」mm または「0.433」インチと入力します。
 - 「下 (Bottom)」に「12」mm または「0.473」インチと入力します。
 - 「左 (Left)」に「14」mm または「0.551」インチと入力します。
 - 「右 (Right)」に「14」mm または「0.551」インチと入力します。

5. 「**楽曲フレームの余白 (Music Frame Margins)**」セクションで、楽曲フレームの余白を変更します。
 - 「**上 (Top)**」に「**12**」mm または「**0.473**」インチと入力します。
 - 「**下 (Bottom)**」に「**8**」mm または「**0.315**」インチと入力します。
6. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。

結果

レイアウトのすべてのページの余白が変更され、ページサイズが A4 に設定されます。前のタスクで譜表ラベルを非表示にしてこの変更を行なうと、配置設定 (組段およびページへの楽譜の振り分け) が自動的に更新されます。

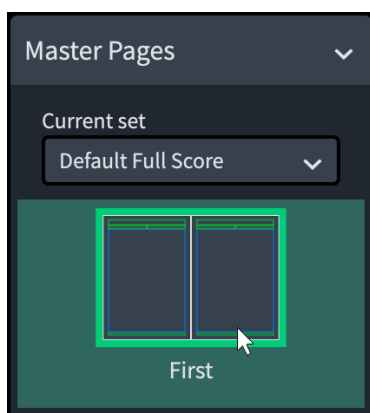


著作権テキストフレームの削除 (Dorico Pro のみ)

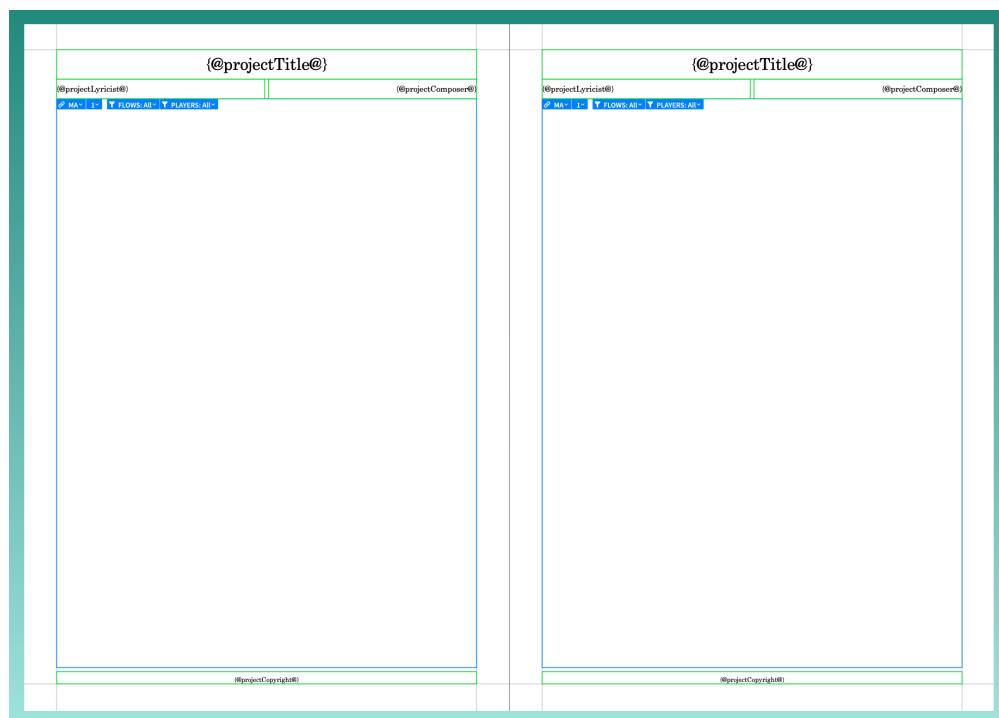
初期設定では、「**最初 (First)**」のマスターページ (楽譜の最初のページに使用される) の下部に、著作権表示のためのテキストフレームが含まれています。この楽譜には著作権表示が必要ないため、Dorico Pro ユーザーはこのテキストフレームを削除して楽譜に使用できる垂直方向のスペースを増やし、すべてのページに対して一番下の譜表の位置を揃えることができます。

手順

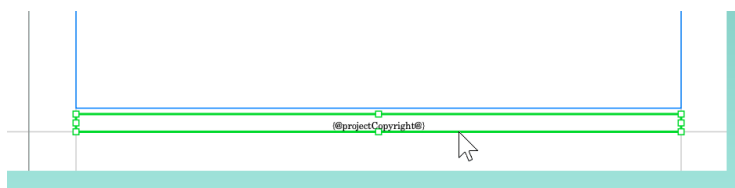
1. **[Ctrl]/[command]+[3]** を押すか、ツールバーの「**浄書 (Engrave)**」をクリックして浄書モードに切り替えます。
2. ウィンドウの右側にあるページパネルで、「**マスターページ (Master Pages)**」セクションの「**最初 (First)**」をダブルクリックします。



- 右パネルが表示されていない場合は、**[Ctrl]/[command]+[9]** を押して表示します。
- これにより、「**最初 (First)**」のマスターページがマスターページエディターで開かれます。

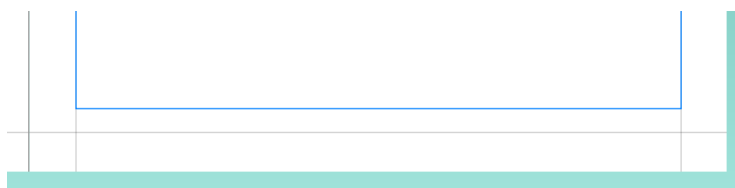


3. 右ページ下部の著作権テキストフレームを選択します。

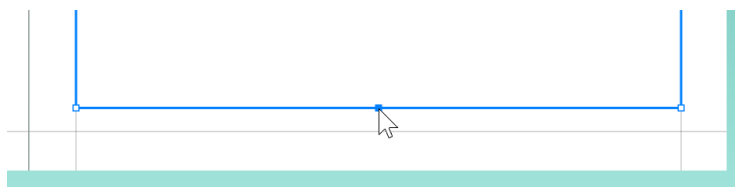


- Dorico のマスターページは見開きページとして機能するため、奇数番号の右ページと偶数番号の左ページの外観を必要に応じて変えることができます。左ページの著作権フレームを選択してもかまいませんが、その場合は手順7でもう一方のボタンをクリックする必要があります。

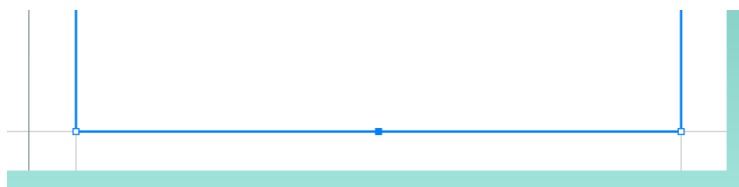
4. **[Backspace]** 又は **[Delete]** を押してフレームを削除します。



5. 右ページの楽譜フレームの下端にある中央ハンドルを選択します。



- これを行なうには、フレームの端のどこかをクリックしてフレーム全体を選択することでハンドルを表示し、中央ハンドルをクリックします。または、フレーム全体を選択した状態で、**[Tab]** を押して左上角のハンドルが選択された状態にし、**[↓]** を2回、**[→]** を1回押して下部の中央ハンドルを選択します。
6. このハンドルをクリックして下部のページ余白までドラッグします。



- 下部のページ余白に到達するまで **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↓]** を押し続けてください。
7. 楽譜領域の上部にある「**右から左にコピー (Copy right to left)**」 **[L←R]** をクリックします。
 - 左ページの著作権フレームを削除した場合は、代わりに「**左から右にコピー (Copy left to right)**」 **[R→L]** をクリックします。
 8. 楽譜領域の右上にある「**適用 (Apply)**」をクリックし、「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

「**最初 (First)**」のマスターページの左右のページから著作権テキストトークンが削除され、楽譜フレームがページの下部まで延長されました。これに応じて、レイアウトの1ページ目が自動的に更新されます。このページは「**最初 (First)**」のマスターページを使用しており、マスターページへの変更が反映されることを妨げるページの優先度が設定されていないためです。

譜表サイズの変更

譜表サイズには伝統的な5線のサイズがあり、各スペースの高さ、または譜表全体の高さのいずれかによって決まります。譜表サイズが大きすぎて組段が重なり始めた場合などに、最も手早くスコアの見栄えをよくする方法は、最も適切な譜表サイズを見つけることです。

パートレイアウトの最も一般的な譜表サイズは7 mm ですが、少し小さい6.5 mm でもピアニストには十分読みやすく、必要なページ数がさらに少なくなります。楽器と譜面台との距離が離れるトロンボーンやコントラバスの演奏者には、大きめの譜表サイズが人気です。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「**レイアウトオプション (Layout Options)**」を開きます。
 2. カテゴリリストの「**ページ設定 (Page Setup)**」をクリックします。
 3. 「**線間の高さ (Space Size)**」セクションにある「**5線のサイズ (Rastral size)**」メニューから「**サイズ 4 (6.5mm) (Size 4 (6.5mm))**」を選択します。
 4. 「**適用 (Apply)**」をクリックしてから「**閉じる (Close)**」をクリックします。
-

結果

譜表サイズが小さくなり、楽譜が3ページに収まりました。



垂直方向のスペーシング設定の変更

次に、垂直方向のスペーシングのデフォルト設定を小さくすることで、譜表や組段に許容する最小スペースを小さくできます。

Dorico では、高い音符と低い音符、強弱記号、テキストなどに対して、衝突回避の計算を自動的に実行します。衝突回避に加え、これらの間隔を設定することでスペーシングを変更できます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「垂直方向のスペーシング (Vertical Spacing)」をクリックします。
3. 「最適間隔 (Ideal Gaps)」セクションで、「連合譜表から連合譜表 (Braced staff to braced staff)」に「4 7/8」と入力します。
4. 「組段内の間隔 (Inter-system gap)」に「8」と入力します。
5. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

すべての譜表と組段の間隔が狭まり、ページ数が2ページに近付きます。



音符と譜表をまたぐ連桁のスペーシングの変更

3 ページめの残りの楽譜を 1～2 ページに収めるには、各組段により多くの小節が収まるように、音符のスペーシングの最小値を小さくします。同時に、譜表をまたぐ連桁の符尾間の間隔を均等にできます。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「音符のスペーシング (Note Spacing)」をクリックします。
3. 「4 分音符のデフォルトのスペーシング (Default space for crotchet/quarter note)」に「3 1/4」と入力します。
4. 「短音符のスペーシング最小値 (Minimum space for short notes)」に「1 1/2」と入力します。
 - または、この値に達するまで数値フィールドの右側の下矢印をクリックします。
5. 「譜表間の連桁のスペーシングの最適化 (Optical spacing for beams between staves)」をオンにします。
6. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

音符間の水平方向のスペーシングの最小値が小さくなることで、各組段により多くの小節が表示され、楽譜全体を 2 ページに収めることができます。それでも 2 ページに収まらない場合は、前のタスクで説明したパラメーターを少しずつ調整してみてください。

小節番号 33～35 の譜表をまたぐ連桁のスペーシングが最適化され、符頭間の間隔ではなく符尾間の間隔が均等になります。この楽譜は、符尾間の間隔を均等にして符頭間の間隔を大きくしたことで結果的に見栄えが良くなりましたが、場合によっては符頭間の間隔を均等にした方がいいケースもあります。

Walzer-Capricien No. 2
Dora Pejačević

Grazioso
mp

poco rit. a tempo
mf pp

rit. a tempo
ff

37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69

accelerando rit. a tempo
ff mf

左ページから始める

ここまでの作業でレイアウトが2ページに収まったので、1ページめが左ページ、2ページめが右ページとなる見開きページとして設定しておきましょう。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]** を押して「レイアウトオプション (Layout Options)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「ページ設定 (Page Setup)」をクリックします。
3. 「ページ番号 (Page Numbers)」セクションで、「開始ページ番号 (Initial page number)」に「2」と入力します。
4. 「適用 (Apply)」をクリックしてから「閉じる (Close)」をクリックします。

結果

開始ページ番号が変更され、以前のページ番号2がページ番号3になります。開始ページ番号が偶数になったため、自動的に最初のおページが左ページとして扱われ、楽譜領域のレイアウトが更新されて隣接するページが表示されます。2ページめは右ページとして形式設定されているため、ページ番号はページの左上ではなく右上に表示されます。

ヒント

- 2 ページめの上部にあるリピート括弧は欄外見出しのすぐ近くにあり、ページ番号は右上角に配置されています。Dorico Pro をお使いの場合は、「**最初 (First)**」のマスターページから著作権フレームを削除したときと同様に「**デフォルト (Default)**」のマスターページを編集して楽曲フレームの上部を少し下に動かせば間隔を広げることができます。

どの製品バージョンでも楽曲フレームの上部の余白を広げることができますが、この操作はタイトルと作曲者情報が記載された垂直方向のスペースが少ない最初のページにも適用されます。

- Dorico Elements または Dorico SE をお使いの場合は、タイトルページを別のアプリケーションで作成したあと、プロジェクトを書き出した PDF と結合することで 3 ページのドキュメントを作成できます。

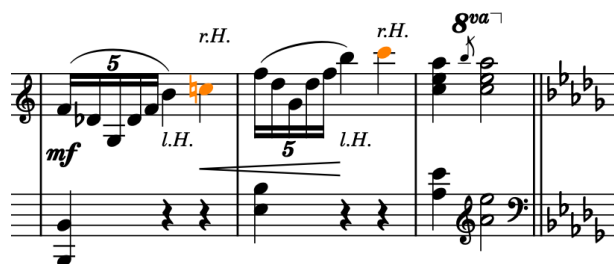
Dorico Pro をお使いの場合は、開始ページ番号を変更するかわりに、レイアウトの最初に空のページを挿入し、テキストフレームとグラフィックフレームを使用してタイトルページを作成できます。このガイドでは説明しませんが、[こちら](#)のようなビデオチュートリアルをご覧ください。


符尾の方向の変更

左右どちらの手で音符を演奏するかを明確にするために、音符の符尾が、ピッチに応じてデフォルトとは異なる方向を向く場合があります。これを一致させるために、個々の音符の符尾の方向を変更できます。

手順

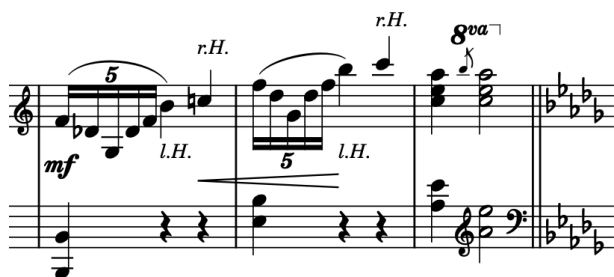
1. 小節番号 30、31、72、73 で、**[Ctrl]/[command]** を押しながら C をクリックします。



- たとえば、**[Z]** 又は **[Ctrl]/[command]+^** を押すか、プロジェクトウィンドウ下部のステータスバーにあるズームオプション  を使用して、音符が大きく表示されるようにズームインできます。
- [F]** を押して、選択した音符の符尾の方向を反転します。
 - 第3線の音符の符尾は周囲の状況に応じて上向きにも下向きにもなるため、Cの符尾を上向きにした小節番号30と72では、Bbの符尾も自動的に反転されます。しかし、手を区別するために、Bbの符尾は下向きにするべきです。
 - 小節番号30と72でBbを選択して **[F]** を押します。

結果

選択した音符の符尾の向きが反転し、Cの符尾は上向き、Bbの符尾は下向きになっています。



補足

符尾が上向きの声部または符尾が下向きの声部に音符を変更するべきときに、符尾の向きを反転することはおすすめしません。休符が表示されていない場合は、音符の声部に関係なく、ピッチに応じて音符の符尾の向きが自動的に変更されます。

連桁のグループ化の変更

Dorico では、現在の拍子記号に応じて音符が自動的に連桁で連結されます。この楽譜の最初の状態では、拍子記号に準じていない連桁グループがあるため、連桁グループを手動で変更する必要があります。

手順

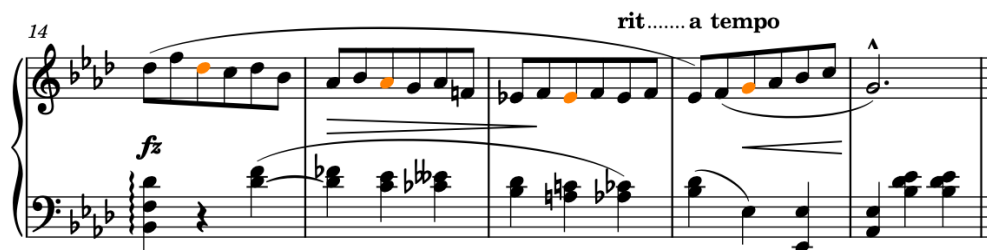
- 小節番号5、7、21、23、47、49、63、65で、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上の譜表のFをクリックします。



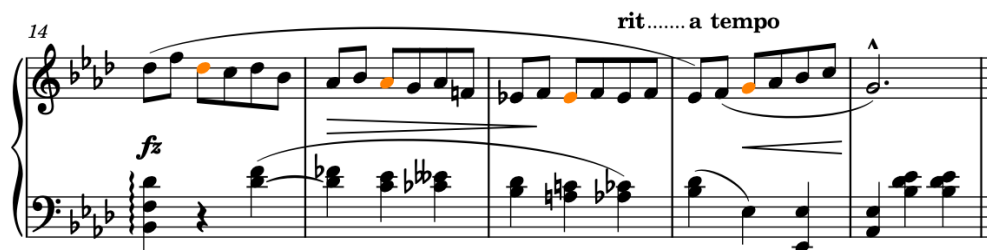
2. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を解除 (Make Unbeamed)」を選択するか、右クリックで表示されるコンテキストメニューからこのオプションを選択すると、選択したすべての音符が連桁グループから分割されます。



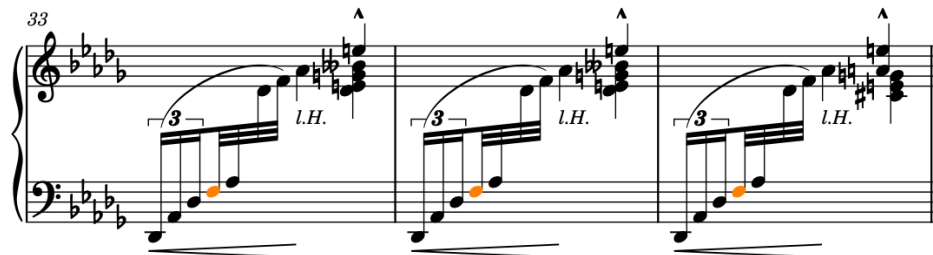
3. 小節番号 14～17 および 56～59 で、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上の譜表の各小節の 3 つめの 8 分音符をクリックします。



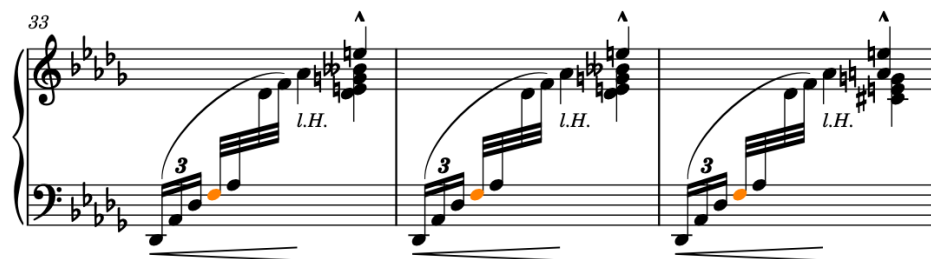
4. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を分割 (Split Beam)」を選択するか、右クリックで表示されるコンテキストメニューからこのオプションを選択すると、選択した音符の左側の連桁が分割されますが、右側の連桁はそのままになります。



5. 小節番号 33～35 で、各小節の最初の 32 分音符の F、つまり各小節の 4 つめの音符を選択します。



6. 「編集 (Edit)」 > 「連桁 (Beaming)」 > 「連桁を分割 (Split Beam)」を選択するか、右クリックで表示されるコンテキストメニューからこのオプションを選択すると、選択した音符の左側の連桁が分割されます。



結果

選択した小節のデフォルトの連桁のグループ化が変更されました。

ヒント

多くの小節で連桁のグループ化を同じように変更する場合は、拍子記号の一部として指定できます。たとえば、7/8の拍子記号を2+3+2にグループ化するには、ポップオーバーに「[2+3+2]/8」と入力します。Dorico Proでは、さまざまな状況におけるデフォルトの連桁のグループ化を「**記譜オプション (Notation Options)**」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]**)の「**連桁のグループ化 (Beam Grouping)**」ページで変更することもできます。

強弱記号の整列

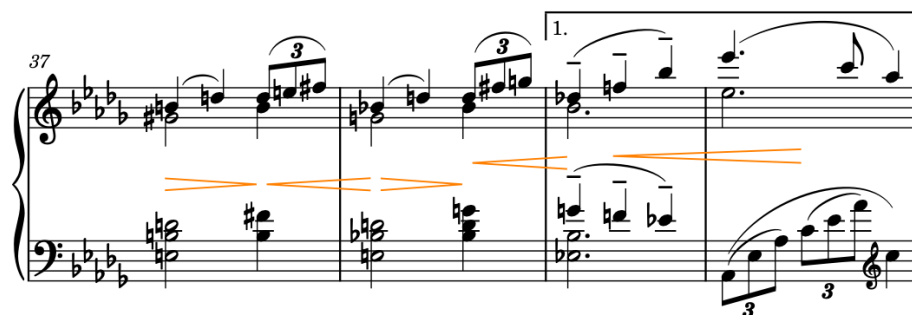
強弱記号を個別に追加した場合に、垂直方向の位置が揃っていないことがあります。強弱記号をグループ化して1列に並べることができます。

前提条件

記譜モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[2]** を押します)。

手順

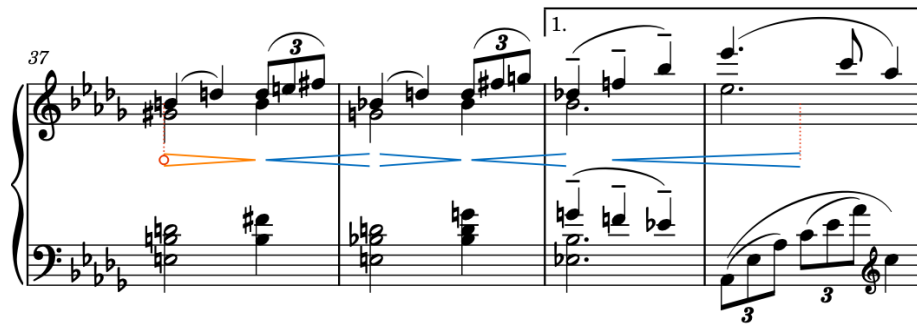
1. 記譜モードで、1つのグループにまとめる強弱記号を選択します。たとえば、小節番号37～40のすべてのヘアピンは個別に追加されたため、これらは揃っていません。



2. 「**編集 (Edit)**」 > 「**強弱記号 (Dynamics)**」 > 「**強弱記号のグループ化 (Group Dynamics)**」を選択するか、右クリックしてコンテキストメニューからこのオプションを選択します。

結果

選択した強弱記号がグループ化され、自動的に揃えられます。グループ内のいずれかの強弱記号を選択すると、そのグループの他の強弱記号が強調表示されます。



グループ化された強弱記号は1つのまとまりとして機能します。たとえば、長さを変更するコマンドは、グループ内の個々の強弱記号ではなくグループ全体に適用されます。

ヒント

- Dorico Pro では、強弱記号をグループ化せず1列に並べることもできます。この操作を行なうには、強弱記号を選択して「編集 (Edit)」 > 「強弱記号 (Dynamics)」 > 「強弱記号を整列 (Align Dynamics)」を選択します。強弱記号のグループ化はすべてのレイアウトに適用されますが、この操作は個々のレイアウトにのみ適用されます。
- また、強弱記号を垂直方向にリンクさせることもできます。これにより、複数の譜表にわたる同じ強弱記号が連結されます。

手順終了後の項目

引き続き、位置を揃えて同じグループに入れたい他の強弱記号をグループ化します。たとえば、小節番号 51 ~ 52 や 53 ~ 54 などです。

スラーの形状の調節 (Dorico Pro のみ)

オリジナル版では、休符から始まるものを含め、スラーはフレーズ全体に適用されていましたが、現在では、多くのスラーは追加された声部に応じてデフォルトのカーブの向きと形状に従います。Dorico ではスラーを休符から開始したり休符で終了したりできないため、このように表示させるには形状を手動で調整する必要があります。

補足

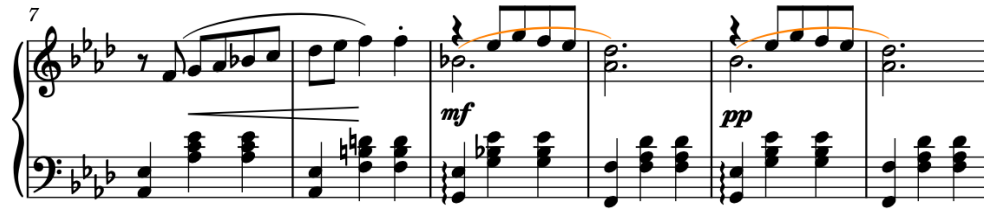
スラーのカーブの向きはすべての製品バージョンで変更できますが、さらに細かい調節を行なえるのは Dorico Pro のみです。そのため、Dorico Elements または Dorico SE をお使いの方はこの手順をスキップしていただいてもかまいません。

手順

1. 小節番号 9 ~ 12 で、**[Ctrl]/[command]** を押しながら上の譜表のスラーをクリックします。



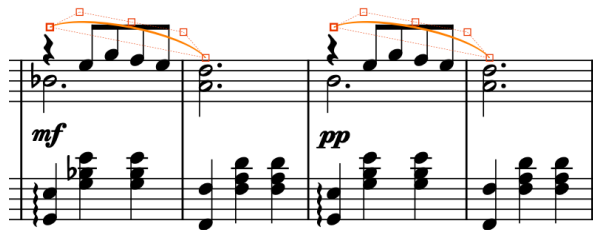
2. **[F]** を押してカーブを上向きに変更します。



3. 浄書モードを開いていない場合は、**[Ctrl]/[command]+[3]** を押して浄書モードに切り替えます。
4. 反転したスラーの開始ハンドルを選択します。



- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**ハンドルを表示 (Show Handles)**」 > 「**常時 (Always)**」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。
5. エンドポイントが4分休符の上にくるまで **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押します。
 - **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を4回押すことをおすすめします。



6. コントロールポイントを一度に1つずつ選択し、スラーが連桁に沿ってカーブするように動かします。
 - コントロールポイントとは、内側のペア、つまり2番めと4番めのハンドルです。



- スラーの配置変更はクリエイティブな選択であるため、poco rit. がスラーとの衝突を自動的に回避することはありません。poco rit. や A tempo の記号を選択して **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を押すと、上に動かすことができます。

結果

小節番号 11～12 のスラーのカーブの向きと形状が変更され、移動したスラーと衝突しないように必要に応じてテンポ記号が移動されました。

手順終了後の項目

小節番号 13～14 および 51～56 にある同様のスラーに対してこれらの手順を繰り返します。

アイテムの表示位置の移動 (Dorico Pro のみ)

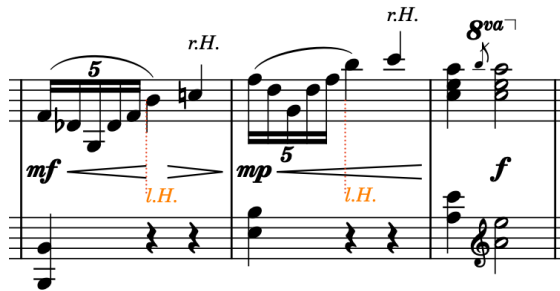
最後の手順として、Dorico Pro の浄書モードではアイテムの正確な表示位置を微調整できます。この手順では、右手と左手の指示記号の位置を改善し、いくつかのヘアピンの角度を変更し、別のヘアピンを移動して上下の譜表を近付けます。

前提条件

浄書モードを開いておきます ([Ctrl]/[command]+[3] を押します)。

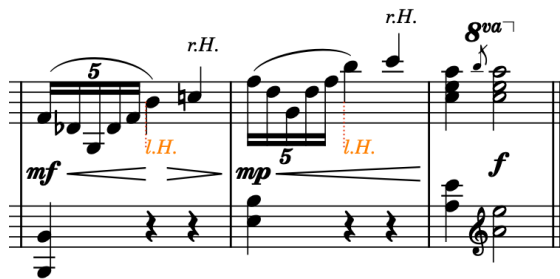
手順

1. 小節番号 72～73 で、上の譜表の下にある「l.H.」のテキストオブジェクトを選択します。



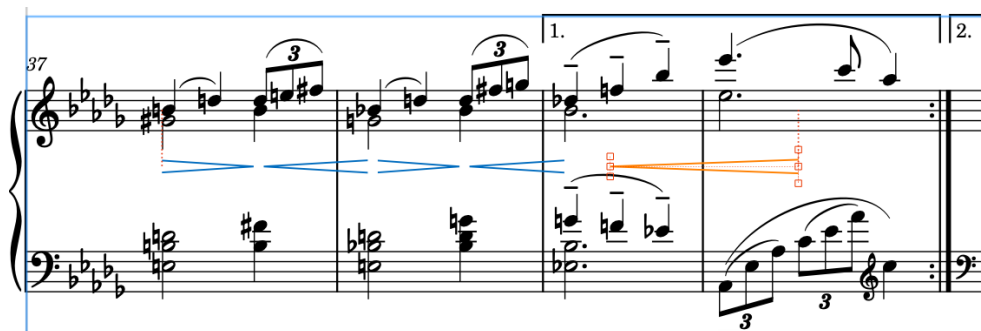
2. ウィンドウ下部のプロパティパネルで、「衝突を回避 (Avoid collisions)」を有効化しますがチェックボックスはオフのままにします。

- プロパティパネルが表示されていない場合は [Ctrl]/[command]+[8] を押して表示します。

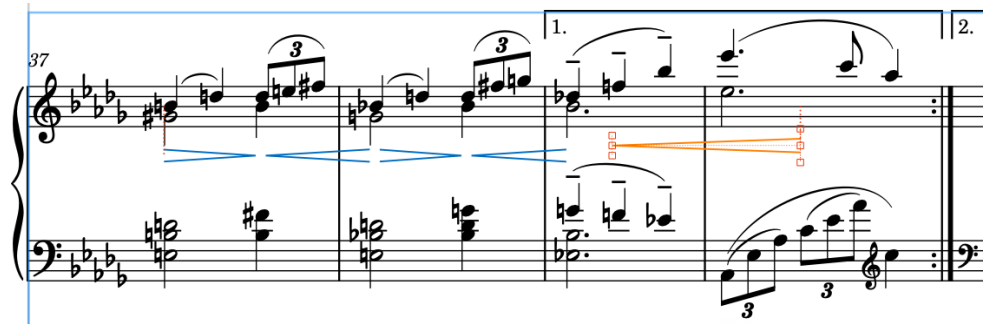


- このプロパティを有効にしてチェックボックスをオフにすると、選択したテキストオブジェクトが衝突を自動的に回避したり、垂直方向のスペーシングの計算に影響したりすることはありません。このプロパティをオフにすると、テキストオブジェクトはテキストの衝突回避のデフォルト設定に従います (Dorico Pro ユーザーは、この設定を「浄書 (Engrave)」 > 「浄書オプション (Engraving Options)」の「テキスト (Text)」ページで変更できます)。

3. 小節番号 39～40 で、グループ内の最後のヘアピンを選択します。

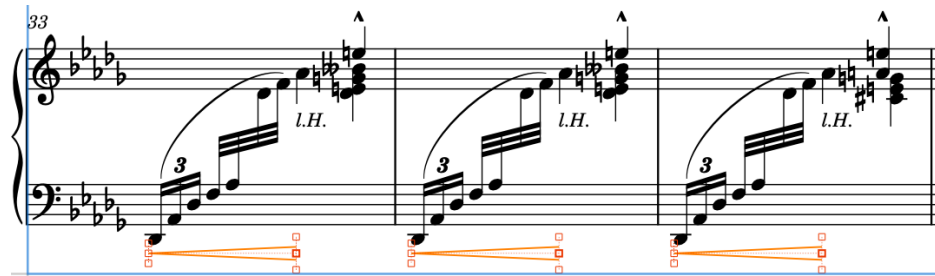


4. [Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑] を 1 回押してヘアピンを上動かします。



- 垂直方向のスペーシングへの圧迫が減ったことで、下の譜表が自動的に少し上に移動します。

5. 小節番号 33～35 で、各ヘアピンの終了ハンドル (終了位置の中央のハンドル) を選択します。



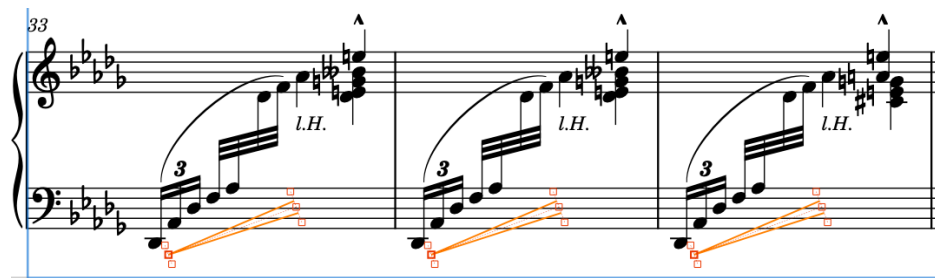
- 選択したアイテムだけではなく、すべてのアイテムにハンドルを表示するには、「浄書 (Engrave)」 > 「ハンドルを表示 (Show Handles)」 > 「常時 (Always)」を選択します。これにより、複数のアイテムの個々のハンドルを選択するのがより簡単になります。

6. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[↑]** を 5 回押します。

7. 各ヘアピンの開始ハンドル (開始位置の中央のハンドル) を選択します。

8. **[Ctrl]/[command]+[Alt/Opt]+[→]** を 2 回押し、**[Alt/Opt]+[↑]** を 2 回押します。

- **[Alt/Opt]** を押しながら矢印キーを押すと、アイテムの表示位置の移動幅が小さくなります。さらに **[Ctrl]/[command]** を一緒に押すと、アイテムの表示位置の移動幅が大きくなります。



結果

「L.H.」のテキストオブジェクトの衝突回避をオフにしたことで、オブジェクトを譜表とヘアピンの間に配置したり、ヘアピン全体を移動したり、ヘアピンの個々のハンドルを移動して角度を変えたりできるようになりました。

安定した結果を得られるように、浄書モードで表示上の編集を行っても、ほとんどの場合他のアイテムの位置には影響しません。

手順終了後の項目


浄書に役立つ詳しい情報は他にもありますが、差し当たりこの楽譜はこれでよさそうです。

次の手順では、楽譜を再生して作業の結果を確認し、記譜に影響を与えることなく再生時のサウンドを少しだけ調整します。

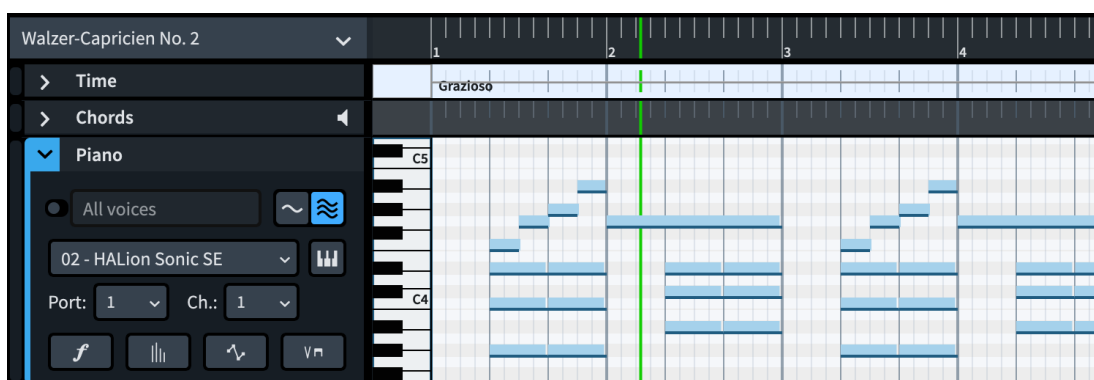
楽譜の再生

このプロセスの次の手順は楽譜がどのように再生されるかを聴き、必要に応じて変更を加えることです。再生時の楽譜の聴こえ方はさまざまな方法で調整できます。次のタスクでは、シンプルな調整方法をいくつか紹介します。

再生の開始と停止はどのモードでもできますが、再生に関するほとんどの操作は再生モードで行ないます。

再生モードでは、それまで楽譜領域としてページ上の譜表が表示されていたプロジェクトウィンドウの中央の領域がイベントディスプレイになり、楽譜がトラックに表示され、音符がピアノロールに表示されます。イベントディスプレイの上部には、現在のリズムグリッドの間隔に応じて小節番号と拍の区切りが表示されるルーラーがあります。リズムグリッドの間隔は、ウィンドウ下部のステータスバーにあるリズムグリッドセクター  を使用して変更できます。

再生モードでは、再生ヘッド (緑色の縦線) が再生中だけでなく常に表示されます。



補足

イベントディスプレイの左上のフローメニューには、「プロジェクト情報 (Project Info)」で設定したフロータイトルではなく、設定モードの「フロー (Flows)」パネルで設定したフロー名が使用されます。

オーディオ出力デバイスの変更

楽譜の再生を始める前に、オーディオ出力デバイスが正しく設定されていることを確認するといいでしよう。

前提条件

Dorico を起動したあとにオーディオ出力用の外部デバイスを接続した場合は、Dorico を再起動する必要があります。

手順

1. **[Ctrl]/[command]+[,]** を押して「環境設定 (Preferences)」を開きます。
2. カテゴリーリストの「再生 (Play)」をクリックします。
3. 下部の「オーディオデバイス (Audio Device)」サブセクションで、「オーディオデバイスの設定 (Audio Device Setup)」をクリックして「デバイス設定 (Device Setup)」ダイアログを開きます。

4. 使用するオーディオ出力デバイスを「**ASIO ドライバー (ASIO Driver)**」メニューから選択します。
5. デバイスの設定を編集する場合は、「**デバイスコントロールパネル (Device Control Panel)**」をクリックして設定ダイアログを開きます。
 - Windows ユーザー: Dorico だけでなくオンラインビデオなどの他のアプリケーションのサウンドも再生できるようにするには、「**選択されたポート構成を ASIO ホストアプリケーションだけに制御させる (Allow ASIO host application to take exclusive control of selected port configuration)**」をオフにします。
 - macOS ユーザー: オーディオ出力のボリュームが自動的に最大に設定されないようにするには、「**デバイスの減衰を 0 dB に設定する (Set Device Attenuation To 0 dB)**」をオフにします。コンピューターの出力とヘッドフォンが自動的に切り替わるようにするには、「**デバイスを自動的に構成 (Automatically Configure Devices)**」をオンにします。
6. 「**閉じる (Close)**」をクリックして各ダイアログを閉じます。

結果

オーディオ出力デバイスとデバイス設定が変更されます。

再生テンプレートの適用

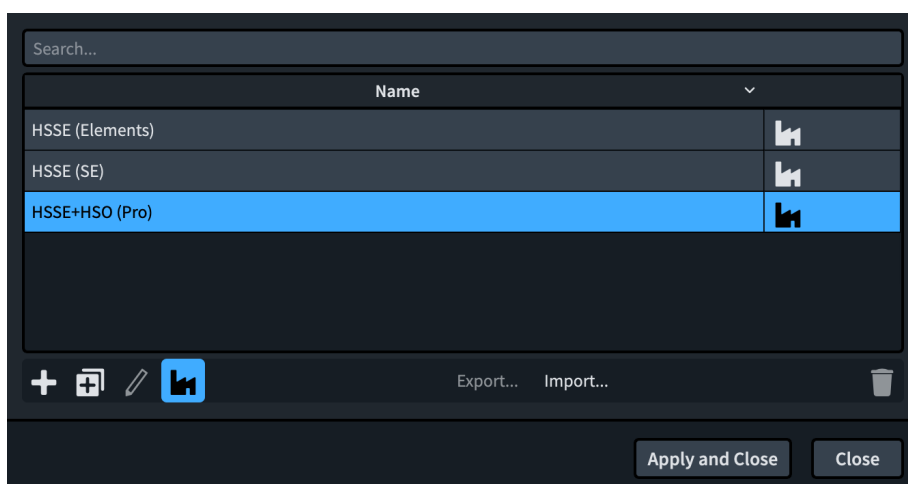
Dorico では、再生テンプレートを使用して、プロジェクト内のインストゥルメントに必要なすべてのサウンドを読み込みます。お使いの Dorico バージョンに付属するサウンドをインストールしている場合は、対応する再生テンプレートを適用できます。

前提条件

- 再生モードを開いておきます ([**Ctrl**]/[**command**]+[**4**] を押します)。
- お使いの Dorico バージョンに付属するサウンドをダウンロードしてインストールしておきます。サウンドをインストールしなくても Dorico は実行できますが、これらのサウンドには再生テンプレートとエクスプレッションマップが設定されているため、多くの場合、楽譜を再生する最もシンプルな方法です。

手順

1. 「**再生 (Play)**」 > 「**再生テンプレート (Playback Template)**」を選択して「**再生テンプレートを適用 (Apply Playback Template)**」ダイアログを開きます。



2. お使いの製品バージョンの再生テンプレートを選択します。
 - Dorico Pro をお使いの方は、「**HSSE+HSO (Pro)**」を選択します。
 - Dorico Elements をお使いの方は、「**HSSE (Elements)**」を選択します。

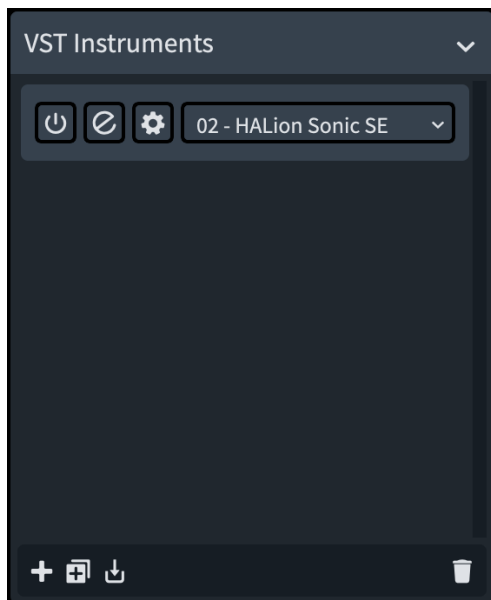
- Dorico SE をお使いの方は、「**HSSE (SE)**」を選択します。


3. 「適用して閉じる (Apply and Close)」をクリックします。

結果

選択した再生テンプレートがプロジェクトに適用されます。すでに適用されていた場合は再度適用され、再生テンプレートはデフォルトに戻ります。

ウィンドウの右側の VST および MIDI インストゥルメントパネルには、ピアノ用のサウンドを含むプラグインが読み込まれます。



VST インストゥルメントウィンドウを開くには、「**インストゥルメントを編集 (Edit Instrument)**」をクリックします。

楽譜の再生

ピアノサウンドが読み込まれ、楽譜全体を再生できるようになりました。この操作はどのモードでも行なえます。

手順

- **[Shift]+[Alt/Opt]+[Space]** を押すと、最初から再生が始まります。
 - 再生ヘッドがフローの最初でない場合は、再生ヘッドがフローの最初に移動し、再生に合わせて移動します。
 - **[Space]** 又は **[Enter]** を押して再生ヘッドの現在の位置から再生を始めることも、**[P]** を押して選択したアイテムから再生を始めることもできます。特定の譜表にある複数の異なるアイテムを選択して **[P]** を押すと、その譜表だけが再生されます。

結果

再生がフローの最初から始まり最後で終わるため、楽譜全体を聴くことができます。プロジェクトに他のフローがある場合は、短い間隔のあとに次のフローが続けて再生されます。

ヒント

サウンドの再生に問題がある場合は、[こちらのトラブルシューティングビデオ](#)をご覧ください。Windows ユーザーの方がこのビデオをご覧になるには、他のアプリケーションのサウンドを許可

するようにオーディオ出力デバイスが設定されていることを確認してください。または、ビデオをご覧になる前に Dorico を終了してください。

手順終了後の項目

全体のテンポを変更するには、記譜モードに切り替えて (**[Ctrl]/[command]+[2]** を押す)、開始位置で「Grazioso」テンポ記号を選択し、プロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループで「テンポ (bpm) (Tempo (bpm))」の値を変更します。

関連リンク

[オーディオ出力デバイスの変更 \(73 ページ\)](#)

再生時の強弱記号レベルを変更する

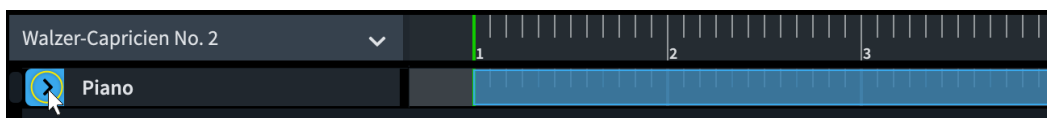
再生モードでは、楽譜の外観に影響を与えることなく強弱記号のレベルを変更できます。これを示すために、次の手順では小節番号 21 ~ 30 に焦点を当て、連続するクレッシェンドのヘアピンのボリュームを調節し、小節番号 30 へとつながる微かな非表示のディミヌエンドを追加してフレーズを形成します。


前提条件

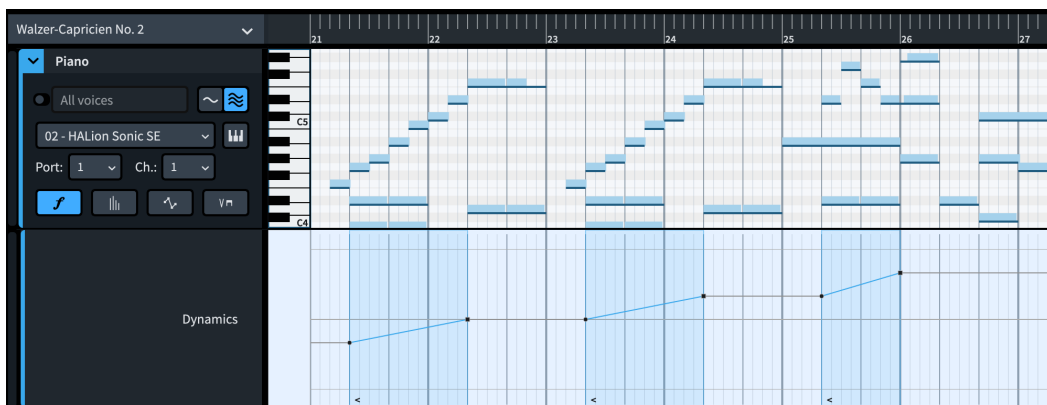
ピアノロールエディターとルーラーの間隔を狭くしたい場合は、「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」を選択し、イベントディスプレイ上部にあるタイムトラックとコードトラックのチェックを外すことでこれらのトラックを非表示にできます。

手順


1. ピアノトラックヘッダーの矢印をクリックしてトラックを展開します。

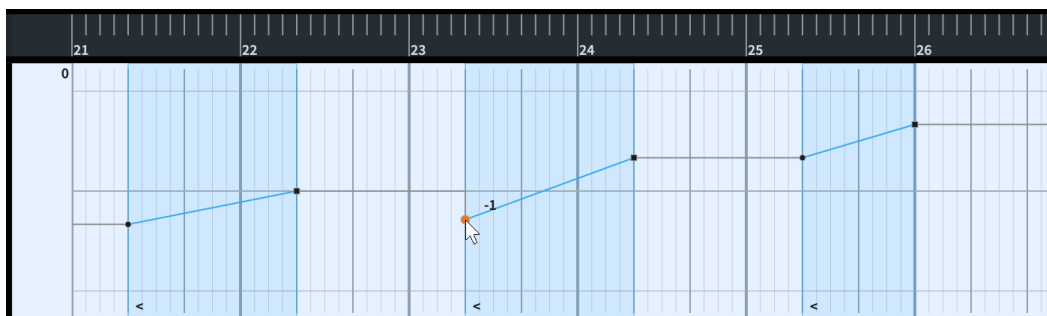


2. ピアノトラックヘッダーで、「強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)」  をクリックしてトラックの下に強弱記号レーンを表示します。

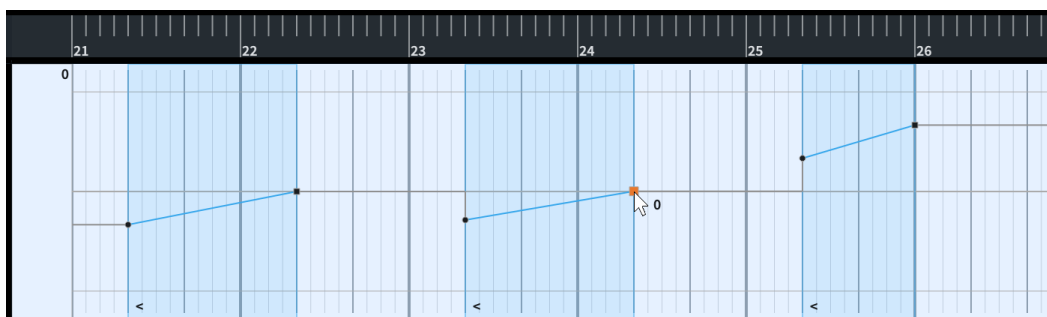



- トラックやレーンの高さを変更するには、トラックヘッダーの左下角の、マウスポインターが上下の矢印のアイコンに変わる場所をクリックしてドラッグします。または、トラックヘッダーを選択して **[Shift]+[H]** を押すとトラックが高くなり、**[Shift]+[G]** を押すとトラックが低くなります。
 - 小節番号 21 ~ 26 にはクレッシェンドのヘアピンが 3 つあり、ボリュームが累積的に大きくなっています。しかし、これらはほとんどの場合、各フレーズの開始時にリセットされる形成を示しているため、開始時の強弱レベルを調節するといいでしょう。
3. 「オブジェクトの選択 (Object Selection)」がまだ選択されていない場合は、**[S]** を押して選択します。

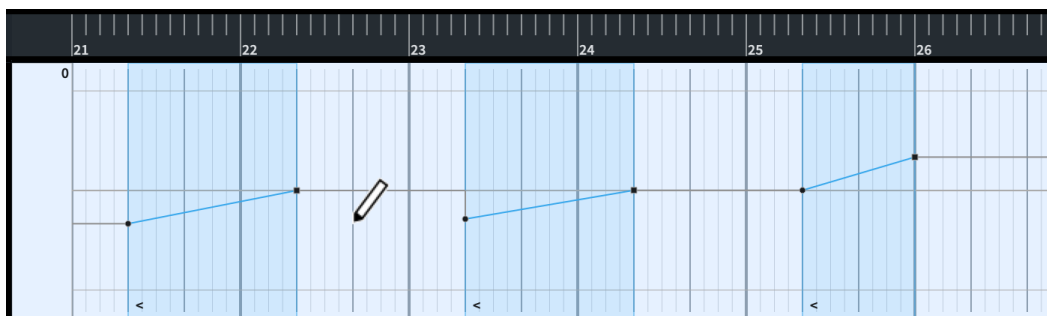
- ウィンドウの左側にある再生ツールボックスで「オブジェクトの選択 (Object Selection)」をクリックしても構いません。
4. 小節番号 23 で、クレッシェンドの開始ハンドルをクリックして、表示される値が「-1」になるまで、つまり小節番号 21 の開始位置と同等のレベルになるまで下向きにドラッグします。



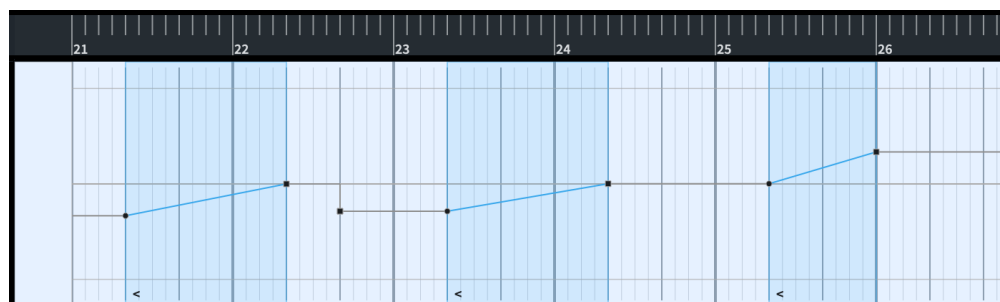
5. クレッシェンドの終了ハンドルをクリックして、表示される値が「0」になるまで下向きにドラッグします。





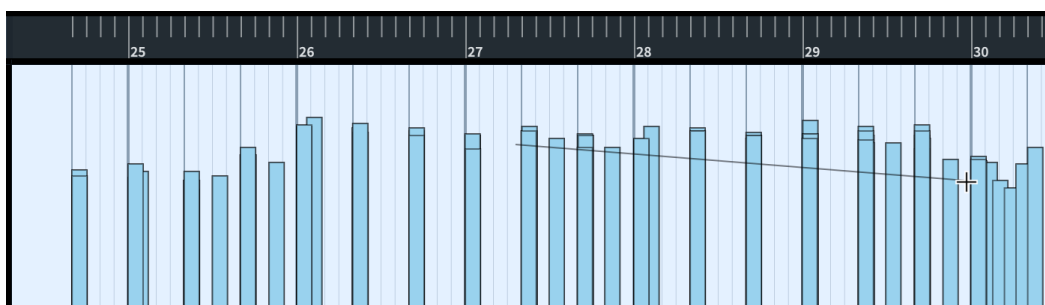
- 小節番号 25 にある次のクレッシェンドに同じ操作を行っても構いませんが、3 番目のクレッシェンドの音が少し大きくなる現在のフレーズ形成はとても自然に感じられます。小節番号 24 のクレッシェンドの終了ハンドルを下げたあとにマウスを放すと、それに応じて小節番号 25 のクレッシェンドも下がります。
6. **[D]** を押して鉛筆ツールを選択します。
- ウィンドウの左側にある再生ツールボックスで「鉛筆 (Draw)」をクリックしても構いません。
7. 小節番号 22 の 3 拍めで、前後のクレッシェンドの開始位置と同等のレベルの場所をクリックして強弱記号ポイントを入力します。



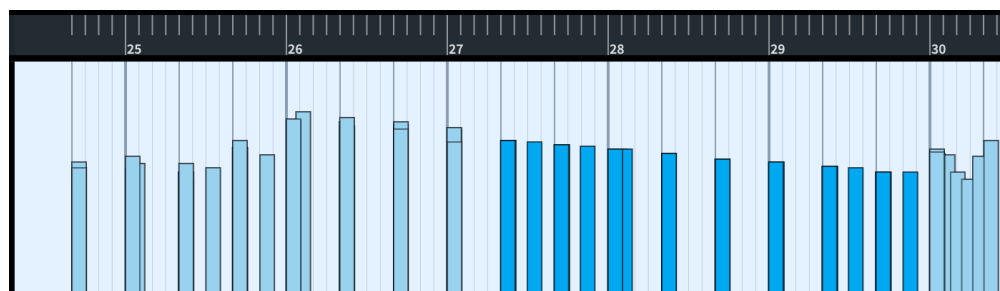
- これにより、小節番号 23 の強拍の強弱記号レベルが下がり、より自然に聴こえます。



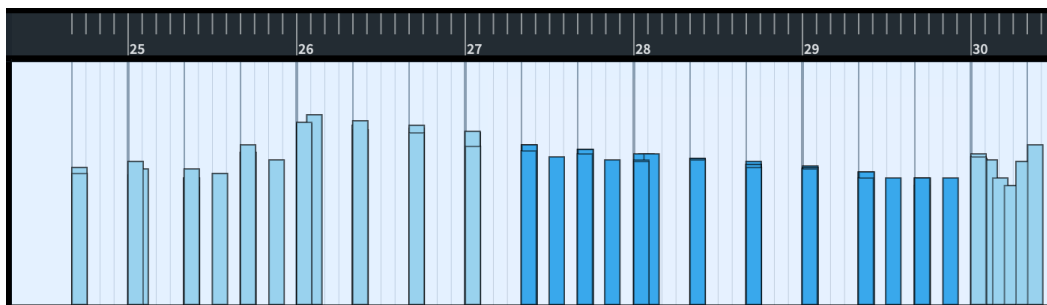
- 次の手順ではベロシティーレーンを使用するため、「強弱記号レーンを表示 (Show the dynamics lane)」 **f** をもう一度クリックして強弱記号レーンを非表示にしても構いません。
8. 「MIDI ノートベロシティーエディターを表示 (Show the MIDI note velocity editor)」  をクリックしてベロシティーレーンを表示します。
 - ベロシティーは、ピアノを含む非サスティン楽器の強弱記号を制御します。
 9. **[L]** を押してラインツールを選択します。
 - ウィンドウの左側にある再生ツールボックスで「ライン (Line)」  をクリックしても構いません。
 10. 小節番号 27 の 2 拍めから小節番号 30 が始まる直前まで、小節番号 26 の傾斜を参考にして、クリックアンドドラッグで下向きに傾斜したラインを描きます。



- マウスを放すと、影響を受ける範囲のすべてのノートベロシティーが調整されます。変更されたことを示すため、これらは別の色で表示されます。



11. 個々のノートのベロシティーを調節してフレーズを再びヒューマナイズしたい場合は、**[S]** を押しもう一度「オブジェクトの選択 (Object Selection)」を選択し、個々のベロシティーバーをクリックして上下にドラッグすることで結果にばらつきを出します。
 - 和音の個々の音符のベロシティーを変更するには、まずピアノロールで音符を選択してから、ベロシティーを変更します。



結果

記譜された楽譜に影響を与えることなく、1つのフレーズの強弱記号レベルを変更しました。

手順終了後の項目

- 影響を受けた小節だけを聴いて結果を確認するには、イベントディスプレイ上部のルーラーをクリックして再生ヘッドをその位置に移動し、**[Space]** 又は **[Enter]** を押してその位置から再生を開始または停止します。
- 必要に応じて、引き続き他の場所の強弱記号レベルを変更します。

poco rit. の最終的なテンポの変更

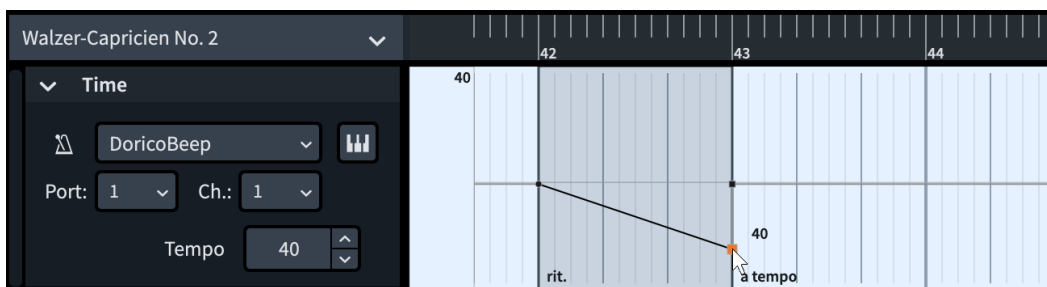
小節番号 42～43 の poco rit. は、もう少し遅くした方がよさそうです。この場合は、最終的なテンポを下げるといいでしょう。

手順

1. タイムトラックが非表示になっている場合は、「再生 (Play)」 > 「トラック (Tracks)」 > 「タイムトラック (Time Track)」 を選択して表示します。
2. タイムトラックヘッダーの矢印をクリックしてトラックを展開します。



3. 「オブジェクトの選択 (Object Selection)」が選択されていない場合は、**[S]** を押して選択します。
4. 小節番号 43 の開始位置で、rit. の終了ハンドルをクリックして、表示される値が「40」になるまで下向きにドラッグします。



結果

poco rit. の最終的なテンポが変更されました。

ヒント

段階的テンポ変更の最終的なテンポは、記譜モードでプロパティパネルの「テンポ (Tempo)」グループにある「最終的なテンポ % (Final tempo %)」のプロパティを使用して変更することもできます。タイムトラックで段階的テンポ変更の最終的なテンポを変更すると、対応するパーセンテージの変更が自動的に計算されます。

手順終了後の項目



イベントディスプレイの上部のルーラーで小節番号 41 のどこかをクリックして再生ヘッドをそこに移動したあと、[Space] 又は [Enter] を押して再生を開始し、この操作がテンポに与える影響を確認します。

音符の演奏されるデュレーションの変更

前のタスクで poco rit. の最終的なテンポを下げましたが、次に始まる素材になめらかに移行するために、小節番号 42 の最後の和音の演奏されるデュレーションを調整した方がよさそうです。Dorico では、記譜上のデュレーションに影響を与えることなく、音符の演奏されるデュレーションを変更できます。

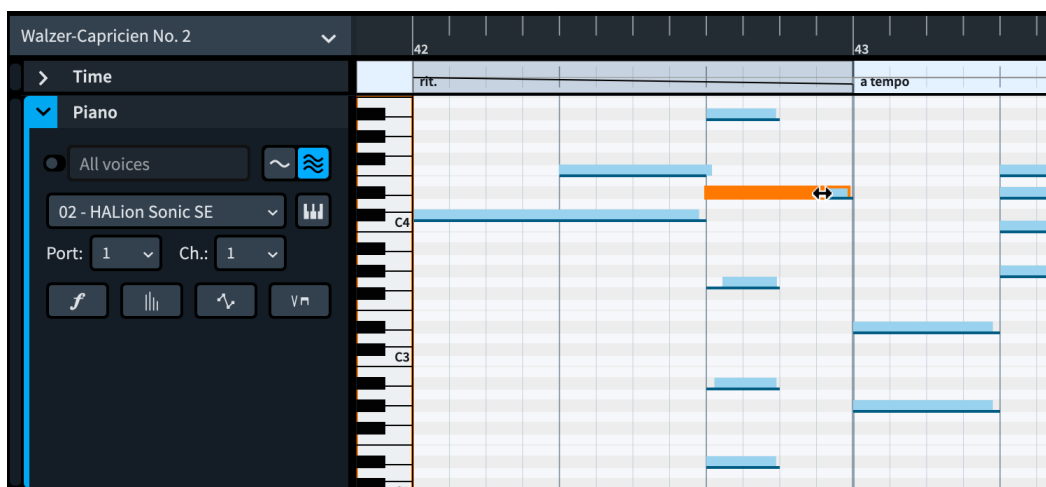
これらの調整は主観的なものですが、4 分音符を少し短くし、8 分音符を少し長くすることで、小節番号 43 の開始前にプレスの効果を出すことをおすすめします。

前提条件

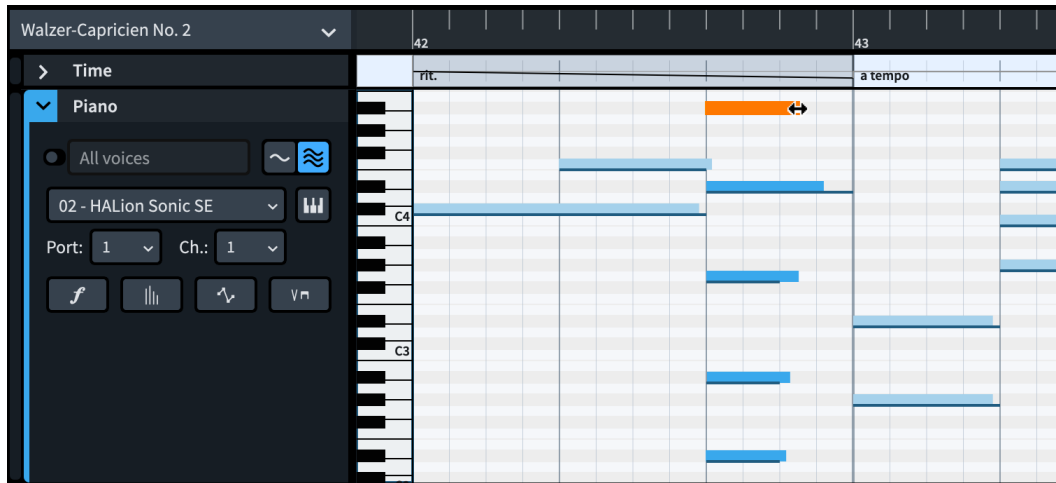
ウィンドウの左側の再生ツールボックスで、「演奏されるデュレーション (Played Durations)」 と「オブジェクトの選択 (Object Selection)」 が選択されていることを確認します。

手順

1. イベントディスプレイの上部のルーラーをクリックして下向きにドラッグし、ピアノロールのノートの幅を広げます。
 - こうすることで、細かい調整をしやすくなります。キーボードショートカット [Z] 又は [Ctrl]/[command]+^ を使用しても構いません。
 - ルーラーをクリックすると、マウスポインターの位置に再生ヘッドが移動します。
2. 小節番号 42 で、3 拍めの E \flat の 4 分音符イベントの右端をクリックし、左に少しドラッグすることで演奏されるデュレーションを短くします。

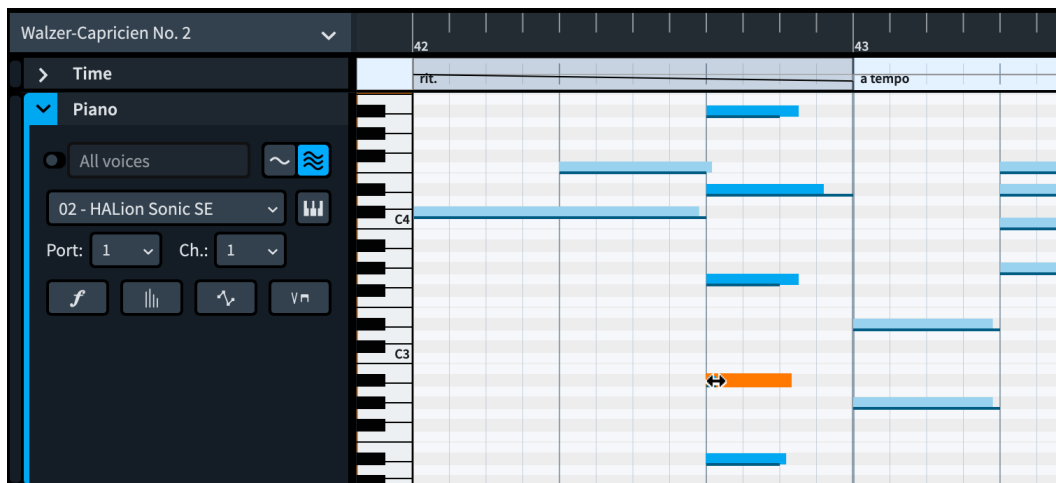


3. 3 拍めのその他のノートイベントの右端をクリックし、右に少しドラッグすることで演奏されるデュレーションを延ばします。



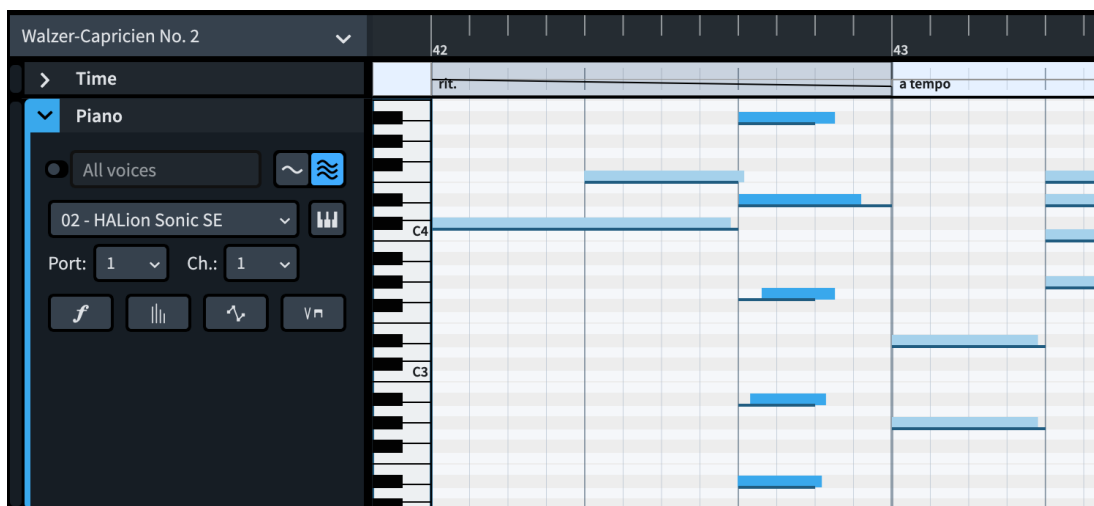
- イベントの端を揃える必要はありません。むしろ、終了のタイミングをわずかにずらすことでより自然な効果が得られます。
- デフォルトの演奏されるデュレーションを上書きするとアルペジオノートの開始オフセットが削除されるため、開始を遅らせる必要があります。

4. 下の譜表の Bb と G の左端をクリックして少し右にドラッグし、G が Bb より遅く始まるようにします。



結果


スコアに記譜された音符に影響を与えることなく、いくつかのノートイベントのデフォルトの演奏されるデュレーションを上書きしました。変更されたことを示すため、これらはピアノロールに別の色で表示されます。



手順終了後の項目

- イベントディスプレイの上部のルーラーで小節番号 41 のどこかをクリックして再生ヘッドをそこに移動したあと、**[Space]** 又は **[Enter]** を押して再生を開始し、どのように聴こえるかを確認します。
- 必要に応じて、曲全体の音符の演奏されるデュレーション、強弱記号、テンポの変動を引き続き調整できます。

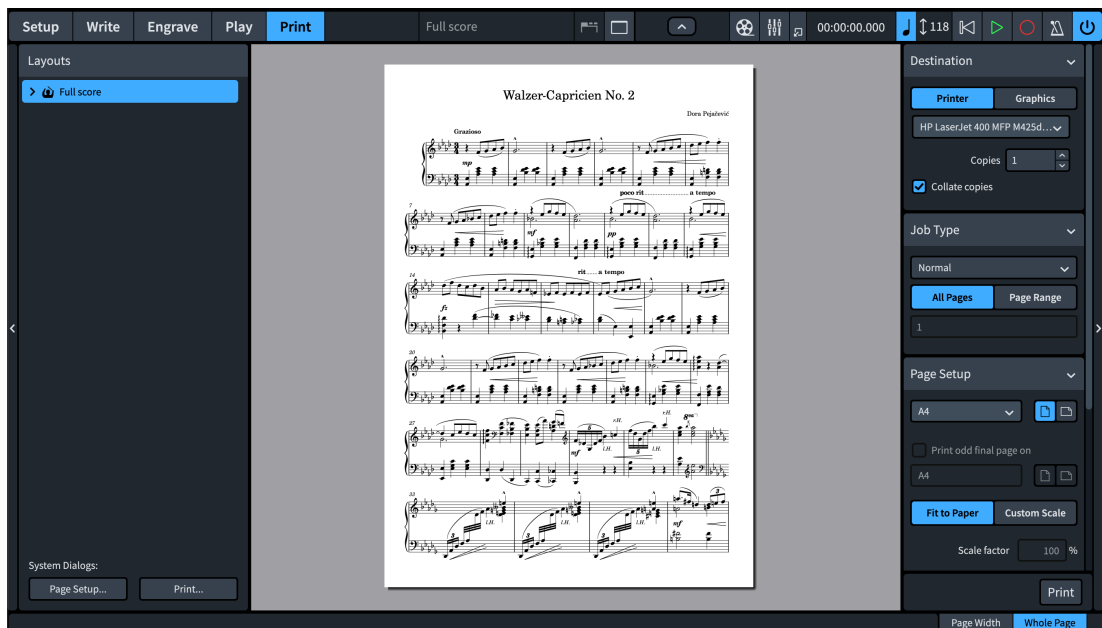
補足

再生モードで強弱記号やテンポ記号の開始位置または終了位置を移動すると (rit. の開始位置を 2 拍めから 1 拍めに変更するなど)、楽譜上のアイテムの表示位置に影響します。これは、再生ツールボックスで「**記譜されたデュレーション (Notated Durations)**」 を選択した状態でノートイベントの移動や長さの変更を行なった場合も同様です。

印刷と書き出し

ページ上の見栄えと再生時のサウンドに満足したら、グラフィックファイルやオーディオファイルなどのさまざまな形式で楽譜を印刷したり書き出したりできます。次のタスクでは、印刷と書き出しにおける一般的な操作をいくつか紹介します。

印刷モードでは、プロジェクトウィンドウの中央の領域が印刷プレビュー領域になります。右側のパネルは印刷オプションパネルで、印刷と書き出しに関するすべてのオプションがここにあります。レイアウトごとに異なるオプションを設定し、それらの設定を保持したまま、印刷や書き出しをまとめて行うことができます。



補足

複数のレイアウトがあるプロジェクトの場合、印刷プレビューとして表示されるレイアウトは、上部のツールバーにあるレイアウトセレクターで選択したものではなく、ウィンドウの左側にある「**レイアウト (Layouts)**」リストで選択したレイアウトです。

ハードコピーの印刷

コンピューターに接続されたプリンターがある場合は、レイアウトのハードコピーを Dorico から直接印刷できます。プリンターをお持ちでない場合やハードコピーの印刷が不要な場合は、このタスクをスキップしていただいてもかまいません。

前提条件

印刷モードを開いておきます ([Ctrl]/[command]+[5] を押します)。

手順

1. 右側の印刷オプションパネルで、一番上の「出力先 (Destination)」セクションにある「**プリンター (Printer)**」を選択します。
2. 使用するプリンターをメニューから選択します。

- 印刷するハードコピーの部数を「部数 (Copies)」フィールドに入力します。
- 「2」以上を入力した場合は、「ページ順に並べる (Collate copies)」をオンまたはオフにします。
- 「ジョブタイプ (Job Type)」セクションで、メニューから適切な印刷配置を選択します。
 - A4 のみに対応するプリンターの場合は、「標準 (Normal)」を選択します。
 - A3 を印刷できるプリンターをお使いで、タイトルページを追加していない場合は、「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」を選択します。
 - A3 を印刷できるプリンターをお使いで、タイトルページを追加している場合は、「冊子印刷 (Booklet)」を選択します。
- 「標準 (Normal)」または「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」を選択した場合は、「全ページ (All Pages)」を選択します。
- 「ページ設定 (Page Setup)」セクションで、お使いのプリンターおよびジョブタイプに適したオプションを選択します。
 - ジョブタイプが「標準 (Normal)」の場合: 「A4」、「縦 (Portrait)」 向き、「用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)」を選択します。
 - ジョブタイプが「2 ページを 1 ページに集約 (2-up)」または「冊子印刷 (Booklet)」の場合: 「A3」、「横 (Landscape)」 向き、「用紙サイズに合わせる (Fit to Paper)」を選択します。
- 「冊子印刷 (Booklet)」の場合のみ: 「両面印刷 (Duplex Printing)」セクションで、お使いのプリンターに適したオプションを選択します。
 - 「両側 (自動) (Both sides automatically)」は、プリンターが自動両面印刷に対応している場合のみ使用できます。
 - 両面印刷オプションの詳細については、オペレーションマニュアルを参照してください。
- 設定に満足したら、パネルの下部にある「印刷 (Print)」をクリックします。

ヒント

印刷プレビュー領域にページ全体のプレビューを表示するには、プロジェクトウィンドウの右下にある「全ページ (Whole Page)」をクリックします。

結果

設定したオプションに従ってフルスコアレイアウトが印刷されます。

PDF への書き出し

レイアウトは、PDF、PNG、SVG、TIFF グラフィックファイルとして書き出せます。楽譜の最も一般的で便利な形式はおそらく PDF でしょう。そのため、このタスクでは校正刷りであることを示す透かしを入れて PDF を書き出す方法を説明します。

前提条件

印刷モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[5]** を押します)。


手順

- 右側の印刷オプションパネル上部の「出力先 (Destination)」セクションで、「グラフィック (Graphics)」を選択します。
- メニューから「PDF」を選択します。
- 「カラー (Color)」を選択します。

- このレイアウトには透かしを追加するため、透かしが表示されるように「**カラー (Color)**」を選択する必要があります。レイアウト内に色や不透明度を変更したアイテムがある場合も「**カラー (Color)**」を選択する必要があります。
このレイアウトでは、透かしを除けば「**白黒 (Mono)**」と「**カラー (Color)**」の違いはほとんどありません。プリンターによっては、文書がカラーか白黒かで黒の印刷方法が異なる場合があります。
 - 「**カラー (Color)**」のグラフィックとして書き出したレイアウトの背景は透明になります。
 - 「**PDF**」と「**SVG**」はベクター形式のため、「**解像度 (Resolution)**」設定はこれらのファイルには影響しません。
4. 「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドの横の「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」をクリックして、エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 5. 保存先のフォルダーを探して選択します。
 6. 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**保存先のフォルダー (Destination folder)**」フィールドに新しいパスを指定します。
 7. ファイルの命名規則 (書き出される PDF の命名構造) を変更する場合は、「**ファイル名オプション (File Name Options)**」をクリックして「**書き出し用ファイル名 (Export File Names)**」ダイアログを開き、PDF ファイルの命名規則を変更します。

補足

ファイルの命名規則の変更は、それ以降にコンピューター上で開くすべてのプロジェクトに影響します。

8. 印刷オプションパネルのその他の設定が、個々のページを縦向きに書き出しできるように設定されていることを確認します (初期設定ではそのようになっているはずです)。
 - 「**ジョブタイプ (Job Type)**」セクションで、「**標準 (Normal)**」と「**全ページ (All Pages)**」を選択します。
 - 「**ページ設定 (Page Setup)**」セクションで、「**縦 (Portrait)**」を選択します。
9. 「**注釈 (Annotations)**」セクションで、「**透かし (Watermark)**」をオンにして値フィールドに「**PROOF**」と入力します。

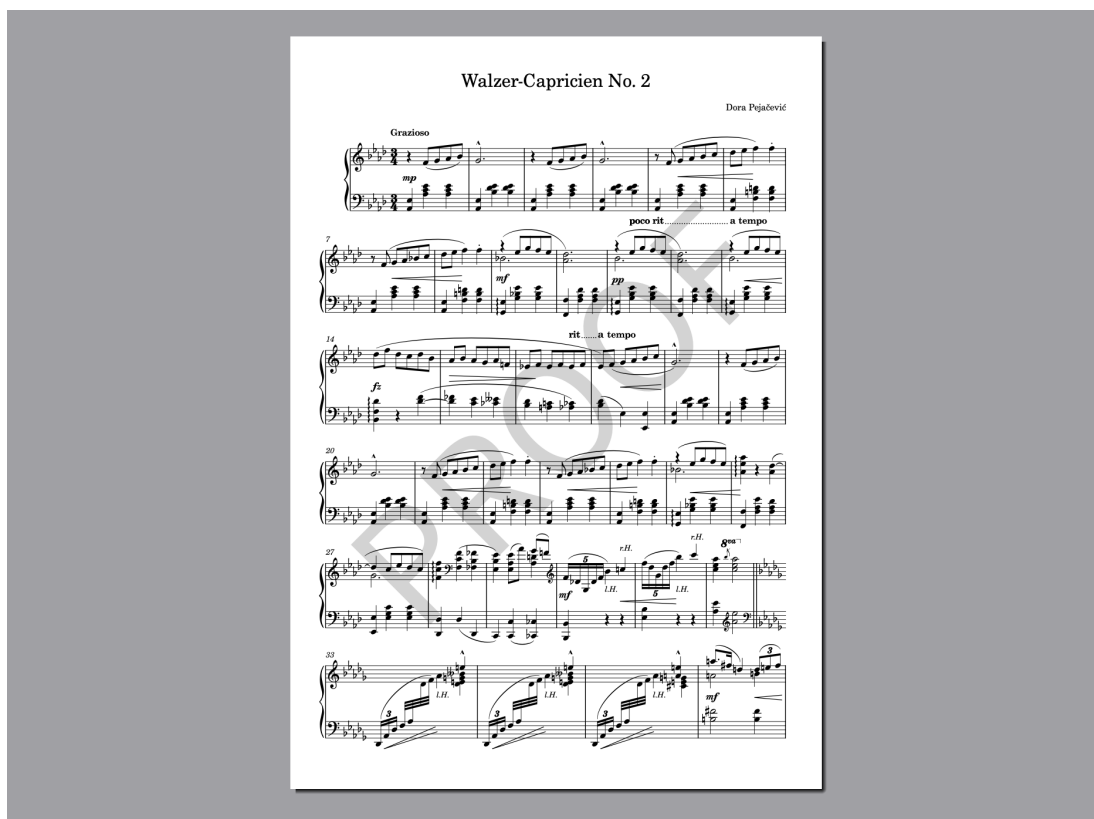
ヒント

Dorico Pro で長い透かしテキストを入力したい場合は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**フォントスタイル (Font Styles)**」で「**印刷透かし用フォント (Print Watermark Font)**」のフォントサイズを小さくします。

10. 「**書き出し (Export)**」をクリックします。

結果

設定した内容に従い、フルスコアレイアウトが「**PROOF**」の透かしが入った PDF として書き出されます。

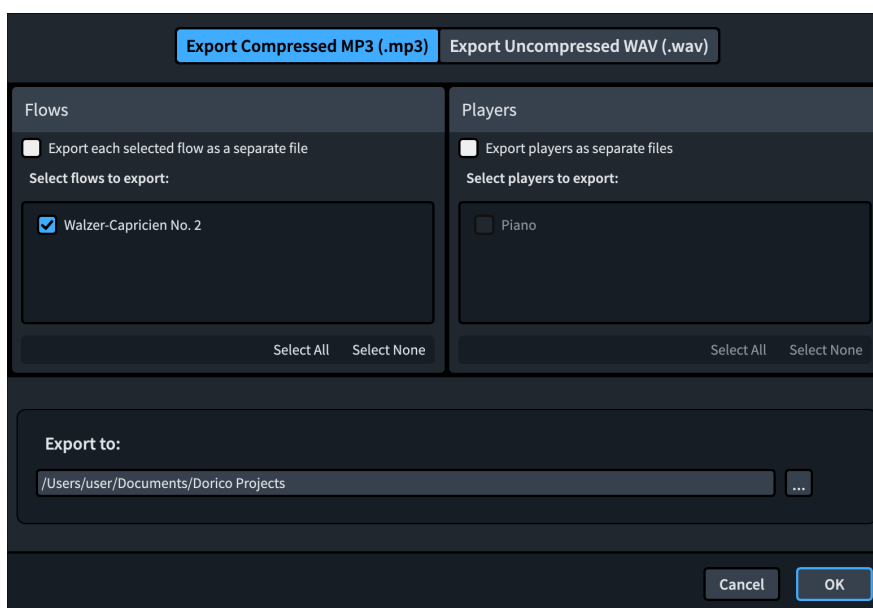



オーディオの書き出し

プロジェクトのオーディオを MP3 または WAV オーディオファイルとして書き出すことができます。これにより、たとえば Dorico を所有していないユーザーに楽曲がどのように聴こえるかを共有できます。

手順

1. いずれかのモードで、「ファイル (File)」 > 「書き出し (Export)」 > 「オーディオ (Audio)」を選択して「オーディオを書き出し (Export Audio)」ダイアログを開きます。



2. ダイアログの上部で、「**圧縮 MP3 (.mp3) を書き出し (Export Compressed MP3 (.mp3))**」を選択します。
 - MP3 ファイルは書き出されるファイルサイズが WAV ファイルよりもはるかに小さいため、この手順では MP3 として書き出すことをおすすめしています。
 3. 「**選択したフローをそれぞれ別ファイルで書き出し (Export each selected flow as a separate file)**」をオフにします。
 - このオプションをオンにすると、書き出される MP3 ファイルが、フロー名の付いた追加フォルダーに格納されます。今回のように単一フロー、単一プレーヤーのプロジェクトでは、フローとプレーヤーを別々のファイルとして書き出しても大きな違いはありませんが、たとえば、個々のプレーヤーの符尾をフローごとに書き出したい場合などに便利です。
 4. ダイアログの下部で、「**フォルダーを選択 (Choose Folder)**」  をクリックして エクスプローラー (Windows) または Finder (Mac) を開きます。
 5. 保存先のフォルダーを探して選択します。
 6. 「**フォルダーを選択 (Select Folder)**」 (Windows) / 「**開く (Open)**」 (macOS) をクリックして、「**書き出し先 (Export to)**」 フィールドに新しいパスを指定します。
 7. 「**OK**」 をクリックすると、オーディオが MP3 ファイルとして書き出され、ダイアログが閉じます。
-

結果

プロジェクトが、選択した保存先フォルダー内のフォルダーに MP3 オーディオファイルとして書き出されます。

その他の記譜記号

おめでとうございます！ドーラ・ペヤチェヴィチの『ワルツーカプリス 2 番』のピアノ曲プロジェクトが完成しました。皆さんにこのプロセスを楽しんでいただき、その中で Dorico の便利な操作を学んでいただけたなら幸いです。

次のタスクでは、これまでに学んだ入力テクニックをベースに、歌詞、コード記号、スラッシュ符頭といったその他の一般的な記譜記号についても解説していきます。また、ドラムセットに音符を入力する方法、特定の譜表の上にコード記号を表示する方法、1人のプレーヤーにのみスウィング再生を有効にする方法、プロジェクトには残したままフルスコアからプレーヤーを削除する方法についても説明します。

これらのタスクで使用する曲は、ガートルード "マー" レイニーの『See See Rider Blues』です。これらのタスクで使用する抜粋の PDF は、次のタスクの出発点として設定された Dorico プロジェクトとともに steinberg.help からダウンロードできます。

補足

このプロジェクトには3人以上のプレーヤーが含まれているため、Dorico SE では読み取り専用モードで開かれます。Dorico SE をお使いのユーザーは、これらのタスク用にそれぞれ最大2人のプレーヤーを含む Dorico プロジェクトを個別に設定する必要があります。

歌詞の追加

ここまでくると驚くことではありませんが、Dorico には歌詞入力専用のポップオーバーが用意されており、歌詞や音節を入力したあとも開いたままにできます。歌詞や音節のあとにハイフンが必要かどうかに応じて対応するキーを押すことで、ポップオーバーを自動的に次の音符に進めることができます。

前提条件

- 声部のメロディーを入力しておきます。音符とは別に歌詞を入力することもできますが、音符がすでにある状態で歌詞を入力する方がはるかに簡単です。
- 記譜モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[2]** を押します)。

手順

1. 記譜モードで、声楽の譜表の最初の音符を選択します (小節番号 5 の C)。
 - この操作はフルスコアでも声部のパートレイアウトでも行なえます。
2. **[Shift]+[L]** を押して歌詞のポップオーバーを開きます。
3. 最初の音節である「I'm」をポップオーバーに入力します。



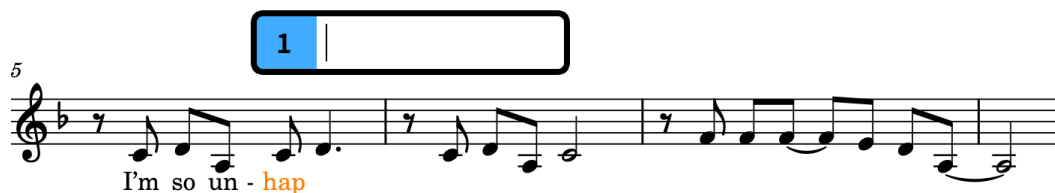
4. **[Space]** を押してポップオーバーを次の音符に進めます。



5

I'm

- **[Space]** を押すと、入力した歌詞が完全な単語であること、あるいは多音節語の最後の音節であることが Dorico に伝えられます。
5. ポップオーバーに「so」と入力し、**[Space]** を押します。
 - 次の単語は3つの音節で構成されるため、ポップオーバーを別の方法で進める必要があります。
 6. ポップオーバーに「un」と入力し、**[-]** を押します。
 - 音節間のハイフンは、次の音節を入力するまで表示されません。
 7. ポップオーバーに「hap」と入力し、**[-]** を押します。



5

I'm so un - hap

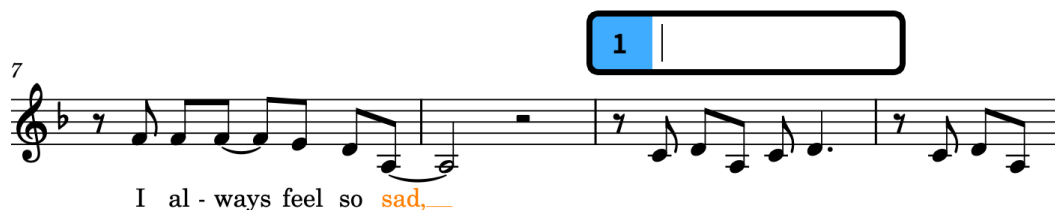
8. 最後の音節としてポップオーバーに「py,」と入力し、**[Space]** を押します。



5

I'm so un - hap - py,

9. 小節番号6で、ポップオーバーに「I feel so blue,」という歌詞を入力します。
10. 小節番号7で、ポップオーバーに「I al-ways feel so sad,」という歌詞を入力します。



7

I al - ways feel so sad, _

- 「ways」と「sad,」は複数の符頭にまたがっているため、符頭に対して中央揃えではなく左揃えになっています。また、「sad,」を入力したあと、Aと重ならないように行全体が自動的に下がっています。
 - Dorico では、タイでつながれた音符は1つの音符としてカウントされます。
11. 小節番号11の最後まで歌詞の入力を続けます。

I made a mis-take, right from the start, Oh, it seems so hard to

 - 次の音節は2音で歌われます。
 12. 小節番号12でポップオーバーに「part」と入力し、**[Space]** を2回押します。
 - これにより、歌詞のポップオーバーが2音先に進みます。2回めに **[Space]** を押した際に、歌詞の水平方向の配置が再計算され、符頭に対して中央揃えではなく左揃えに配置されます。



13. 小節番号 26 の最後まで歌詞の入力を続けます。

A-bout this let-ter, that I will write, I hope he will re-mem-ber, when he re-ceives it, See, see, ri-der, see what you done done, Lawd, lawd, lawd, You made me love you, now your gal done come. You made me love you, now your gal done come.

- 小節番号 20 の 3 拍めの「lawd,」と小節番号 22 の最後の「come.」の歌詞のあとは、**[Space]** を 2 回押す必要があります。その他の歌詞はすべて、**[Space]** を 1 回だけ押します。

結果

イントロとサビの部分の歌詞を入力しました。音節間には自動的に歌詞のハイフンが表示され、水平方向のスペースが十分にある場合は、タイでつながれた音符の歌詞や複数の音符にまたがる歌詞には歌詞の延長線が表示されます。また、タイでつながれた音符も含め、複数の音符にまたがる歌詞は自動的に左揃えになり、組段ごとに歌詞のライン全体の一貫した垂直位置が計算されます。

ヒント

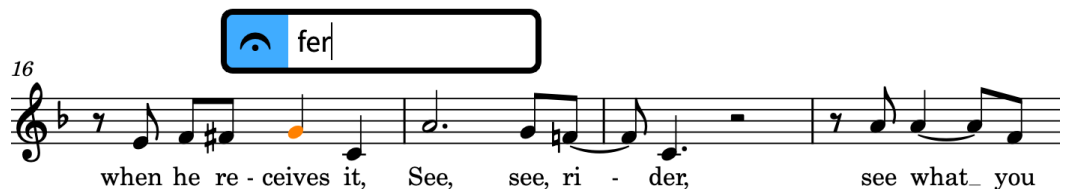
- テキストエディターや Dorico の既存の歌詞のラインなど、音節がすでにハイフンで適切に区切られた歌詞がある場合は、その歌詞をコピーして歌詞のポップオーバーに貼り付けることができます。歌詞のポップオーバーが開いており、歌詞がクリップボードにコピーされていれば、**[Ctrl]/[command]+[V]** を押すだけで各音節を 1 つずつ入力できます。音節が複数の音符にまたがる場合は、**[-]** または **[Space]** を押して、その音節の長さを Dorico に伝える必要があります。
- 個々の歌詞の配置を変更するには、歌詞を選択し、プロパティパネルの「歌詞 (Lyrics)」グループにある「歌詞のテキストを整列 (Lyric text alignment)」プロパティを使用します。この操作を行うことで、歌詞を表示するために音符を水平方向に動かす距離を短くすることができます。

フェルマータの追加

この曲の録音には、最初のコーラスの前の拍に休止があります。これを記譜する方法の 1 つとして、フェルマータ (休止記号) を使用できます。

手順

1. 小節番号 16 で、声楽の譜表の 3 拍めの G を選択します。
2. **[Shift]+[H]** を押して延長記号や休止記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「fer」と入力します。



4. **[Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、選択した位置にフェルマータが入力されます。
5. 4 拍めの C を選択して手順 2 から 4 を繰り返します。




結果

小節番号 16 の最後の 2 拍に 2 つのフェルマータが入力されました。Dorico では、すべての譜表に自動的にフェルマータが表示され、フェルマータが表示される音符や休符も各譜表の内容に応じて調整されます。

1 つの譜表でフェルマータを選択すると、すべての譜表のフェルマータが選択されます。これは、すべてのフェルマータが同じ 1 つのアイテムを表わしているためです。下のピアノ譜およびトロンボーンとバンジョーの譜表では、フェルマータの位置に最も近い音符の上に表示されていますが (ここでは全音符と小節休符)、各譜表には実際の位置を示す連結線が表示されています。

補足

- フェルマータは現在のところ再生には反映されません。
- フェルマータは、ウィンドウ右側の延長記号と休止記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルは記譜ツールボックスの「延長記号と休止記号 (Holds and Pauses)」をクリックすると表示できます。

ミュートの演奏技法の追加

コルネットプレイヤーがミュートを使用するよう指示し、再生時にミュートしたコルネットサウンドを使用するために、コンソルディーノの演奏技法を入力できます。

手順

1. 小節番号 1 で、コルネット譜表の最初の音符を選択します。

2. **[Shift]+[P]** を押して演奏技法のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「con s」を入力します。



- 特定の演奏技法を作成するためには、演奏技法のポップオーバーに正確なポップオーバーエントリーを入力する必要があるため、ポップオーバーに入力しはじめると有効な演奏技法のメニューが表示されます。

4. **[↓]** を押して「con sord」を選択します。



5. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

コンソルディーノの演奏技法が入力されました。この演奏技法には、ミュートの再生効果が関連付けられています。Dorico では、再生時に正しいサウンドを生成するために、再生効果を使用して演奏技法の記譜記号とサウンドライブラリーの技法やアーティキュレーションをリンクさせます。

他の記譜記号と同様、演奏技法はそのリズム上の位置に合わせて自動的に配置されます。テキストの演奏技法は左揃え、グリフの演奏技法は中央揃えで配置されます。また、Dorico では自動衝突回避が実行されるため、演奏技法が収まるようにテンポ記号が上に移動します。

Laid back blues (♩ = 76)



コード記号の追加

コード記号の入力方法は歌詞と似ており、各コード記号を入力したあとにコード記号のポップオーバーを閉じることなく進めることができるため、連続するコード記号を一度に入力できます。

Dorico のコード記号の重要な点として、初期設定ではコード記号がグローバルに存在します。つまり、コード記号を一度入力すれば、必要に応じてアンサンブル内のすべてのプレイヤーに同じコード記号を表示できます。また、特定のプレイヤーに別のコードを表示する必要がある場合には、ローカルなコード記号を入力することもできます。

手順

1. 小節番号 1 で、バンジューの譜表の小節休符を選択します。

補足

任意の譜表にコード記号を入力し、そのプレイヤーのコード記号をあとから非表示にすることもできます。ただし、わかりやすくするために、コード記号を表示する譜表にのみコード記号を入力することをおすすめします。

2. **[Shift]+[Q]** を押してコード記号のポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「**C7**」と入力します。

4. **[Space]** を 4 回押してポップオーバーを小節番号 2 の開始位置に進めます。

- **[Space]** を押すたびに、コード記号のポップオーバーが現在の拍子記号に従って 1 拍分進みます。この曲の 4/4 拍子の場合には 4 分音符 1 つ分です。

5. ポップオーバーに「**G7/D**」と入力し、**[Space]** を 2 回押します。
6. ポップオーバーに「**C7**」と入力し、**[Space]** を 2 回押します。

7. ポップオーバーに「**F**」と入力し、**[Space]** を 2 回押します。
8. 小節番号 3～4 に残りのコード記号を入力し、それぞれの間に **[Space]** を 1 回ずつ押します。「**G#dim7**」、「**Gm7**」、「**F**」、「**C7**」、「**F**」の順に入力します。

結果

この曲の最初の小節番号 4 にコード記号が入力されました。これらはリズムセクションのインストゥルメントの譜表の上に自動的に表示されます (このプロジェクトではバンジューとピアノ)。

補足

コード記号によっては、ポップオーバーに入力したとおりに表示されない場合があります。たとえば、小節番号 5 の Fdim7 を「**Fdim**」と入力した場合などです。Dorico では、デフォルト設定を使用して、ポップオーバーのエントリーではなくコード記号の種類に基づいて外観を決定します。Dorico Pro をお使いの場合は、「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」の「**コード記号 (Chord Symbols)**」ページでこれらの設定を変更できます。

手順終了後の項目

- 引き続き、この抜粋の残りの部分のコード記号を入力します。**[Return]**を押すとポップオーバーが閉じ、**[Space]**を押すたびにポップオーバーが4分音符1つ分進むことを覚えておいてください。
- 小節番号5のFdim7など、コード記号によっては小節線と重なる場合があります。これらのコード記号の配置を変更して重なりを回避するには、そのコード記号を選択し、プロパティパネルの「コード記号 (Chord Symbols)」グループにある「配置 (Alignment)」プロパティをオンにして、メニューから「中央 (Center)」を選択します。

スラッシュ符頭の追加

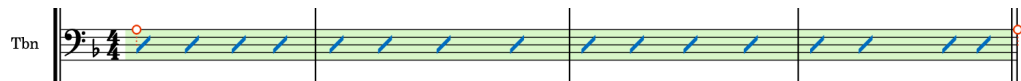
このブルースソングには即興演奏が多く含まれているため、スラッシュ領域を使用して小節をスラッシュ符頭で埋め、即興で演奏するようプレーヤーに指示できます。

手順

1. 小節番号1で、トロンボーン譜表の小節休符を選択します。
 - 初期設定では、フルスコアの空白の小節は長休符の形に統合されないため、この操作はフルスコアで行なうことをおすすめします。
2. トロンボーン譜表の小節番号4の小節休符を**[Shift]**を押しながらクリックします。
3. **[Shift]+[R]**を押してリピートのポップオーバーを開きます。
4. ポップオーバーに「slash」と入力します。




5. **[Return]**を押すとポップオーバーが閉じ、選択範囲全体にスラッシュ領域が入力されます。



- デュレーションと現在の拍子記号に適した数のスラッシュ符頭が自動的に表示されます。たとえば、6/8の場合は、各小節に2つつ付点付きスラッシュ符頭が表示されます。
6. バンジョー譜表とピアノ譜上段に対して手順1～5を繰り返します。

ヒント

または、トロンボーン譜表のスラッシュ領域を選択して、バンジョー譜表とピアノ譜上段の小節番号1の開始位置を**[Alt/Opt]**を押しながらクリックしてもかまいません。

- ただし、録音では、クラリネットだけが小節番号4の4拍目を演奏します。
7. トロンボーン、バンジュー、ピアノの譜表の小節番号1～4のスラッシュ領域の任意の部分を選択します。
 8. **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押して、スラッシュ領域を3拍めの終了位置まで短縮します。
 - 押す回数は、リズムグリッドの間隔によって異なります .

9. 小節番号5で、トロンボーン譜表の小節休符を選択します。
10. 小節番号16で、トロンボーン譜表の小節休符を **[Shift]** または **[Ctrl]/[command]** を押しながらクリックします。
11. スラッシュ領域を入力します。

3

- これらの領域が隣接している場合、各領域を見分けられるよう、2番めの領域は異なる色で強調表示されます。

3

12. バンジュー譜表に対して手順9～11を繰り返します。

13. コルネット譜表の小節番号5～7および小節番号9の2拍めから小節番号12までスラッシュ領域を入力します。

- これで、コルネット、トロンボーン、バンジョーの小節番号1～16にスラッシュ符頭が入力されたはずですが、ただし、小節番号16のフェルマータはスラッシュ領域には自動的に表示されません。

14. トロンボーン譜表とバンジョー譜表の両方で、小節番号5～16のスラッシュ領域の任意の部分を選択します。

15. **[Shift]+[Alt/Opt]+[←]** を押して、スラッシュ領域を2拍めの終了位置まで短縮します。

- 押す回数は、リズムグリッドの間隔によって異なります 。

16. トロンボーン譜表で、小節番号16の3拍め、つまりスラッシュ領域の終了直後の位置をダブルクリックします。

17. キャレットの指示記号に符尾なしのスラッシュ付き声部が表示されるまで **[Shift]+[Alt/Opt]+[V]** を押します。

18. **[6]** を押して4分音符を選択します。

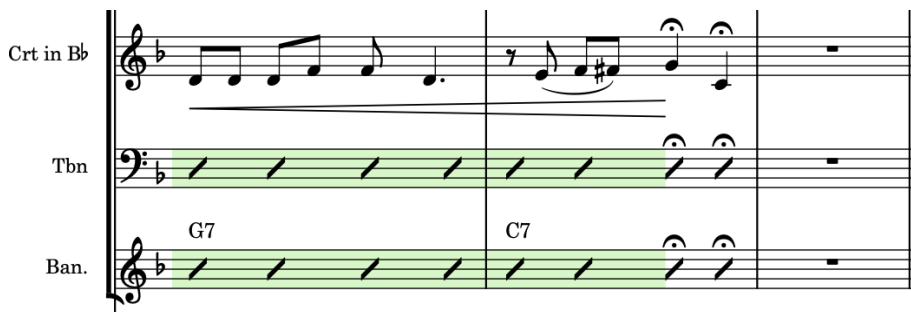
19. **[Y]** を2回押して、符尾なしのスラッシュ4分音符を2つ入力します。

20. キャレットが小節番号16の3拍めにくるまで **[←]** を押したあと、**[↓]** を押してキャレットを下のバンジョー譜表に移動させます。

- 手順 17～19 を繰り返します。
- [Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

スラッシュ領域が入力され、符尾なしのスラッシュ付き声部に音符が入力されました。たとえば、スラッシュ符頭を使用して特定のリズムを指定したい小節がある場合などに、スラッシュ領域とスラッシュ付き声部を組み合わせると便利です。



ヒント

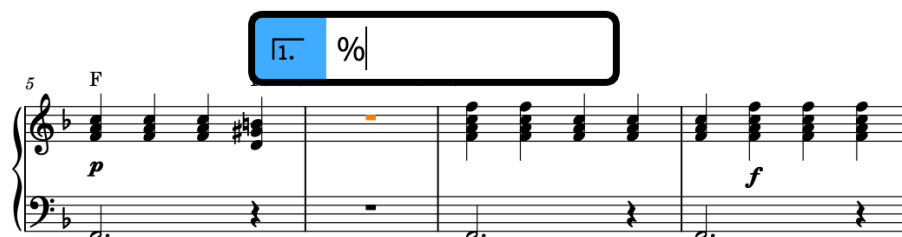
スラッシュ領域は、ウィンドウ右側の反復記号パネルから追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスで「反復記号 (Repeat Structures)」 をクリックします。

小節リピート記号の追加

即興演奏を示すスラッシュ符頭に加えて、小節リピート記号を省略表現として使用することで、前の小節の内容を繰り返すようにプレーヤーに指示できます。

手順

- 小節番号 6 で、ピアノ譜上段の小節休符を選択します。
- [Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
- ポップオーバーに「%」と入力します。



- [Return]** を押すとポップオーバーが閉じ、選択範囲にまたがる小節リピート領域が入力されます。



- 小節リピート領域は選択したままにします。

5. **[Alt/Opt]** を押しながらピアノ譜下段の小節番号 6 の開始位置をクリックすると、その位置に小節リピート領域がコピーされます。




6. 小節番号 10 と 14 に手順 1 から 5 を繰り返します。

結果

両方のピアノ譜に単一小節の小節リピート領域が入力されました。

ヒント

小節リピート領域は、ウィンドウ右側の反復記号パネルから追加することもできます。このパネルは記譜ツールボックスの「反復記号 (Repeat Structures)」 をクリックすると表示できます。

別の譜表の上にコード記号を表示する

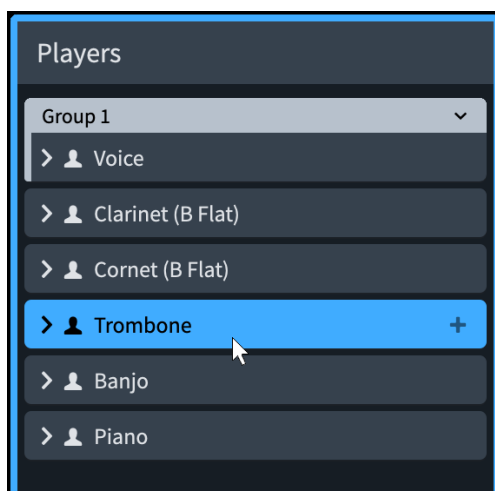
コード記号はリズムセクションのインストゥルメントの譜表の上に自動的に表示されます。しかし、この曲では別のインストゥルメントにもコード記号を表示することで即興演奏に役立てることができません。

前提条件

設定モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[1]** を押します)。

手順

1. 左側の「プレーヤー (Players)」パネルで、「Trombone」プレーヤーを選択します。



2. プレーヤーカードを右クリックして、コンテキストメニューから「コード記号 (Chord Symbols)」>「コード記号領域とスラッシュ領域に表示 (Show in Chord Symbol and Slash Regions)」を選択します。
3. クラリネットプレーヤーとコルネットプレーヤーに対して手順 2 を繰り返します。

結果

クラリネット、ホルネット、トロンボーンのコード記号領域とスラッシュ領域にコード記号が表示されるように設定されました。バンジョーとピアノについては、プロジェクト全体でコード記号が表示されるようにすでに設定されています。

The image shows a musical score for three instruments: Tbn (Trombone), Ban. (Banjo), and Pno. (Piano). The score is in 4/4 time and consists of four measures. Above each staff, chord notations are provided: C7, G7/D, C7, F, G#dim7 Gm7, F, C7, F. The piano part shows the corresponding chord voicings.

ヒント

このコンテキストメニューを使用して、コード記号を表示するレイアウトを変更することもできます。


ドラムセットの追加

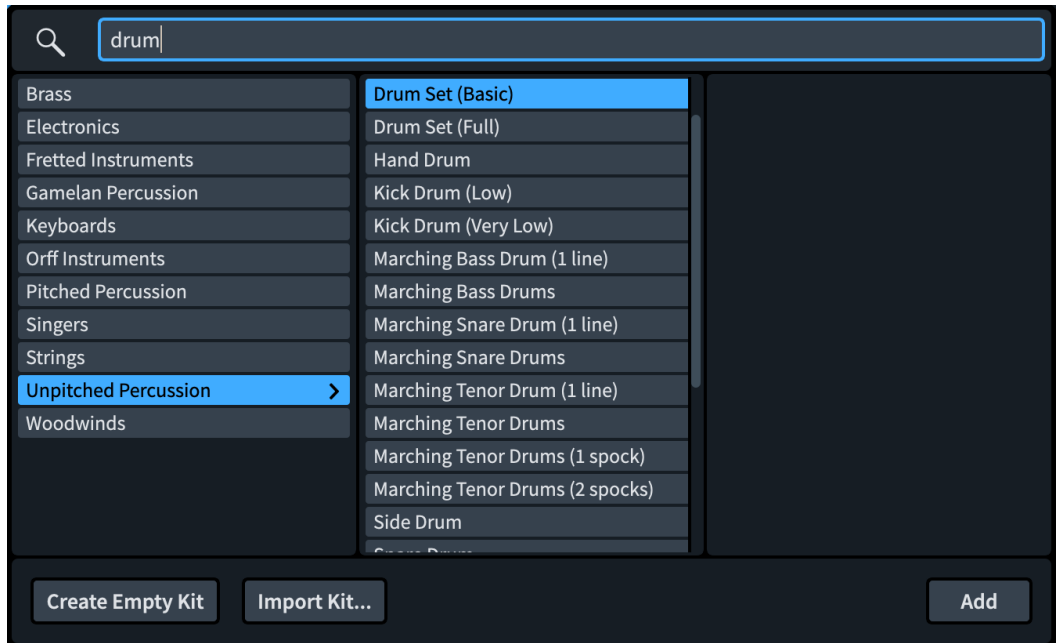
この曲には元々打楽器が含まれていませんでしたが、ドラムセットを含む打楽器が Dorico でどのように扱われるかを示すために、このタスクではプロジェクトに仮想のドラムセットを追加します。

前提条件

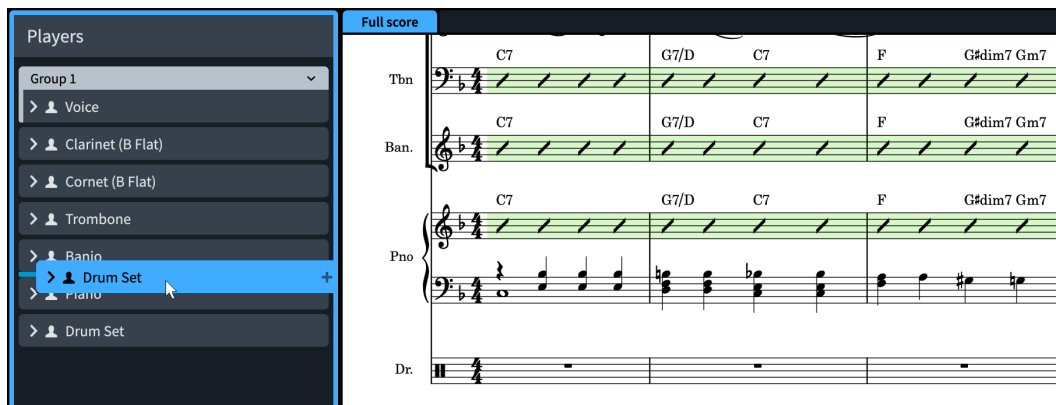
設定モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[1]** を押します)。

手順

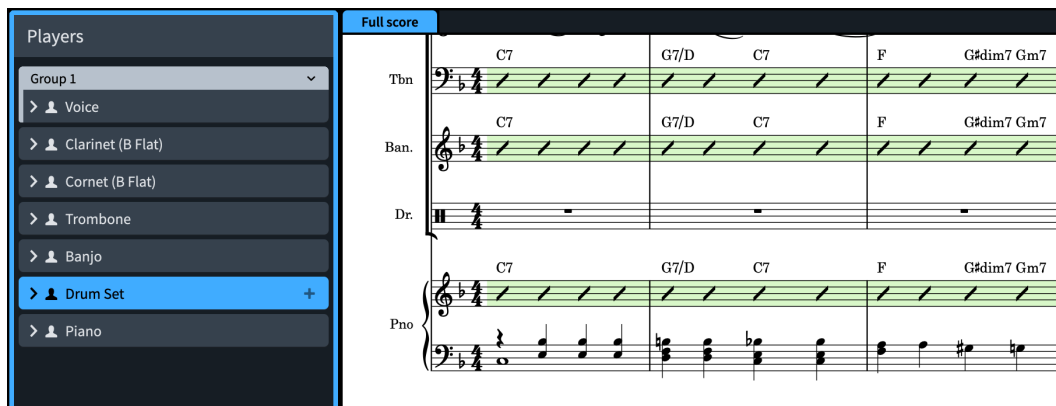
1. **[Shift]+[P]** を押すと、新規ソロプレーヤーが追加されてインストゥルメントピッカーが開きます。
 - 「プレーヤー (Players)」パネルの下部にある「ソロプレーヤーを追加 (Add Solo Player)」 をクリックしても構いません。
2. インストゥルメントピッカーの検索フィールドに「**drum**」と入力します。



3. 「Drum Set (Basic)」が選択されているのを確認して、「追加 (Add)」をクリックするか **[Return]** を押します。
 - 他のすべてのプレーヤーの下に新しいプレーヤーが追加されます。ただし、スコアの順序規則と、アンサンブルの一番下にピアノを配置すると鍵盤奏者がスコアを読みやすいという一般的な傾向の両方を満たすために、ドラムセットをピアノの上に移す必要があります。
4. ドラムセットプレーヤーをクリックし、挿入ラインがピアノの上にくるまでドラッグします。




5. マウスを放すとドラムセットプレーヤーが挿入ラインの位置に移動します。



- フルスコアの大括弧のグループ化が「小アンサンブル (Small ensemble)」に設定されているため、ドラムは他のインストゥルメントと一緒に大括弧で括られています。ただし、有音程楽器と無音程楽器はスコア上で区別することをおすすめします。

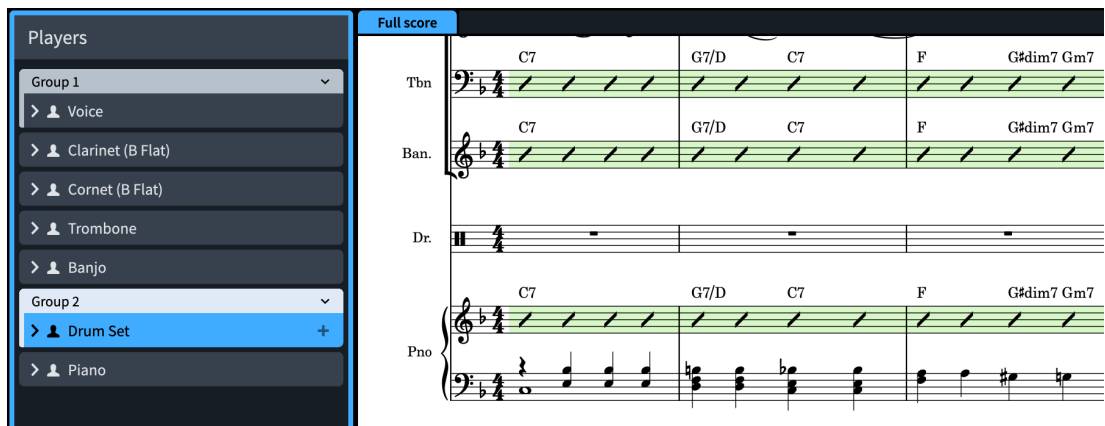
ヒント

各レイアウトの大括弧のグループ化は、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]**) の「大括弧と中括弧 (Brackets and Braces)」ページで変更できます。

- ドラムセットプレーヤーを選択した状態で、「プレーヤー (Players)」パネルの下部にある「グループを追加 (Add Group)」  をクリックします。

結果

ソロプレーヤーを追加してドラムセットを割り当て、スコア上の位置を変更し、他のプレーヤーの大括弧から切り離すために独自のグループに入れました。



ヒント


同じ理由により、この声部は独自のグループに属しています。

Dorico の打楽器キットは複数の無音程打楽器をまとめたもので、各インストゥルメントを 1 線譜、グリッド、または 5 線譜に表示できます。同じ打楽器キットをフルスコアでは 5 線譜に表示し、パートレイアウトでは 1 線譜に表示することもできます。

打楽器キットは、設定モードでは緑色のインストゥルメントラベルで表示されます。




ヒント

- インストゥルメントラベルにカーソルを合わせると表示される矢印  をクリックして「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」を選択すると、「打楽器キットを編集 (Edit Percussion Kit)」ダイアログが開き、5 線譜表示を使用する場合の各インストゥルメントの声部など、各表示タイプのさまざまな設定を編集できます。
- 各レイアウトで使用する表示タイプは、「設定 (Setup)」 > 「レイアウトオプション (Layout Options)」の「プレーヤー (Players)」ページにある「打楽器 (Percussion)」セクションで変更できます。

ドラムセットの音符入力

Dorico のドラムセットに相当する打楽器キットの音符入力の仕組みは、他のインストゥルメントとは少し異なります。このタスクでは、曲のスタイルに合わせてシンプルなドラムセットパートを入力しながら、打楽器キットの便利な入力方法を紹介します。

このタスクは、フルスコアではなくドラムセットのパートレイアウトで行なう方が簡単かもしれません。現在のタブのレイアウトを切り替えるには、ツールバーのレイアウトセクターを使用します。ドラムセットのパートを新しいタブで開くには、タブバーの右側にある「新規タブ (New Tab)」 をクリックして「Drum Set」をダブルクリックします。

「レイアウトオプション (Layout Options)」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]**) の「プレーヤー (Players)」ページで、ドラムセットのパートレイアウトに長休符ではなく空白の小節を個別に表示できます。

前提条件

記譜モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[2]** を押します)。

手順

1. 小節番号 4 で、ドラムセットの譜表の小節休符を選択します。

2. **[Shift]+[N]** を押して音符の入力を開始します。

- 打楽器キットの譜表では、キュレットが短く表示されます。キュレットとリズムグリッドに加えて現在のインストゥルメント名も表示されます。



3. **[Space]** を 3 回押してキュレットを 4 拍めに進めます。



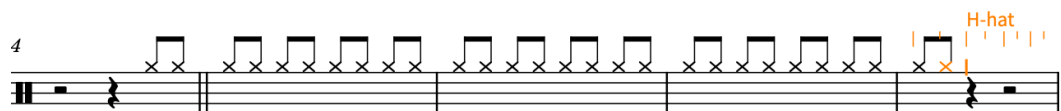
4. キュレットがハイハットになるまで **[↑]** を押します。



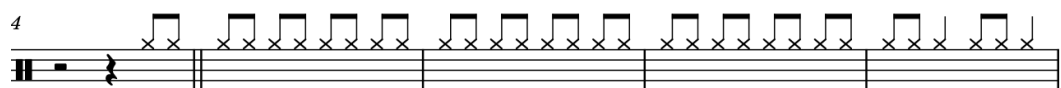
5. **[5]** を押して 8 分音符を選択します。

6. 小節番号 8 の 1 拍めの終わりまで **[Y]** を押します。


- **[Y]** は、打楽器に特に便利な一般的な音符入力のキーボードショートカットです。



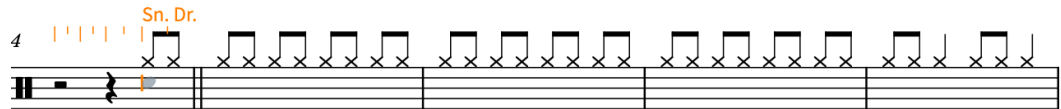
7. **[6]**、**[Y]**、**[5]**、**[Y]**、**[Y]**、**[6]** の順に押し、もう一度 **[Y]** を押します。



8. キャレットを小節番号 4 の 3 拍めに戻します。

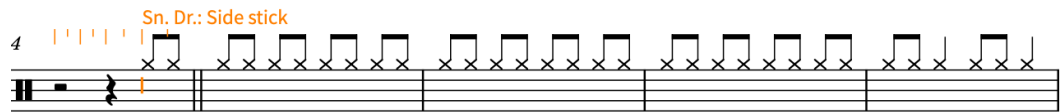
- たとえば、リズムグリッドの間隔  が 8 分音符に設定されている場合、**[Ctrl]/[command]+[←]** を 4 回押したあと、**[←]** を 2 回押します。

9. キャレットがスネアドラムの位置にくるまで **[↓]** を押します。

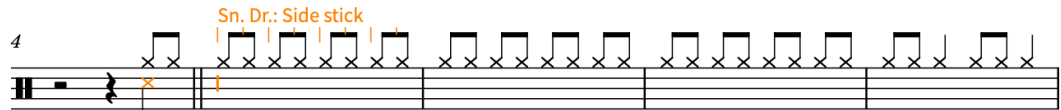


- ここでは一般的なスネアドラムの音符を入力しますが、この曲にはもっと繊細な音が適しています。一般に、無音程打楽器の演奏技法は異なる符頭で記譜されるため、音符の入力時に無音程打楽器の演奏技法を選択できます。

10. **[Alt/Opt]+[↑]** を押してサイドスティック奏法を選択します。

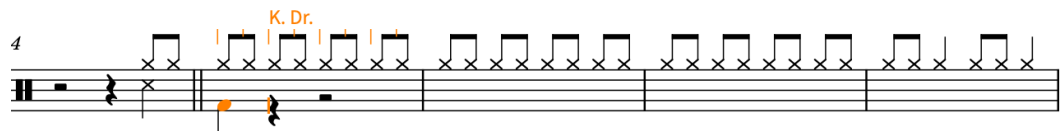


11. 4 分音符が選択されていることを確認したあと、**[Y]** を押します。



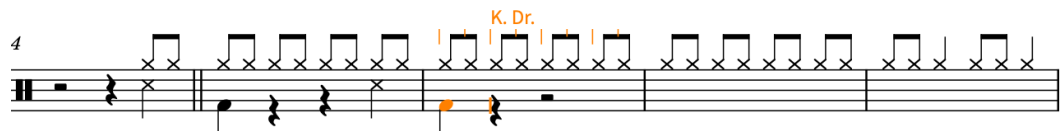
- Dorico のデフォルトのドラムセットには最も一般的な打楽器の演奏技法の符頭がすでに設定されているため、スネアドラムのサイドスティックの音符は X 形の符頭で表示されます。
- 引き続き矢印キーを使用してキット内の別のインストゥルメントを選択し、**[Y]** を押して音符を入力することもできますが、5 線譜表示を使用している場合は有音程譜表のように音符を入力することもできます。

12. **[F]** を押してキックドラムの音符を入力します。



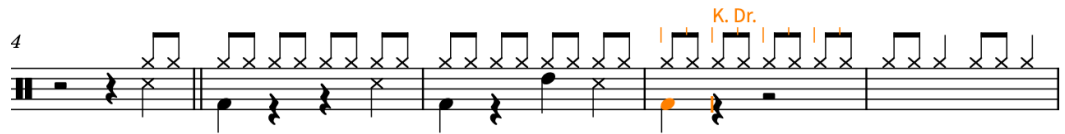
13. **[Space]** を 2 回押して、キャレットを 4 分音符 2 つ分進めます。

14. **[C]**、**[F]** の順に押して、スネアドラムの音符とキックドラムの音符をそれぞれ入力します。



- Dorico はスネアドラムで選択した以前のサイドスティック奏法を記憶しており、引き続きその演奏技法が使われます。
- 初期設定では、打楽器キットの 5 線譜はト音記号があるものとして扱われますが、「環境設定 (Preferences)」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[,]**) の「音符の入力と編集 (Note Input and Editing)」ページでこれをヘ音記号に変更することもできます。

15. **[Space]** を 1 回押したあと、**[Shift]+[Alt/Opt]+[D]** を押してトムトムの音符を入力し、**[C]**、**[F]** の順に押します。



16. **[Space]** を 2 回押し、**[C]**、**[F]** の順に押します。
17. **[Esc]** または **[Return]** を押して音符の入力を無効にします。

結果

スネアドラムの別の演奏技法を選択することも含め、スネアドラムセットのさまざまな打楽器の音符を入力しました。



手順終了後の項目

小節番号 5～8 を選択して **[R]** を押すと、これら 4 つの小節を抜粋の最後まで繰り返すことができます。また、かわりにこの 4 小節のフレーズを繰り返すようプレーヤーに指示する小節リピート領域を使用することもできます。その場合は、リピートのポップオーバー (**[Shift]+[R]**) に「%4」と入力します。

トレモロの追加

序奏の小節番号 8 と 12 では、ボーカルパートが小節の早い段階で終了します。スペースを少し埋めるために、ドラムセットパートにトレモロを追加できます。

手順

1. 小節番号 8 で、ドラムセット譜表の 4 分音符を選択します。



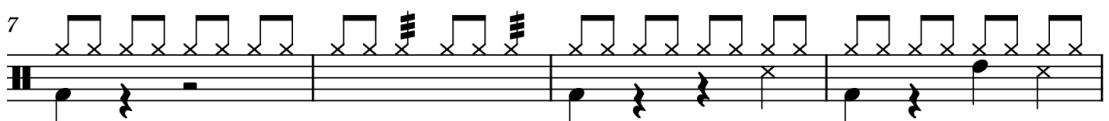
2. **[Shift]+[R]** を押してリピートのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「///」と入力します。




4. **[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

選択した音符に 3 ストロークの単音トレモロが入力されます。



ヒント

トレモロは、ウィンドウ右側の反復記号パネルを使用して追加することもできます。このパネルを表示するには、記譜ツールボックスで「反復記号 (Repeat Structures)」をクリックします。トレモロは、所定の時間内に音符を繰り返す必要があることを示しているため、反復記号パネルに含まれていません。

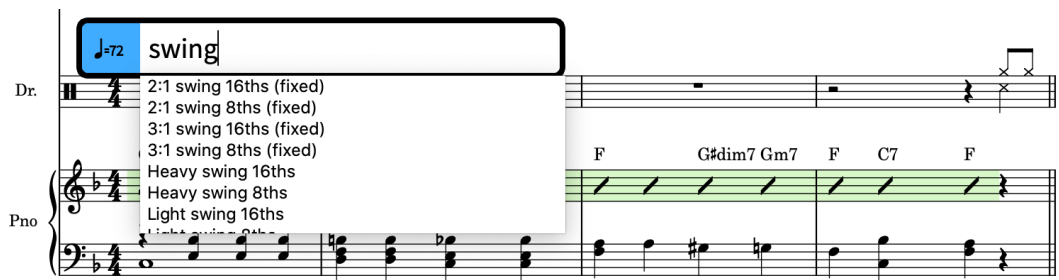
ドラムセットのスウィング再生の有効化

ドラムセットパートには、ブルースソング特有のスウィングで演奏できる 8 分音符が多く含まれていますが、この曲の他のパートはストレートで演奏します。Dorico では、他のパートに影響を与えずに、ドラムセットのみスウィング再生を有効にできます。

Dorico には、リズムフィールに分類されるスウィング比率がデフォルトで多数用意されています。

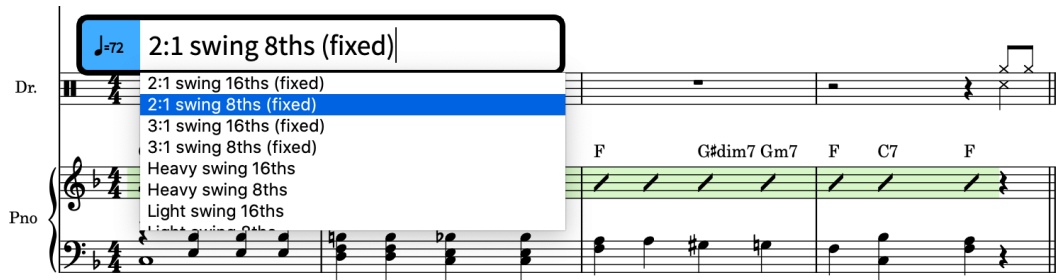
手順

1. 小節番号 1 で、ドラムセット譜表の小節休符を選択します。
2. **[Shift]+[T]** を押してテンポのポップオーバーを開きます。
3. ポップオーバーに「swing」と入力します。



- 演奏技法のポップオーバーと同様に、ポップオーバーに入力しはじめると、有効なリズムフィールを含むメニューが表示されます。

4. 「2:1 swing 8ths (fixed)」が選択されるまで **[↓]** を押します。



5. **[Alt/Opt]+[Return]** を押してポップオーバーを閉じます。

結果

ドラムセットパートにのみ、選択したスウィング比率のスウィング再生が入力されます。これは、ドラムセットの上にガイドとして表示されます。



ヒント

- **[Alt/Opt]** と **[Return]** を一緒に押すと、選択した譜表にのみリズムフィールドが適用されます。**[Return]** だけを押し、すべてのプレイヤーのスウィング再生が有効になります。また、**[Alt/Opt]+[Return]** を使用してポップオーバーを閉じ (または対応するパネルを使用しているときに **[Alt/Opt]** を押しながらクリックする)、拍子記号や調号といった声部や譜表に固有のその他の記譜記号を入力することもできます。
 - 「**ビュー (View)**」 > 「**ガイド (Signposts)**」メニューから、一部またはすべてのガイドの表示/非表示を切り替えることができます。
 - テンポのポップオーバーを使用して入力したリズムフィールドはそのフローの再生にのみ影響します。Dorico Pro をお使いの場合は、「**再生 (Play)**」 > 「**再生オプション (Playback Options)**」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[P]**) の「**タイミング (Timing)**」ページでプロジェクト全体のスウィング再生を有効にすることもできます。
-

フルスコアからドラムセットを削除する

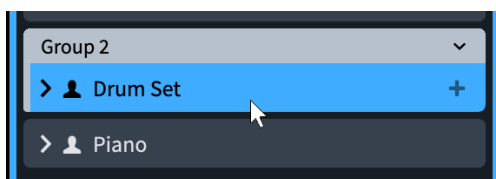
Dorico の強みの 1 つは、プレイヤー、レイアウト、フローの柔軟な関係性です。これを実証するために、元々曲に含まれていなかったドラムセットをフルスコアから削除し、プレイヤーとその楽譜は参照用にプロジェクトに残します。

前提条件

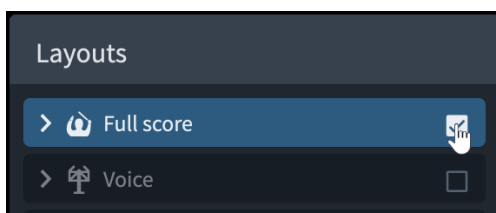
設定モードを開いておきます (**[Ctrl]/[command]+[1]** を押します)。

手順

1. 左側の「**プレイヤー (Players)**」パネルで、ドラムセットのプレイヤーカードを選択します。



2. 右側の「**レイアウト (Layouts)**」パネルで、「**フルスコア (Full score)**」レイアウトカードのチェックボックスをオフにします。



結果

フルスコアレイアウトからドラムセットプレイヤーが削除されます。「**レイアウト (Layouts)**」パネルでフルスコアレイアウトを選択すると、「**プレイヤー (Players)**」パネルではドラムセット以外のすべてのプレイヤーが、チェックボックスがオンになった状態で強調表示されます。




ヒント

Dorico では、プレーヤーを好きなように組み合わせることでいくつでも作成できるため、フルスコアレイアウトを2つ作成し、一方にはドラムセットを含め、もう一方には含めないということもできます。

パートレイアウトには、割り当てられたすべてのプレーヤーの名前が自動的に付けられます。初期設定では、パートレイアウトの最初のページの左上に表示されるのはプレーヤー名ではなくレイアウト名です。たとえば、1つのパートレイアウトに複数の打楽器プレーヤーを割り当て、そのレイアウトに「打楽器」という名前を付けたい場合など、「**レイアウト (Layouts)**」パネルでカードをダブルクリックするとレイアウト名を変更できます。

最後に

このガイドでは、Dorico で作業をする際の便利な方法をご紹介してきました。最後に、時間を有効に活用し、生産性を最大限に高めるためのヒントと、活用できるその他のリソースについてお伝えしたいと思います。

- ポップオーバーのエントリーやテキストトークンの PDF など、包括的なマニュアルは steinberg.help からダウンロードできます。一般的なキーボードショートカットのクイックリファレンスカードは [Dorico ブログ](#) で、ビデオチュートリアルは [Dorico YouTube チャンネル](#) で公開されています。また、[Dorico のリソースページ](#) には、公式リソースとサードパーティーリソース両方のリンクが掲載されています。
- Dorico Pro ユーザー向け: 「**浄書 (Engrave)**」 > 「**浄書オプション (Engraving Options)**」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[E]**) にあるオプションを確認してください。各記譜記号には多くのオプションが用意されています。たとえば、すべての演奏技法を譜表から離して表示したい場合や、すべてのテキストオブジェクトを譜表の近くに表示したい場合にはデフォルトの最小間隔を変更します。その他のオプションとしては、段階的強弱記号をデフォルトでヘアピンとして表示するか *cresc.* テキストとして表示するかといった、記譜記号の外観の変更などがあります。
- Dorico Pro ユーザー向け: 「**記譜 (Write)**」 > 「**記譜オプション (Notation Options)**」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[N]**) には、連桁グループ、音符をタイに分割する方法、声部列など、楽譜の記譜方法に関するデフォルト設定があります。
- ページサイズや小節番号の位置など、一般にレイアウトごとに異なるオプションは、すべての製品バージョンで利用できる「**設定 (Setup)**」 > 「**レイアウトオプション (Layout Options)**」 (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[Shift]+[L]**) で設定できます。
- 譜表間や組段間の間隔を調整する場合は、「**レイアウトオプション (Layout Options)**」にある垂直方向のスペーシングオプションを使用することを強くおすすめします。Dorico Pro ユーザーは浄書モードで譜表を手動で移動することもできますが、レイアウトの最初にタイトルページを追加するなど、元のページを変更すると、譜表のスペーシングの上書きが削除されることがあります。
- 特に Dorico Elements や Dorico SE では、プロジェクト情報を直接ページに入力しないようにしてください。なぜなら、「マスターページとトークン」で説明したように、この操作によってページの優先が設定されてしまうためです。タイトルや作曲者などの情報は、「**プロジェクト情報 (Project Info)**」ダイアログ (キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[I]**) で追加します。Dorico Pro をお使いの場合は、浄書モードでマスターページを編集するか新規に作成して、それらの情報を任意の場所に配置できます。
- 拍子記号を使用して、音符をタイのつながりや連桁にどのようにグループ化するかを設定できます。これを行なうには、拍子記号のポップオーバーに「**2+3+2/8**」のように拍のグループを入力します。拍子記号に拍のグループを表示しない場合は、「**[2+3+2]/8**」のように角括弧内に拍のグループを入力します。連桁を譜表ごとに手動で変更する必要がないため、拍子が不規則な楽譜で特定の連桁グループを使用する場合に非常に便利です。
- 特定のデュレーションで音符や休符を入力したい場合は、「**デュレーションを強制 (Force Duration)**」  (キーボードショートカット **[O]**) で Dorico の音符と休符のグループ化のデフォルト設定をオーバーライドできます。
- キャレットが有効なときに **[Shift]+[↑]** や **[Shift]+[↓]** を押すと、複数の譜表にキャレットを伸ばして、これらすべての譜表に音符や記譜記号を (対応するポップオーバーを使用して) 同時に入力できます。
- Dorico Pro ユーザー向け: 特定の記号を頻繁に使用する場合は、それらをカスタムの演奏技法やカスタムラインとして作成できます。

- 頻繁に実行する操作については、「**環境設定 (Preferences)**」(キーボードショートカット **[Ctrl]/[command]+[,]**) の「**キーボードショートカット (Key Commands)**」ページを確認してください。多くのオプションに独自のキーボードショートカットを割り当てることができます。
- その他のご質問やアドバイスについては、活発でフレンドリーな意見交換の場である [Dorico フォーラム](#)をご活用ください。

索引

数字

16 分音符 38, 44
2 番めの括弧 50
2 分音符 16
2 ページを 1 ページに集約 64, 83
3 連符と連符 38, 66, 105
32 分音符 44
4 分音符 18
5 連符 38
8 分音符 16

A

a tempo 34
accelerando 34, 51

G

grazioso 51

M

mezzo piano 29
MIDI キーボード 16, 92
MP3 ファイル 86

P

PDF ファイル 84
poco 34

R

ritenuto 34, 51, 79

V

VST インストゥルメント 74

W

WAV ファイル 86

あ

アーティキュレーション 31
アクセント 31
アチャカトゥーラ 41
アポジャトゥーラ 41
アルペジオ記号 33

い

移調 18, 43, 51
移動 51, 71, 108
 キャレット 23
 強弱記号 68, 71, 80
 スラー 69
 テンポ記号 80
 譜表 99
イベントディスプレイ 4, 73
印刷 83
 透かし 84
 プレビュー 4, 83, 84
印刷モード 6, 83, 84
インストゥルメント 10
 VST 74
 名前 57
インターフェース 4
インデント 57

う

ウィンドウ 4
上向きの符尾 23, 27, 44, 46, 65, 102

え

演奏技法 91, 102
延長 29, 50, 51, 80, 108

お

オーケストラの順番 99, 106
オーディオ
 書き出し 86
 出力 73, 75
オクターブ線 43
オフセット 63, 68, 69, 71, 88
音域 16, 18, 23, 41, 43, 51
音符
 演奏されるデュレーション 80
 音域 43
 書き換え 47
 キャレット 16, 18, 23, 38, 41
 グループ化 63, 66, 108
 スペーシング 63
 デュレーション 16, 18, 38, 51, 80
 トレモロ 104
 入力 16, 18, 23, 38, 41, 102
 符尾 65
 譜表をまたぐ 46
 臨時記号 21
 連桁 16, 63, 66, 108
 連符 38
音部記号 36, 51

音符の書き換え 47

か

開始

- 音符入力 16
- 装飾音符の入力そうしょく 41
- プロジェクト 9
- 連符の入力 38
- 和音の入力 18

開始ページ番号 64

ガイド 105

書き出し 84, 86

角度 69, 71

楽譜領域 4

歌詞 88

画像ファイル 84

括弧 50

カラー 84

間隔 71

- 音符のスペーシング 63
- 強弱記号 68, 71
- 再生 80
- 譜表 57, 62
- 連桁 63

き

キーボードショートカット 8, 51, 108

キックドラム 102

キット 99, 102, 105, 106

記譜モード 6, 12, 13, 16, 88

キャレット 16

- 移動 16, 18, 23, 51
- コード 18
- 声部 23
- 装飾音符 41
- 連符 38

休止 79, 80, 90

休符 16, 38, 44, 80, 90

強弱記号 29, 51

- 移動 51, 71, 80
- 整列 68
- ボリューム 76

曲の歌詞 88

切り替え

- モード 6
- レイアウト 4

く

グラフィックファイル 84

グループ

- 強弱記号 68
- プレーヤー 99
- 連桁 66, 108

こ

コード 18, 33, 36, 41

- 記号 92, 94, 98

5線のサイズ 61

コンソルディーノ 91

さ

最初の括弧 50

再生 73, 75, 76

- 音符のデュレーション 80
- スウィング 105
- テンプレート 74
- テンポ 75, 79
- ミュートしたサウンド 91
- リピート 50

再生ヘッド 73, 75, 76

再生モード 6, 73-75, 80

サウンド 73-75, 80

- ミュート 91

サウンドのロード 74

削除

- インストゥルメント名 57
- 休符 38
- 譜表 106
- 譜表ラベル 57
- フレーム 59
- フロータイトル 56
- レイアウト 11

作曲者 53, 55

冊子印刷 83

し

システムトラック 12

下向きの符尾 23, 27, 44, 46, 65, 102

シャープ 21

斜線のない装飾音符 41

斜体 48

浄書モード 6, 55, 59, 69, 71

小節 14, 15

- 番号 12
- リピート 97

小節線 14, 15, 50

衝突回避 62, 71

省略されたインストゥルメント名 57

白黒 84

親切臨時記号 21

す

垂直方向のスペーシング 58, 59, 61, 62, 64

スウィング再生 105

ズーム 13

透かし 84

スコア 11, 106

- 順番 99

スタッカート 31

ステータスバー 4, 73

スネアドラム 102

スペーシング 58, 59, 61-64

スラー 25, 69

スラッシュ 94

- 装飾音符 41
- トレモロ 104

せ

声部 23, 36, 38, 46, 48
スラッシュ 94
打楽器 99, 102
変更 51
設定モード 6, 9-11, 99, 106

そ

装飾音符 41
ソロプレイヤー 10

た

タイ 27
タイトル 53, 55, 56, 64, 73, 83
打楽器キット 99, 102, 105, 106
縦向き 83
タブ 4, 102
短縮 29, 51, 80, 94, 108

ち

調号 13, 15, 51
著作権 59

つ

追加（「入力」を参照してください）
ツールバー 4
ツールボックス 4

て

テキスト 48, 59
移動 51, 71
歌詞 88
透かし 84
タイトルと作曲者 53, 55, 56
フォントスタイル 55, 84
テヌート 31
手の指示記号 48
デュレーション 16, 18, 38, 44, 51, 102
再生 34, 79, 80
小節リピート記号 97
スラッシュ符頭 94
トレモロ 104
リズムグリッド 4, 73
点線
音符 16
ライン 34
テンプレート
再生 74
ページ 55
テンポ記号 34
移動 51, 80
再生 75, 79
スウィング再生 105

と

トークン 53, 55
ト音記号 36
トムトム 102
トラック 73, 76, 79, 80
ドラムセット 99, 102, 105, 106
ドラムロール 104
トレモロ 104

な

ナチュラル 21, 36, 44
波線 33

に

二重
小節線 15
フラット 47
入力 12, 88
アーティキュレーション 31
アルペジオ記号 33
オクターブ線 43
音符 16, 18, 23, 38, 41, 44, 102
音部記号 36
キャレット 16
休符 16
強弱記号 29
コード 18
コード記号 92, 98
小節 15
小節リピート記号 97
スラー 25
スラッシュ 94
声部 23
装飾音符 41
タイ 27
調号 13
テンポ記号 34
トレモロ 104
拍子記号 14
リピート 97
臨時記号 21
連符 16, 44
連符 38

は

パート 11, 106
配置 68, 88, 92, 108
配置設定 58, 61-63
バス記号 36
パネル 4, 13, 14, 29, 33, 34, 36, 43
速さ 34, 75, 79, 80
パラグラフスタイル 55
番号 14, 38, 50
フロー 55, 56
ページ 64
反転 48, 51, 65, 71
ハンドル 34, 59, 69

反復

括弧 50
小節 97
小節線 50
トレモロ 104

ひ

ピアノ

インストゥルメント 10, 57
強弱記号 29

左手 48, 64, 71
ピッチ 16, 18, 21, 51
ビデオ 73, 75

非表示

コード記号 98
パネル 4
譜表 106
譜表ラベル 57
フロー見出し 56

拍子記号 14, 66, 92

ふ

ファイル 7

印刷 83
書き出し 84, 86

フェルマータ 90
フォルテ 29
フォントスタイル 55, 84

符鉤（「ガイド」を参照してください）

部数 83

フック 43, 50
符尾 23, 46, 48, 65
オーディオ 86
スペーシング 63

譜表 16, 18, 23, 48, 51

インデント 57
コード記号 98
サイズ 61
順番 99
スペーシング 62, 63
非表示 106
フェルマータ 90
ラベル 57
連桁 46, 63

譜表の下 48

譜表をまたぐ連桁 46
フラット 21, 23, 36, 38
フルスコア 11, 106
順番 99

フレーズ記号（「スラー」を参照してください）

フレーム 55, 58, 59
プレーヤー 7, 10, 88, 99, 102, 105
グループ 99
コード記号 98
レイアウト 10, 11, 106

フロー 7

スウィング再生 105
タイトル 53, 55, 56, 73
番号 55, 56

プロジェクト 4, 7, 9, 53, 55, 88

プロパティ 4, 34, 38, 50, 71, 75, 79

へ

ヘアピン 29
移動 51, 71
整列 68

ページ

形式設定 53, 55-59, 61-64
サイズ 58
番号 64
余白 58, 59

ページの形式設定 53, 58, 61-64

ヘルプ 108

ベロシティー 76

ほ

方向

スラー 69
符尾 23, 65

保存

PDF ファイル 84
オーディオ 86

ボタン 4

ポップオーバー 12

演奏技法 91
音部記号とオクターブ線 36, 43
歌詞 88
強弱記号 29
コード記号 92
小節と小節線 15
装飾音 33
調号 13
テンポ 34
拍子記号 14
リピート 94, 97, 104
連符 38

ボリューム 76

ま

マスターページ 55, 59

マルカート 31

み

右手 48, 71
見出し 56
緑色のライン 73
見開き 83
ミュート 91

む

無音程打楽器 99, 102, 105, 106
向き 83

も

モード 6

ゆ

ユーザーインターフェース 4

よ

横向き 83
余白 58, 59

ら

ライン
アルペジオ記号 33
オクターブ線 43
歌詞 88
再生 73
テンポ記号 34
ペロシティー 76
リピート括弧 50

り

リードシート 88, 90, 92, 94, 97-99, 102, 105
リズム
グリッド 4, 16, 73
スラッシュ 94
フィール 105
丸 16
リセット
強弱記号 76
再生テンプレート 74
レイアウトオプション 53
両面印刷 83
臨時記号 21, 23, 36, 38, 44, 51
表記 47
臨時記号の表記 47

る

ルーラー 73, 76, 79, 80

れ

レイアウト 7, 10, 11, 53, 55
印刷 83
書き出し 84
セレクター 4, 102
名前 106
譜表の非表示 106
連桁
グループ化 66, 108
スペーシング 63
入力 16, 66
譜表をまたぐ 46, 63

ろ

ロール 33, 104